

IntelliTrax™



ソフトウェア使用説明書
バージョン 1.3



X-RITE ソフトウェアに対するライセンス契約書

この契約は、お客様（個人・法人を問いません）と X-RITE, INCORPORATED との間の契約です。

本ソフトウェアをインストール又は使用したことをもって、お客様はこの契約に同意したことになります。お客様がこの契約に同意できない場合には、X-RITE およびその供給者は、お客様の本製品に対するライセンス又は使用のいずれも許可できません。そのような場合、本ソフトウェアを全てのコンピュータから削除し、製品（印刷物、バインダ、その他一切のもの）を直ちに購入店に返品し、返金をお受け取りください。

定義

この契約書の「本ソフトウェア」とは、X-Rite が販売するソフトウェアおよび電子、デジタル、印刷された使用説明書などいかなる形式の付属品もあわせて意味するものです。「お客様」とは、この契約書に基づいたソフトウェアの使用権を購入したお客様が所属する企業、法人或いはお客様個人を意味します。

ソフトウェアの使用許諾

許可 X-Rite は、お客様の経営事業に関し、又本契約書で定められた権利および条件に基づいたオブジェクトコードフォーマットのみにおける本ソフトウェアの使用を、お客様に限られた非独占使用権として許諾します。お客様は、X-Rite より使用許諾を受けたライセンス数と同じ使用者数で本ソフトウェアを使用することができます。

コピーお客様は、非使用、バックアップ、保存用もしくは検査用の目的に限って本ソフトウェアのコピーを1部作成することができます。そのコピーは X-Rite に権利があります。お客様は本ソフトウェアに付属する印刷物のコピーを一切保持せず、本ソフトウェアかつその他の付属品から製品ラベルや商標シールをはがすこともできません。

制約条件お客様には、この契約で設定された制約以外に次の制約が適用されます。

- (a) 本ソフトウェア、複製物、改作物、転写物、組み合わせ（電子またその他一切の形式）をこの契約で許諾された状況以外に使用、修正もしくは配布できません。
- (b) この契約で許諾されていない限り、商業、サービスビューロー、その他の企業における第三者に利益を生み出す目的で本ソフトウェアを使用させることはできません。
- (c) 本ソフトウェアについて逆アセンブル、リバース・コンパイル、逆コンパイルもしくはリバース・エンジニアリングすることはできません。
- (d) お客様は、登録済みかつ実質的に作動する本ソフトウェアを恒久的に譲渡する場合を除き、X-Rite より提供されたいかなるシリアル番号も配布することはできません。

複製：実物宣伝用ソフトウェア本ソフトウェアが X-Rite の実物宣伝用ソフトウェアである場合（以降「デモ用ソフトウェア」と称す）、お客様は、次の条件に基づいて実物宣伝および評価の目的でデモ用ソフトウェアを使用することができます。

- (i) 見やすく適した個所に著作権および保証の放棄を表記する。
- (ii) この契約書に明記される全ての項目を変更せず参照し、如何なる保証もない。

(iii) デモ用ソフトウェアのインストラーを全ての付属品および印刷物と共に配布する。

(iv) デモ用ソフトウェアの受取人にこの契約書のコピーを渡す。

実物宣伝用ソフトウェアの転換本ソフトウェアがデモ用ソフトウェアである場合、お客様は X-Rite にライセンス費用を支払うことにより、デモ用ソフトウェアを実質的に作動するフル・バージョンに転換できるシリアル番号および承諾を得ることができます。デモ用ソフトウェアを他のいかなる方法により転換した場合、この契約に反することになります。本ソフトウェアをお客様以外のユーザーが同時に使用する場合は、そのユーザー数に応じた使用権の許諾を X-Rite から受ける必要があります。

所有権 X-Rite は、契約に示されたお客様に付与されていない全ての権利を保持します。ここにてお客様に付与された権利および所有権は本ソフトウェアに対して移管すること事はできません。

監査 X-Rite は、お客様の本ソフトウェアの使用を本契約書に基づいていつでも監査できる権利を保持します。お客様の使用場所で監査を行う場合、X-Rite はお客様の営業時間内に監査を行うことを 10 日前までに書面にて提出します。

機能の抑制お客様は、本ソフトウェアの評価期間の終了後、又はこの契約に対する違反行為が見られた時点で、本ソフトウェアの機能を無効にし、データのアクセスを防ぐ仕組みが稼動することを了承して頂きます。

バージョン・アップ

本ソフトウェアがバージョン・アップされている場合、この契約に基づいて本ソフトウェアを使用することができます。本ソフトウェアが1つの製品としてお客様に承諾されているソフトウェア・プログラムの一部のバージョン・アップである場合、ライセンス契約を所有する同製品として使用および譲渡できますが、分離して1つ以上のコンピュータに使用することはできません。本ソフトウェアを恒久的に譲渡されない限り、お客様はバージョン・アップ以前のバージョンを賃貸、レンタル、リース、譲渡することはできません。

プロファイルの使用

定義この契約書の「プロファイル」とは入力、ディスプレイおよび出力機器を特徴付けるための参照テーブルに保存されたデータを意味します。プロファイルは明確な色彩変化の出力、機器の特徴付けおよびキャリブレーションに使用されます。

一般本ソフトウェアで作成されたプロファイルは、以下の制約条件に基づいて非独占使用権を含むものとします。

制約条件

(a) 各プロファイルはお客様が所有する入力、ディスプレイおよび出力機器に作成された機器のみに対して使用できます。

(b) プロファイルはブルーフィングの目的で第三者に使用させることができます。その際プロファイルは、

- (i) 画像又は出版物に埋め込まれていること。
- (ii) 画像又は出版物の使用に限りサービス供給者に譲渡されること。

(c) お客様がプロファイリング作業の委託のみを目的に作成したプロファイルは、第三者が所有する特定のディスプレイ、入力もしくは出力機器に使用できます。

(d) この契約書に明記されていない限り、お客様又はいかなる第三者も下記を行うことはできません。

- (i) 第三者から利益を得て、もしくは無償でプロファイルを販売、ライセンス契約、サブライセンス契約、リース、賃貸、発表、アクセス許可又は譲渡する。
- (ii) 第三者にプロファイルを使用させる。
- (iii) ネットワーク、電子掲示板、ウェブサイトを含む如何なる形式によりプロファイルを第三者に配布する。X-Rite は、お客様に配布の権限を別途の契約書に承諾することができます。

複数環境ソフトウェア

本ソフトウェア パッケージを購入時に、2つ以上のオペレーティング システム (Macintosh、Windows 等)、2 言語以上のバージョン、2 種類以上の媒体 (フロッピーディスクと CD-ROM 等)、或いは2つ以上のソフトウェアが含まれていた場合、全ソフトウェア バージョンは上記で記載されたように特定の1台のコンピュータだけにご使用いただけます。恒久的に譲渡されない限り、お客様は、残りの媒体をリース、賃貸、レンタル、譲渡することはできません。

保証規定

本ソフトウェア (デモ用ソフトウェアを除く) および印刷物の保証期間は、お客様が X-Rite から本ソフトウェアを直接お受け取りになった場合、お買い上げ後 90 日間といたします。X-Rite は、お客様より保証期間内に書面における通知および本ソフトウェアが領収書と共に X-Rite に返品された場合、不都合に対する修補もしくは交換を無償にて行います。この保証規定は、お客様が本ソフトウェアの印刷物に説明された操作手順に従うことを条件とします。お客様が本ソフトウェアに対して変更、誤用、損害を与えた場合、X-Rite は本ソフトウェアに生じる不適合もしくは欠陥に関する修正、改善、修復する義務を負いません。米国外においては、正式に認可されている非米国業者から購入の証明なしではこれらの保証は適用しません。

全てのデモ用ソフトウェアへの保証は一切いたしません。

免責条項

X-Rite は上記の保証規定を除き、本ソフトウェア、印刷物、付属ハードウェアから生ずる、市販性、特定の目的に対する適合性、権利および無違反性を含むいかなる状況に関して、明示すると黙示たるとを問わず一切責任を負わないものとします。

責任制限

X-Rite 又はその供給者は、例え損害の可能性について知らされていた場合でも、本ソフトウェアの使用又は使用不能から生ずるいかなる派生的損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失又はその他の金銭的損害に対する特別、直接、間接な損害を含むがこれらに限定されない)に関して一切責任を負わないものとします。いかなる場合においても、この契約の条項に基づくX-Rite の責任は、本ソフトウェアについてお客様が実際にお支払い頂いた金額を上限とします。重大又は派生的損害への責任制限を許可しない米国州又は国では、上記の制約は適用しない場合があります。

移管/制限

この契約書はお客様のみが留保する権利を証明するものです。お客様が本ソフトウェアの全ての複製物および付属品を保持せず且つ譲受人がこの契約の条項に同意した場合に限り、ソフトウェアおよび付属品を恒久的に譲渡することができます。本ソフトウェアがバージョン・アップされている場合において譲渡する場合には、バージョン・アップ版および以前のバージョンの一切も併せて譲渡されなければなりません。保証およびサービス権利は移管できません。譲受人はX-Rite 又はX-Rite のサービスセンターへこれらの権利を要求することはできません。

お客様は移管時の費用を請求、又はX-Rite より書面にて許諾された場合に限り製品保証の権利を売り渡すことができます。

お客様は、ここに承諾された権利以外の制約を譲受人に課することはできません。

米国政府の制限権利

本ソフトウェアおよび印刷物は制限権利に従って提供されています。米国政府による使用、複製、開示は、DFARS252.227-7013 における(技術データおよびコンピュータ・ソフトウェアについての権利) 条項の第(c) (1) (ii) 号、又は48CFR 52.227-19 における(民生用コンピュータ・ソフトウェア- 制限付権利) 条項の第(c) (1) (2) 号の制限に服するものです。

本製品を米国でお買い上げになられた際は、ミシガン州立法に準拠するものといたします。

本契約書に関しご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。

X-Rite, Incorporated - 3100 44th Street, S.W. - Grandville, MI 49418 - Tel (616) 534-7663 - Fax (616) 534-2513

目次

紹介	1
データベース管理ツール	1
システム設定ツール	1
基準値ライブラリ エディタ	2
基準値エディタ	2
印刷機条件の設定エディタ	2
カラーバー エディタ	2
プロファイルターゲット エディタ	2
プロジェクトテンプレート エディタ	2
ローカルコンピュータ設定ツール	2
プレスツール	3
レポートツール	3
データベース管理ツール	5
ホーム	5
システム データベースに接続するには、	6
データベースをリモート ファイルにバックアップするには、	6
リモートファイルからデータベースを復元するには、	6
ユーザーログイン アクセスを管理するには、	6
プロジェクト テンプレートまたはジョブを削除するには、	7
ジョブを書き出すには、	7
ジョブを読み込むには、	7
アーカイブ	8
ファイルのアーカイブを実行後、最適化するには、	8
自動アーカイブ機能を計画するには、	8
データベースの詳細情報	9
ローカルコンピュータ設定ツール	11
ホーム	11
一般	12
ΔE	12
マイナス用紙のモード（相対濃度）を使用	12
バキューム停止	12
表示グラフ数	13
スキャニング装置のキャリブレーション	13
表示/非表示	13

濃度	13
ヒューエラー	13
ドットゲイン	14
トラッピング	14
グレーバランス	14
プリントコントラスト	14
ΔE (色差)	14
ブライトネス	15
測定後処理	15
SDF ファイルを作成	15
SVF ファイルを作成	16
TVF ファイルを作成	16
データベースとキーボード	16
データベース	16
キーボード	16
システム設定ツール	17
測定条件	18
測定条件：濃度ステータス	18
測定条件：光源/視野	18
許容値	19
アミ点/グレーバランス	20
システムのアミ点	20
グレーバランス	20
基準値ライブラリ エディタ	21
ホーム	22
基準値ライブラリ リストボックス	22
新規作成	22
削除	22
名称変更	22
基準値エディタ	23
ホーム	24
基準値ライブラリ リストボックス	24
基準名リストボックス	24
新規作成	24
削除	24
名称変更	24
複製	25
編集	25

読み込み	25
書き出し	25
ハンドヘルドの接続	25
基準値を選択	26
インキ	26
用紙	27
2色オーバープリント	27
3色オーバープリント	27
グレーバランス (1、2、3)	27
次へ	27
基準値名を入力	27
名称	27
L*a*b* 値を入力	28
次へ	28
名称	28
測定を実行	28
カラー	28
濃度	28
次へ	28
インキ選択	28
インキユニット	29
基準名リストボックス	29
次へ	29
インキ基準値の編集	29
円 / 名前	29
ベタ基準値 / 許容値テーブル	29
アミ点基準値 / 許容値テーブル	30
フィルタ	30
保存	30
用紙基準値の編集	30
円 / 名前	30
用紙の基準値 / 許容値	30
フィルタ	31
保存	31
オーバープリント基準値の編集	31
円 / 名前	31
オーバープリントの基準値 / 許容値	31
フィルタ	31
保存	32
グレーバランス基準値の編集	32

円 / 名前.....	32
グレーバランスの基準値 / 許容値	32
フィルタ.....	32
保存	33
印刷機条件の設定エディタ.....	35
ホーム	36
印刷機リストボックス.....	36
新規作成.....	36
削除	36
名称変更.....	36
複製	36
編集	36
読み込み.....	37
書き出し.....	37
作成：印刷機条件の設定	37
名称	37
片面印刷機	37
反転式両面印刷機（オモテ後刷）	37
反転式両面印刷機（オモテ先刷）	37
非反転式.....	37
インキュユニット数	38
次へ	38
印刷機条件の編集.....	38
名称	38
総インキュユニット数	38
インキツボ キー数	38
インキツボ キー幅	38
インキ グラフィック表示.....	38
カラーバー エディタ.....	41
ホーム	42
カラーバー リストボックス.....	42
新規作成.....	42
削除	42
名称変更.....	42
複製	42
編集	42
読み込み.....	43
書き出し.....	43
カラーバーの必要条件	43
カラーバーの必要条件.....	43

並べ方の条件.....	44
用紙条件.....	45
作成：カラーバー.....	45
名称.....	46
カラーバーの高さ.....	46
標準パッチ幅.....	46
次へ.....	46
複製：カラーバー.....	46
名称.....	46
カラーバーの反転.....	46
複製.....	46
カラーバーの編集.....	47
コントロールの説明.....	47
カラーバーの編集領域.....	47
パッチタイプ.....	47
アミ点.....	48
インキ.....	48
インキの変更.....	48
カラーバーの名称.....	48
現在のパッチ.....	48
カラーバー パラメーター.....	49
挿入.....	49
削除.....	49
リピートを作成.....	49
リピートを追加.....	49
保存.....	49
手順.....	49
パッチを挿入するには.....	49
カラーバー上の色を編集するには.....	50
リピートを作成するには、.....	50
インキの選択.....	50
インキ.....	50
ライブラリ リストボックス.....	50
インキ リストボックス.....	50
保存.....	51
プロファイルターゲット エディタ.....	53
ホーム.....	54
プロファイルターゲット リストボックス.....	54
新規作成.....	54
削除.....	54

名称変更	54
複製	54
編集	54
読み込み	55
書き出し	55
作成：ターゲットの設定：最初の画面	55
プロファイルターゲット名	55
プリンタ タイプのリストボックス	55
スクランブルパッチを使用	56
次へ	56
作成：プロファイルターゲット：2番目の画面	56
プレインキ量制限	56
品質リストボックス	56
出力ターゲット幅	57
アパーチャー (測定径) サイズ	57
保存	57
インキの選択	57
インキ	57
ライブラリ リストボックス	57
インキ リストボックス	57
インキ削除ボタン	58
保存	58
プロジェクトテンプレート エディタ	59
ホーム	60
プロジェクト テンプレート リストボックス	60
新規作成	60
削除	60
名称変更	60
複製	60
編集	60
読み込み	61
書き出し	61
プロジェクトテンプレートの編集	61
名称	61
濃度ステータス	61
光源/視野	61
印刷機リストボックス	61
オモテ面/ウラ面タブ	62
唾え/紙尻	62
カラーバー リストボックス	62

用紙.....	62
インキ.....	62
許容値係数.....	62
プロファイルの作成.....	63
保存.....	63
用紙選択.....	63
用紙色ライブラリ.....	63
用紙色.....	63
用紙色見本.....	63
ライブラリ リストボックス.....	63
用紙リストボックス.....	64
保存.....	64
インキの選択.....	64
インキ.....	64
ライブラリ リストボックス.....	64
インキ リストボックス.....	65
保存.....	65
プロファイルターゲット.....	65
プロファイルターゲット リストボックス.....	65
プロファイルを無効にする.....	65
次へ.....	66
プロファイル作成条件の設定.....	66
詳細設定.....	66
保存.....	66
プロファイル オプション タブ.....	66
出力ファイルオプション タブ.....	66
システム オプション タブ.....	67
詳細設定.....	68
OK.....	68
インキ制御オプション タブ.....	68
テーブル設定タブ.....	69
ローカルコンピュータ設定ツール.....	71
一般.....	72
ΔE	72
マイナス用紙のモード（相対濃度）を使用.....	72
バキューム停止.....	72
表示グラフ数.....	73
スキャニング装置のキャリブレーション.....	73
表示/非表示.....	73

濃度	73
ヒューエラー	73
ドットゲイン	74
トラッピング	74
グレーネス	74
グレーバランス	74
プリントコントラスト	74
ΔE (色差)	74
ブライトネス	74
測定後処理	75
SDF ファイルを作成	75
SVF ファイルを作成	75
TVF ファイルを作成	75
データベースとキーボード	76
データベース	76
キーボード	76
プレスツール	77
プレスツールの起動方法	78
プレスツールの 3 種類のヘルプ	78
プレスツールのヘルプ内の移動	78
概要	79
トッパー	79
ボトムバー	79
データ表示領域	79
トッパーの概要	80
トッパー：左	80
トッパー：右	80
トッパーの概要：左	80
ジョブ情報	80
印刷機 / インキ	81
カラーバー	81
基準値と許容値	81
シート情報	81
トッパーの概要：右	82
右バーに移動	82
メイクレディ / 本刷り	82
値	82
差分値 / 実測値	82
ベタ濃度	83
アミ点	83

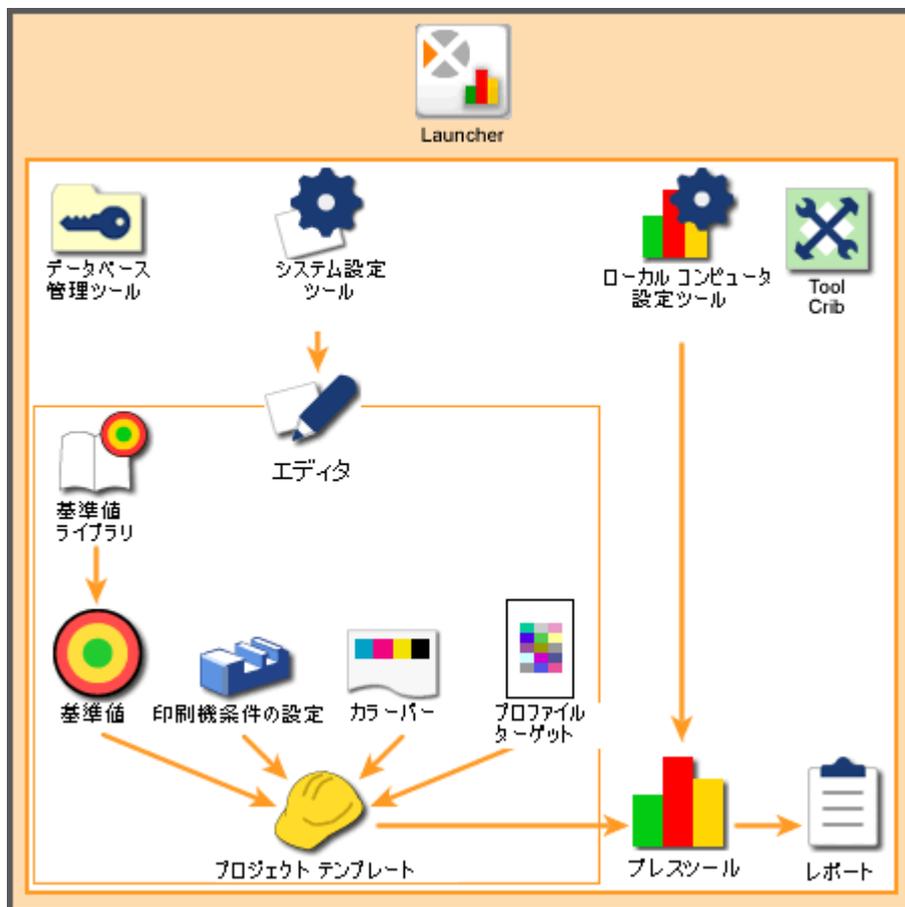
トラッピング.....	83
その他.....	83
オプション.....	84
ヘルプ.....	84
終了.....	84
キーの管理.....	85
インキの選択ボタン.....	85
キー編集領域.....	85
今後の測定に変更を適用する.....	85
使用.....	85
停止.....	85
停止キー全てに 選択インキを使用.....	86
OK.....	86
ボトムバーの概要.....	86
OK シートに指定.....	86
測定シート情報.....	86
用紙 # の # :.....	87
測定.....	88
オモテ面 / ウラ面.....	88
プロファイル.....	88
ハンドヘルドの接続.....	88
装置の接続.....	89
ページ.....	90
プロファイル.....	90
プロファイル生成手順.....	91
プロファイル画面のコントロールの説明.....	91
測定情報.....	92
自動スケール.....	93
基準色の自動設定.....	93
基準色に登録.....	93
基準色のコピー.....	93
基準色のクリア.....	93
サンプル色のコピー.....	93
データ表示領域の概要.....	93
コントロール.....	94
インキ.....	94
機能.....	95
△E (色差の詳細).....	96
L*a*b* グラフ.....	96
L*a*b* スライド.....	97
キー詳細情報.....	97

基準値 / 実測値 / 差分値テーブル	97
キー ボタン	97
印刷	97
手順	97
新規ジョブの手順	98
ジョブの再実行手順	98
既存ジョブの続行手順	99
画面のヘルプ	100
ジョブ情報	100
印刷機 / インキ	100
カラーバー	100
基準値と許容値	100
シート情報	100
キーの管理	100
ジョブ情報	100
新規ジョブ	101
ジョブを再実行	101
ジョブを続行	101
新規 JDF ジョブ	101
リストボックス	101
印刷機 / インキ	102
印刷機条件の設定	102
インキ	102
インキ制御ボタン	102
ライブラリ	103
インキ	103
保存	103
保存後、基準値を確認	103
カラーバー	103
カラーバー	104
位置	104
リセット	104
測定時に自動トラッキング機能を OFF にする	104
パッチの管理	105
保存	105
基準値と許容値	105
基準値ライブラリ インキ	105
パッチタイプ	106
基準値：許容値テーブル	106
許容値係数	106

シート情報	106
用紙名	107
ライブラリ	107
用紙	107
用紙位置	107
リセット	108
保存	108
インキ基準値エディタ	108
円 / 名前	108
ベタ基準値 / 許容値テーブル	108
アミ点基準値 / 許容値テーブル	108
フィルタ	109
保存	109
用紙基準値エディタ	109
円 / 名前	109
用紙の基準値 / 許容値	109
フィルタ	109
保存	109
オーバープリント基準値エディタ	110
円 / 名前	110
ベタ基準値 / 許容値テーブル	110
フィルタ	110
保存	110
グレーバランス基準値エディタ	110
円 / 名前	111
ベタ基準値 / 許容値テーブル	111
フィルタ	111
保存	111
レポートツール	113
ホーム	114
レポートツールの起動方法	114
レポートツールの使用方法	114
レポートツールのオプション	115
データタイプ	115
シート番号	115
ブラウザでファイルを開く	115
レポートを作成	エラー! ブックマークが定義されていません。
用語集	117

紹介

本説明書は、IntelliTrax のオンラインヘルプを参考に作成したものです。各ツールの機能を詳しく説明しています。



スキャニング システムの概要

データベース管理ツール

データベース管理ツールでは、システム データベースへの接続、データベースのバックアップと復元、データベース内のプロジェクトテンプレートおよびジョブへのユーザアクセスの管理、ジョブの読み込み/書き出し、削除を行うことができます。

システム設定ツール

システム設定ツールでは、システムのデフォルトとなる測定条件、許容値、アミ点の掛け合わせを設定します。これらの設定はエディタツールでプロジェクトテンプレートを作成する際デフォルト値に用いられます。

基準値ライブラリ エディタ

基準値ライブラリ エディタでは、基準値ライブラリの新規作成、名称変更、システムからの基準値ライブラリの削除を行うことができます。

基準値エディタ

基準値 エディタでは、基準値の編集、新規作成、複製、読み込み / 書き出し、システムからの削除を行うことができます。

印刷機条件の設定エディタ

印刷機条件の設定エディタでは、印刷機タイプの編集、作成、複製、読み込み/書き出し、削除を行うことができます。

カラーバー エディタ

カラーバー エディタでは、カラーバーの編集、作成、複製、読み込み / 書き出し、削除を行うことができます。カラーバー エディタを使用して、印刷に使用する実際のカラーバーを反映したカラーバーのデザインを設定することができます。

プロファイルターゲット エディタ

プロファイル ターゲット エディタでは、プロファイル ターゲットの編集、作成、複製、読み込み / 書き出し、削除を行うことができます。

プロジェクトテンプレート エディタ

プロジェクト テンプレート エディタでは、プロジェクト テンプレートの編集、作成、複製、読み込み / 書き出し、削除を行うことができます。プロジェクト テンプレートにより、ジョブで使用される印刷機、カラーバー、用紙、インキ、プロファイルが定義されます。プレスツールの使用時にプロジェクト テンプレートを 1つ選択することで、ジョブをすばやく作成することができます。

ローカルコンピュータ設定ツール

ローカルコンピュータ設定ツールを使用して、プレスツールのデフォルトの機能と設定を定義することができます。

プレスツール

プレスツールでは、分光測色計を使用して、印刷用紙上のカラーバーを測定し、測定データを表示します。それぞれのジョブごとに、濃度値やドットゲインなどの多くのデータ項目について基準値と許容値が事前に定義されています。プレスツールでは、印刷物がこれらの基準値に対してどの程度近いかを表示します。

レポートツール

レポートツールを使用して、プレスツールで測定されたジョブのレポートを作成することができます。レポートは、ジョブ全体について、あるいはそれぞれのシートについて作成できます。

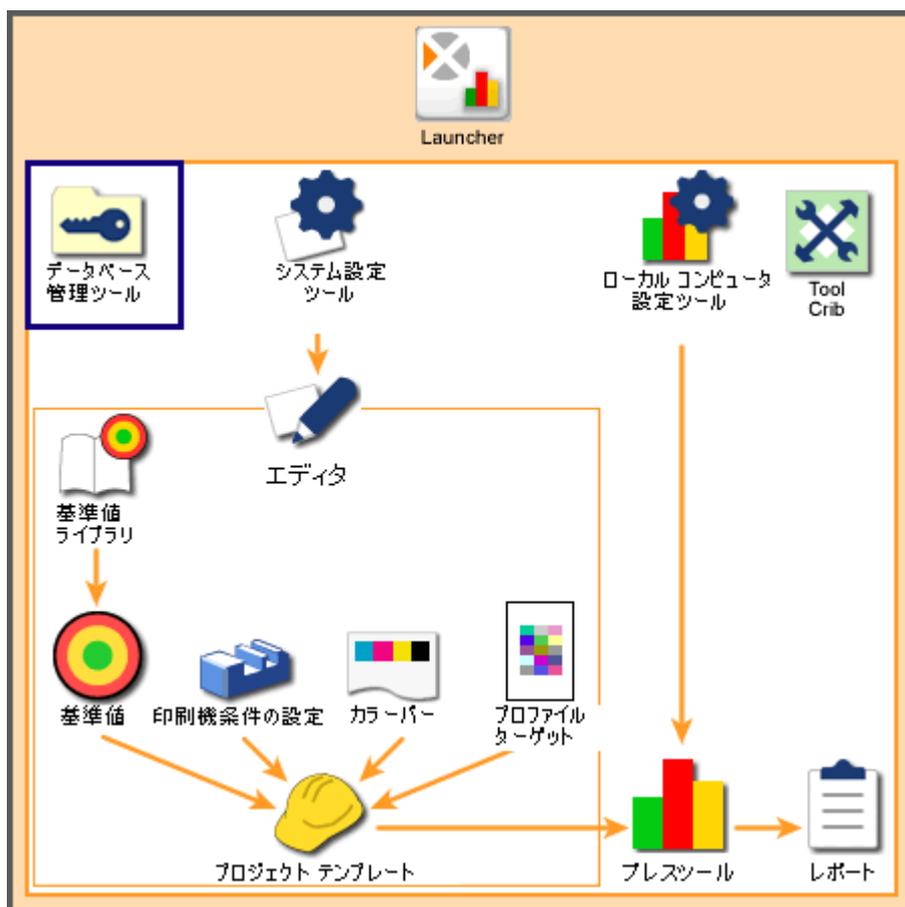
レポートは、スキャニング装置によって測定されたカラーバーデータをレポート形式にまとめたものです。レポートは HTML 形式で作成され、インターネットエクスプローラや他のウェブブラウザで見ることができます。

データベース管理ツール

ホーム

データベース管理ツールでは、システム データベースへの接続、データベースのバックアップと復元、アーカイブの実行、データベース内のプロジェクトテンプレートおよびジョブへのユーザアクセスの管理、ジョブの読み込み/書き出し、削除を行うことができます。

データベース管理ツールを起動するには、ランチャー (Launcher) を起動し、[データベース管理ツール] ボタンをタッチします。



スキャニング システムの概要：データベース管理ツール

システム データベースに接続するには、

1. システム サーバの名前が [サーバー名] 欄にない場合は、ドロップダウン矢印ボタンをタッチして、リストから名前を選択します。
注記：デフォルトの名前は「local」です。コンピュータの名前を選択せずにコンピュータ上のデータベースに接続する場合は、このデフォルトを使用してください。
2. [サーバー検索] をタッチします。[MS SQL インスタンス] 欄に、現在の SQL データベースのインスタンスが表示されます。
3. もし [MS SQL インスタンス] 欄にない場合は、ドロップダウン矢印ボタンをタッチして、リストから名前を選択します。*注記*：「ASTII」というデータベース名を選択する必要があります。
4. [接続] をタッチします。選択したデータベースのパスワードを求めるダイアログボックスが表示されます。
5. パスワードを入力し、[確認] をタッチします。データベース管理ツールがデータベースのインスタンスに接続されます。

データベースをリモート ファイルにバックアップするには、

1. データベースに接続します。
2. 既存のバックアップファイルを上書きする場合は、[リモート ファイル] 欄のドロップダウン矢印ボタンをタッチし、ファイル名を選択します。上書きしない場合は、現在のファイル名を選択して、新しい名前を入力します。
注記：このファイル名には必ず拡張子「.bak」を付けてください。
3. [バックアップ] をタッチします。データベースのバックアップが正しく行われたことを伝えるメッセージが表示されます。
4. [OK] をタッチします。

リモートファイルからデータベースを復元するには、

1. データベースに接続します。
2. 必要なファイルが [サーバ上のリモートファイル] 欄にない場合は、ドロップダウン矢印ボタンをタッチして、リストからファイル名を選択します。
注記：[サーバ上のリモートファイル] 欄には、有効な復元名は自動的に表示されません。
3. [復元] をタッチします。データベースの復元が正しく行われたことを伝えるメッセージが表示されます。
4. [OK] をタッチします。

ユーザーログイン アクセスを管理するには、

1. データベースに接続します。
2. [ユーザー管理] エリアで、[更新] をタッチします。Windows ログイン名のリストが [NT ユーザー] 欄に表示されます。

3. ユーザーを追加するには、ユーザー名を選択して [追加] をタッチします。選択した名前が [データベースへのログイン] 欄に表示されます。これで追加したユーザーがデータベースにログインできるようになります。
4. ユーザーを削除するには、[データベースへのログイン] 欄内で名前を選択し、[削除] をタッチします。[データベースへのログイン] 欄から、選択したユーザー名が削除されます。

プロジェクト テンプレートまたはジョブを削除するには、

1. データベースに接続します。
2. [ジョブ管理] エリアで、[更新] をタッチします。プロジェクトテンプレートのリストが [プロジェクトテンプレート] ボックス内に表示されます。選択したプロジェクトに属するジョブのリストが [ジョブ] ボックス内に表示されます。
3. プロジェクト テンプレートまたは個々のジョブを削除するには、
 - 1 つまたは複数のプロジェクトと、それに属する現在のジョブを削除するには、プロジェクトを選択して、[プロジェクト] ボックス右の [削除] ボタンを選択します。削除を確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] をタッチします。
 - ジョブだけを削除するには、プロジェクトテンプレートを選択してから、削除したいジョブを選択します。[ジョブ] ボックス右の [削除] ボタンをタッチします。削除を確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] をタッチします。

ジョブを書き出すには、

1. データベースに接続します。
2. [ジョブ管理] エリアで、[更新] をタッチします。プロジェクトテンプレートのリストが [プロジェクトテンプレート] ボックス内に表示されます。選択したプロジェクトに属するジョブのリストが [ジョブ] ボックス内に表示されます。
3. プロジェクト テンプレートを選択し、書き出したいジョブを選択します。
4. [書き出し] をタッチします。削除を確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] をタッチします。Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。
5. ファイルの名前を入力して [保存] をタッチすると、そのファイルへの書き込みが行われます。書き出しを確認するメッセージが表示されます。[OK] をタッチします。

ジョブを読み込むには、

1. データベースに接続します。
2. [ジョブ管理] エリアで、[更新] をタッチします。プロジェクトテンプレートのリストが [プロジェクトテンプレート] ボックス内に表示されます。選択したプロジェクトに属するジョブのリストが [ジョブ] ボックス内に表示されます。
3. [読み込み] をタッチします。Windows ダイアログボックスが表示され、ここでジョブ (.job) ファイルの場所を参照し、選択することができます。
4. [開く] をタッチすると、選択したファイルが読み込まれます。そのジョブが既にシステムに存在する場合は、メッセージが表示されます。[OK] をタッチします。

アーカイブ

データベース管理ができるアーカイブ画面では、OK シート以外のアーカイブを実行後、データベースを最適化したり、自動でアーカイブを実行するための設定を行うことができます。

アーカイブ画面を開くには、[データベース管理ツール] から [アーカイブ] をタッチします。

ファイルのアーカイブを実行後、最適化するには、

1. [シートのアーカイブを実行後、最適化する] ボタンをタッチします。
2. ウィンドウが開いたら、OK シート以外のすべてのシートのアーカイブを実行する一定の期間を月数で設定します。
3. [はい] をタッチすると、データベースのアーカイブ バックアップが作成され、設定した期間より古いジョブのシートデータが最適化されます。
4. [アーカイブを実行中] が表示されます。アーカイブ作業は、データベースのサイズにより時間がかかることがあります。
5. アーカイブ終了後 [OK] をタッチして画面を閉じます。

自動アーカイブ機能を計画するには、

1. [データベースのみを自動アーカイブおよび最適化する] または [OK シート以外を自動でアーカイブ実行し、データベースを最適化する] を選択します。
2. [OK シート以外を自動でアーカイブ実行し、データベースを最適化する] を選択した場合、[次の期間より古い OK シート以外のアーカイブを実行する] 欄に、一定の期間を月数で設定します。
3. [次の期間ごとにアーカイブを実行] を月数で設定します。
4. 下の矢印をタッチして [アーカイブ開始日] から日付を選択します。矢印を使用してカレンダー内を移動します。
5. [アーカイブ開始時間] のフィールドで時間を設定します。
6. [保存] をタッチして画面を閉じます。

アーカイブ画面では、最近アーカイブが実行された日時、次に予定されているアーカイブの実行日、アーカイブが保存されているフォルダも表示されます。アーカイブが実行された日時がバックアップファイル名に使用されます。

データベースの詳細情報

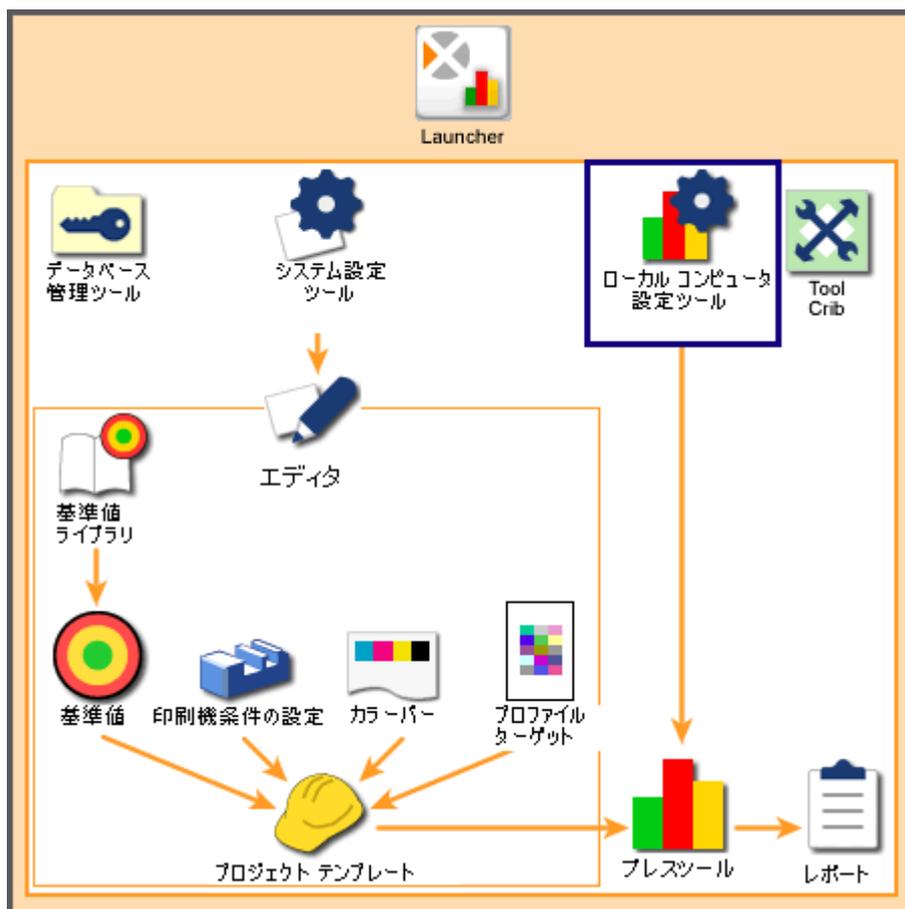
スキャニング システムには SQL サーバの無償バージョンが含まれていますが、このバージョンには制約があります。MSDE 1.0 制限に関しては下記をご参照ください。

- MSDE 1.0 データベースに保存できるデータ容量は 2GB までに制限されています。この制限はサーバごとではなく、データベースごとに適用されるため、1 台の MSDE サーバで最大 2GB の容量をもつ複数の MSDE データベースがサポートされます。データベースのサイズが 2GB を超える可能性がある場合は、より拡張性の高い Microsoft SQL Server 2000 Standard Edition へのアップグレードをお勧めします。
- MSDE 1.0 は、同時に発生するデータベースのタスクが 5 個未満のデスクトップおよび共有ソリューション向けに設計されています。5 個以上の同時バッチ処理をサポートする必要がある場合、最適なパフォーマンスを実現するためには拡張性の高い SQL Server または SQL Server Enterprise エディションへの移行が必要です。

ローカルコンピュータ設定ツール

ホーム

ローカルコンピュータ設定ツールを使用して、プレスツールのデフォルトの機能と設定を定義することができます。ローカルコンピュータ設定ツールを起動するには、ランチャー (Launcher) を起動し、[ローカルコンピュータ設定ツール] ボタンをタッチします。パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。



スキャニング システムの概要：ローカルコンピュータ設定ツール

注記：ローカルコンピュータ設定ツールで行った変更は、プレスツールが起動されるまで有効になりません。プレスツールを実行している場合は、プレスツールを再起動する必要があります。

一般

[一般] タブでは、 ΔE 、マイナス用紙モードの演算方法やバキュームポンプの停止設定、キャリブレーションの実行に関する設定などを行います。このタブには次のエリアがあります。

ΔE

欄をタッチして、総合色差の計算に使用する色差式を選択します。 ΔE は、特定条件下における 2つの 色の差の大きさと特性を表します。各色差式は、独自の知覚的な色差グレードおよび設定された特性における ΔE 許容範囲が求められます。

- CIE94 : CIE1976L*a*b* 表色系の明度、彩度、色相(L*C*h) をマンセル表色系を見たときの人間の知覚に合わせて補正した色差の計算方法です。
- CIE2000 : CIE94 のアップデートバージョンです。
- CMC : CIE1976L*a*b* 表色系において、明度、彩度、色相に各補正を行い、無彩色、鮮明色でも等間隔での差分表示を行おうと試みた色差式です。
- LABCH : CIE1976L*a*b* 表色系で得られた、L*a*b* の値の距離をもって色差とする最もスタンダードな計算方法です。L* は明度を表し、a* と b* は色度座標になっています。(a* は“赤/ 緑”の軸を示し、b* は“黄/ 青”の軸を示します。)

マイナス用紙のモード (相対濃度) を使用

このボタンを選択すると、ターゲットに「マイナス用紙」計算が使用されます。マイナス用紙を設定すると、シートの測定時に用紙そのものの測定値がプレスツールに考慮されます。

例えば、用紙の濃度が 0.1、測定されるカラーパッチの濃度が 1.0 だとします。この場合、プレスツールによって算出される濃度は 0.9 (読み取られた濃度から用紙濃度を引いた値) となります。

すべての基準値はデフォルトで非選択状態になっています。

- 濃度 : 基準値の光吸収度を示します。
- ヒューエラー : プロセスインキの色相のズレを指します。各インキには、その色 (色相) を表す番号が付けられています。
- グレーネス : プロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。
- プリントコントラスト : シャドウ情報が維持される程度を表します。
- グレーバランス : 無彩色 (色彩のない) 印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。

バキューム停止

装置が使用されていない間、バキュームをどのような方法で、いつ停止させるのかを決定します。

- 自動バキューム停止 : 装置が使用されていない「時間」を過ぎると、バキュームが停止します。

- 間隔 (分)：バキュームが停止されるまでの装置の休止時間を分単位で指定します。このボタンをタッチすると、分数を入力できるダイアログボックスが表示されます。ゼロ (0) を入力して、測定直後にバキュームを停止することもできます。

表示グラフ数

プレスツールのデータ表示領域に一度に表示できるインキの最大数を指定します。例えば、ジョブに 6 色のインキが使用され、このボタンに「4」が設定されていると、プレスツールで一度に表示されるのは 6 色のうち 4 色のインキのみとなります。

最大グラフ数は 6 です。

スキャニング装置のキャリブレーション

装置がどのような方法で、いつキャリブレーションを実行するのかを指定します。

- キャリブレーション間隔 (時間)：装置がキャリブレーションを実行する間隔を時間単位で指定します。指定した時間が経つと、装置にキャリブレーションを実行させるかどうかを尋ねるメッセージボックスがプレスツール内に表示されます。このボタンをタッチすると、時間数を入力できるダイアログボックスが表示されます。
- キャリブレーション休止 (分)：装置にキャリブレーションを実行させるかどうかを尋ねるメッセージボックスがプレスツール内に表示されたとき、[いいえ] を選択することができます。この場合、プレスツールは「キャリブレーション休止」時間が経ってから、同じ質問をします。このボタンをタッチすると、分数を入力できるダイアログボックスが表示されます。
- 新規ジョブ作成ごとにキャリブレーション：プレスツールによって新規ジョブの開始ごとにキャリブレーションが実行されます。

表示/非表示

[表示 / 非表示] タブでは、プレスツールのデータ表示領域に表示するデータ項目と、そのタイプを定義することができます。デフォルトでは、すべてのデータ項目とデータ項目タイプが選択されています。

注記：この欄での選択に関係なく、すべてのデータ項目がデータベースに保存されます。

濃度

基準値がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。ターゲットが吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。

- アミ点：アミ点インキパッチの濃度を表示します。
- オーバープリント 2 色オーバープリントパッチの濃度を表示します。
- グレーバランス：グレーバランス用インキパッチの濃度を表示します。
- 用紙：用紙パッチの濃度を表示します。
- グレーバランス：グレーバランス用パッチの色差を表示します。

ヒューエラー

プロセスインキの色相のズレを指します。各インキには、その色（色相）を表す番号が付けられています。

- ベタ：ベタ インキパッチのヒューエラー データを表示します。
- オーバープリント：2色オーバープリントパッチのヒューエラー データを表示します。

ドットゲイン

用紙のインキ吸収度を示します。用紙の吸収力が高いほどドットゲインが多くなります。

- アミ点：アミ点インキパッチのドットゲインを表示します。

トラッピング

用紙に対するインキの塗着量と、そのインキの、既に印刷されている他のインキ上への塗着量の比を表します。用紙の状態に関連して、既に印刷されているインキが次に印刷されるインキをどの程度受け入れられるかを示します。

- オーバープリント：2色オーバープリントパッチのトラッピング データを表示します。

グレーネスプロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。例えば、純粋なイエローに少量のブラックを加えても色相(色)は変化しませんが、グレーネスは増加します。

- ベタ：ベタ インキパッチのグレーネス データを表示します。
- オーバープリント：2色オーバープリントパッチのグレーネス データを表示します。

グレーバランス

無彩色（色彩のない）印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。

- グレーバランス：グレーバランス用インキパッチのグレーバランス データを表示します。

プリントコントラスト

画像内の明領域と暗領域間の範囲の大きさを示します。プリントコントラストは、シャドウ情報が維持される程度を表します。

- アミ点：アミ点インキパッチのプリントコントラスト データを表示します。

ΔE (色差)

特定条件下における2つのオブジェクトの色の差の大きさと特性を表します。

- ベタ：ベタ インキパッチの色差データを表示します。
- 3色オーバープリント：3色オーバープリントパッチの色差データを表示します。
- オーバープリント：2色オーバープリントパッチの色差データを表示します。
- 用紙：用紙パッチの色差データを表示します。

ブライツネス

用紙がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。用紙が吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。例えば、黒色用紙の濃度値は高くなります。

- 用紙：用紙パッチのブライツネス データを表示します。

その他

その他のオプションを含みます。

- 平均値：現在のシート上のインキゾーンに対する実際の平均値を示します。

測定後処理

[測定後処理] タブでは、プレスツールで測定されたログファイルとしてのデータの保存形式と場所を設定します。

注記：ログファイルは様々な形式で保存することができます。例えば、同じログファイルの情報を SDF や SVF で保存することができます。

SDF ファイルを作成

プレスツールによってログファイルが SDF（測定濃度ファイル）形式で作成されます。SDF ファイルはスキャニング装置および PQC にフィードバックをかける際にも使用されます。

[SDF ファイルの作成] を選択すると、次のコントロールを使用できるようになります。

- ファイル名を指定：すべての SDF に特定の名前を付けたい場合に選択します。例えば、「Press7」という名前を付けると、Press7_2005_07-20.sdf のように、すべてのファイル名にその名前が含まれます。右のボタンを押すと、保存するフォルダとファイル名を入力するダイアログが開きます。
- プロジェクト テンプレート / プロジェクト名を使用：現在のジョブに使用されるプロジェクト テンプレートの名前 を SDF の名前として付けたい場合に選択します。例えば、DefaultJT_2005_07-20.sdf のようになります。右側にあるボタンをタッチすると、プロジェクト名ファイルを選択できるダイアログボックスが表示されます。
- プリントスタートモード：旧バージョンの SDF 形式でログファイルが作成されます。以前のバージョンで動作する印刷システム の特定ソフトウェアとの互換性を維持したい場合に選択します。
- 追記モード：1 つのログファイルが作成され、その後に生成される新しいデータはこのファイルに追記されます。このオプションを選択しない場合は、新しいデータが生成されるたびに、新しいログファイルが作成されます。

SVF ファイルを作成

プレスツールによってログファイルが SVF（測定値ファイル）形式で作成されます。

これらのファイルには、プロジェクト情報と次のパッチ情報が含まれています。基準値の濃度および色彩値、測定された濃度および色彩値、濃度差および色差、測定された 31 ポイントの分光反射率係数データ。

右のボタンを押すと、保存するフォルダとファイル名を入力するダイアログが開きます。

TVF ファイルを作成

プレスツールによってログファイルが TVF（ターゲット値ファイル）形式で作成されます。

これらのファイルには、プロジェクト情報に加え、[プロジェクト設定] ダイアログに基づくインキ基準値情報が含まれています。このファイルには、OK シート選択時のプロジェクト情報、インキ情報、パッチ濃度、色彩値、31 ポイントの分光反射率係数データが含まれています。また、ターゲット情報も含まれています。

右のボタンを押すと、保存するフォルダとファイル名を入力するダイアログが開きます。

データベースとキーボード

[データベースとキーボード] タブでは、プレスツール データベースの名前、データベースが保存されているコンピュータの名前、プレスツールおよびシステム エディタに使用されるキーボードのタイプを定義することができます。

データベース

プレスツール データベースが保存されているコンピュータの名前およびデータベースの名前を設定できます。

- 場所（コンピュータ名）：このボタンをタッチすると、データベースが存在するコンピュータの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。
- データベース名：このボタンをタッチすると、プレスツール データベースの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。

キーボード

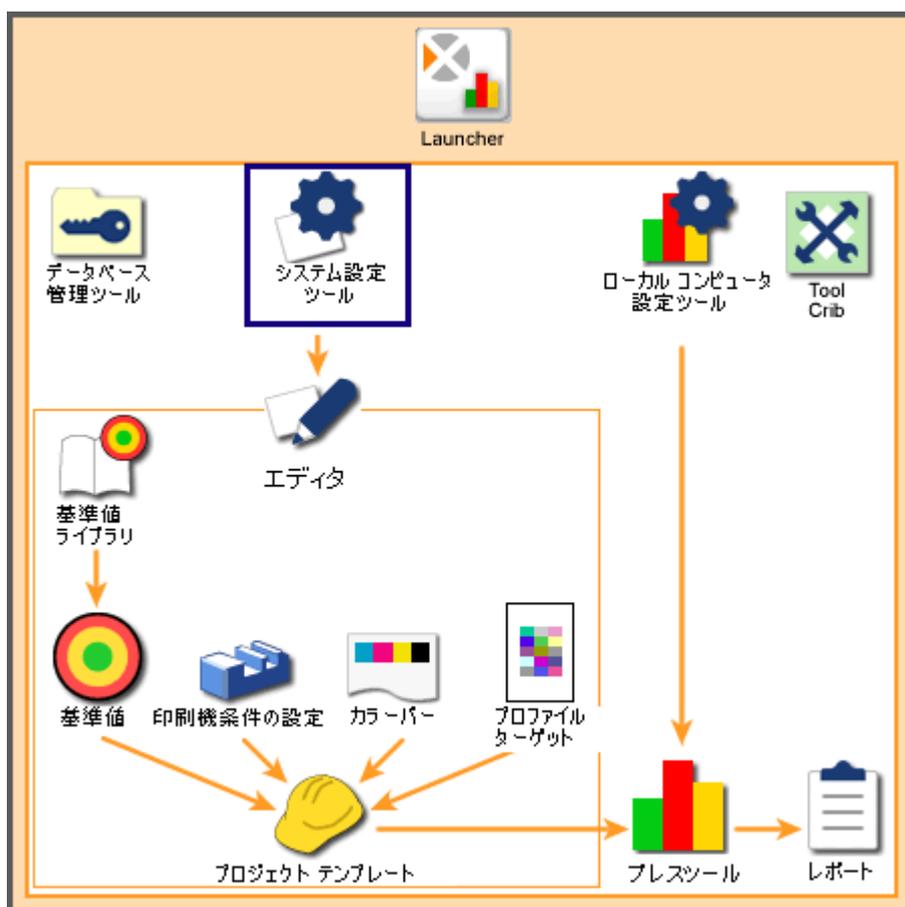
プレスツールおよびシステム エディタのダイアログボックス内で使用されるキーボードのタイプを設定できます。

- アルファベットこのボタンを選択すると、プレスツールとシステム エディタで使用される名前入力用のダイアログボックスに、[英数字順] に並べられた文字ボタンが表示されます。（例：ABCDEF...）
- 多言語：このボタンを選択すると、プレスツールとシステム エディタで使用される名前入力用のダイアログボックスに、[英数字順] に並べられた文字ボタンが表示されます。（例：QWERTY...）

システム設定ツール

システム設定ツールでは、システムのデフォルトとなる測定条件、許容値、アミ点の掛け合わせを設定します。これらの設定はエディタツールでプロジェクトテンプレートを作成する際デフォルト値に用いられます。

システム設定ツールを起動するには、ランチャー (Launcher) を起動し、[システム設定ツール] ボタンをタッチします。パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。



スキャニングシステムの概要：システム設定ツール

測定条件

[測定条件] タブでは、デフォルトの光源/視野と、プレスツールのステータス応答を選択できません。

測定条件を選択するには、

1. [濃度ステータス] リストから必要な条件をタッチして選択します。右側の矢印を使用して、濃度ステータス オプションリストをスクロールしてください。
2. [光源/視野] リストから必要な条件をタッチして選択します。右側の矢印を使用して、光源/視野オプションリストをスクロールしてください。
3. 他のタブをタッチするか、[閉じる] をタッチします。

測定条件：濃度ステータス

濃度ステータスとは、濃度計の応答を表す言葉です。標準ステータスの応答には次のものがあります。

- ステータス A：写真仕上げアプリケーションで使用される ANSI ステータス A を表します。
- ステータス E：イエローに 47B フィルタを使用するヨーロッパ方式の応答を表します。このステータスはダイナミックポラリゼーションに選択します。
- ステータス I：狭帯域の応答を表します。
- ステータス T：ANSI ステータス T を表します。
- ステータス HiFi：シアン、マゼンタ、イエロー、レッド、グリーン、ブルーのフィルタの応答を表します。
- ステータス Hexachrome：シアン、マゼンタ、イエロー、ビジュアル、グリーン、オレンジのフィルタの応答を表します。
- ステータス Ex：X-Rite 400 シリーズ装置の応答を表します。
- ステータス Txp：X-Rite 400 シリーズ装置の応答を表します。

測定条件：光源/視野

光源は下記のタイプがあり、それぞれ異なる色温度 に対応しています。2° または 10° の視野で使用することができます。

- [光源 A] は、黄色がかった赤色の光を発生し、一般に発熱光条件（家庭用電球など）のシミュレーションに使用されます。
- [光源 C] は、間接日光をシミュレーションします。間接日光は一般的な観察条件ですが、この光源には紫外線がそれほど含まれていないため、日光を完全にシミュレーションできるわけではありません。しかし、この光源には紫外線がそれほど含まれていないため、日光を完全にシミュレーションできるわけではありません。
- [光源 D50] は、5000K の昼光で、間接日光のシミュレーションに使用される光源です。
(印刷標準光源) [光源 D55] は、5500K の昼光で、間接日光のシミュレーションに使用される光源です。[光源 D65] は、6500K の昼光で、6500K の昼光で、補助標準イルミナ

ント C とほぼ同じですが、紫外線をより多く含んでおり、日光をより近いシミュレーションとなっています（蛍光色もより良く評価できます）。[光源 D75] は、7500K の昼光で、間接日光に使用される光源です。

- 蛍光は急激に変化する分光分布曲線を描き、色温度による定義が困難なため、正式な「標準」光源とは言えません。しかし、蛍光灯観察条件は一般的であるため、CIE ではこのタイプの光源を蛍光灯環境で使用される色の評価に使用することを推奨しています。[光源 F2] は、蛍光灯のシミュレーションに使用される光源です。[光源 F7] は、は、広いバンドを持った蛍光灯のシミュレーションに使用される光源です。[光源 F11] は、TL84 蛍光灯のシミュレーションに使用される光源です。[光源 F12] は、ウルトラリウム蛍光灯のシミュレーションに使用される光源です。

許容値

[許容値] タブでは、基準値に対するデフォルトの許容値を定義することができます。これらの許容値は、後で [基準値] で編集することができます。プレスツールでは、測定時に許容値を使用して、印刷された色が許容範囲内にあるかどうかを判断します。

許容値を設定するには、

1. データ項目をタッチします。選択したデータ項目の許容値が、黄色の欄（「アクション リミット」の許容値）と赤色の欄（「コントロール リミット」の許容値）に表示されます。
- 測定結果がアクションリミット内だった場合、プレスツールで測定結果を表すバーは緑色に表示されます。
- データの許容レベルです。ターゲットの測定値がアクション リミットの許容範囲外であり、かつコントロール リミットの範囲内である場合、プレスツールに許容範囲ぎりぎりであることを示す黄色のインジケータが表示されます。
- ターゲットの測定値がコントロール リミットの許容範囲外にある場合、プレスツールに赤色のインジケータが表示されます。

注記：[グレーバランス] データ項目には、[範囲] 値を設定するための欄も含まれています。

2. アクション リミットまたはコントロール リミットを変更するには、該当する欄をタッチします。画面上にキーパッドが表示されます。
3. 数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。
4. 必要に応じて別のデータ項目をタッチし、ステップ 2 と 3 を繰り返してください。
5. 他のタブをタッチするか、[閉じる] をタッチします。

アミ点/グレーバランス

[アミ点/グレーバランス] タブでは、PDC-SII で使用するアミ点と、グレーバランスの値を定義することができます。

システムのアミ点

システムのデフォルトのアミ点数は 5 で、デフォルト値は 25%、40%、50%、75%、80% です。

システムのアミ点数を変更するには、

1. [システムのアミ点数] 欄をタッチします。画面上にキーパッドが表示されます。
 2. キーパッドを使用して新しい値を入力するか、矢印キーを使用して値を調整します。[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。
- システムのアミ点を追加すると、最初のアミ点にデフォルト値の 1% が設定され、次のアミ点に 2%、3 番目に 3%、という順に設定されます。これらの値は数値欄をタッチして調整することができます。
 - アミ点の数を減らす場合は、リストの一番下にある値から削除されます。

システムのアミ点値を編集するには、

1. 編集する値をタッチします。画面上にキーパッドが表示されます。
2. 数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

グレーバランス

グレーバランスのデフォルト値は、グレーバランス 1 に対して、インキ 1：50%、インキ 2：40%、インキ 3：40%を設定しています。

グレーバランス値を編集するには、

1. 編集する値をタッチします。画面上にキーパッドが表示されます。
2. 数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

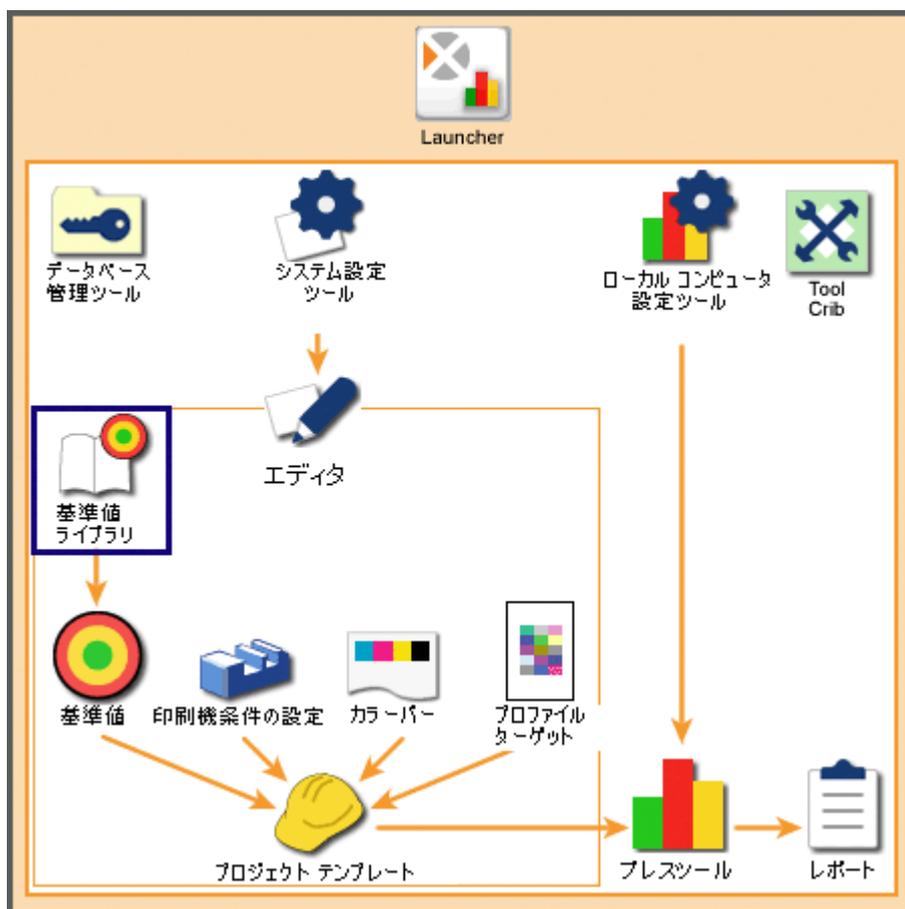
基準値ライブラリ エディタ

基準値ライブラリ エディタでは、新しい基準値ライブラリの作成、基準値ライブラリの名称の変更、システムからの基準値ライブラリの削除を行うことができます。

このツールで作成する基準値には、基準値エディタで許容値を割り当てることができます。

基準値ライブラリ エディタを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[エディタ] ボタンをタッチします。
2. パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。
3. [エディタ] 画面が表示されたら、[基準値ライブラリ] ボタンをタッチします。



スキャニング システムの概要：基準値ライブラリ エディタ

ホーム

基準値ライブラリ リストボックス

システムで現在使用可能な基準値ライブラリのリストが画面左側に表示されます。基準値ライブラリ リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 7 つ以上の基準値ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに 基準値ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。

新規作成

新しい基準値ライブラリを作成するには、[新規作成] をタッチします。[新規作成] をタッチすると、新しい基準値ライブラリの名前を入力するように促すダイアログボックスが表示されます。名前を選択または入力した後に [次へ] をタッチすると、その名前が 基準値ライブラリ リストボックス内に表示されます。

削除

選択されている基準値ライブラリをシステムから削除するには、[削除] をタッチします。[削除] をタッチすると、基準値ライブラリを削除するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[はい] をタッチすると削除されます。

注記: プロジェクト テンプレートで現在指定されている基準値ライブラリを削除することはできません。

名称変更

選択されている基準値ライブラリの名前を編集するには、[名称変更] をタッチします。[名称変更] をタッチすると、基準値ライブラリの名前を入力するためのダイアログボックスが表示されます。名称を編集して、[次へ] をタッチします。

基準値エディタ

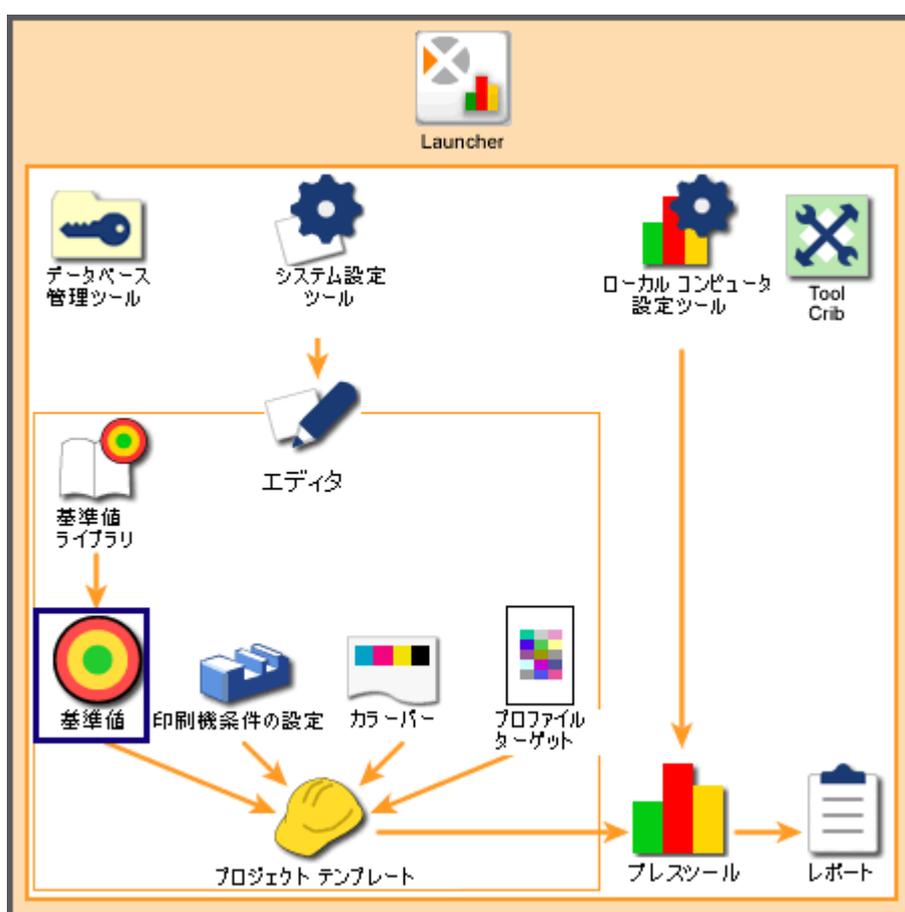
基準値エディタでは、既存基準値の編集、新規基準値の作成、既存基準値の複製、基準値の読み込み/書き出し、スキャニングシステムからの削除を行うことができます。

基準値エディタを使用して、カラーバー上の特定のパッチによく使用されるインキ、用紙、グレーバランス、オーバープリントのデータ（値および許容値）を保存することができます。新規プロジェクトテンプレートを設定する場合には、そのプロジェクトテンプレートのパッチの基準値と許容値に、このデータを使用することができます。

このツールで作成された基準値は、プロジェクトテンプレートエディタを使用してプロジェクトテンプレートの一部として保存することができます。

基準値エディタを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[エディタ] ボタンをタッチします。
2. パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。
3. [エディタ] 画面が表示されたら、[基準値] ボタンをタッチします。



スキャニングシステムの概要：基準値エディタ

ホーム

基準値ライブラリ リストボックス

システムで現在使用できる基準値ライブラリ（基準値群）のリストです。基準値ライブラリは基準値ライブラリ エディタを使用して作成します。

基準値ライブラリ リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 4 つ以上の基準値ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに 基準値ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。

基準名リストボックス

基準値ライブラリ リストボックス内で現在選択されている基準値ライブラリに関連付けられた基準値のリストです。基準値名リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 4 種類以上の基準値が登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに基準値の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値が見つかったら、その基準値をタッチして選択します。これで、画面右側にあるボタンを使用して、基準値を操作できるようになります。

注記： 画面右下のメッセージに、選択されている項目が表示されます。

新規作成

基準値ライブラリに新しい基準値を作成するには、[新規作成] をタッチします。基準値ライブラリ リストボックスから 基準値ライブラリを選択し、[新規作成] をタッチします。[基準値の選択] ダイアログボックスが表示されます。選択されているタイプまたは 基準値により、[基準値名を入力] 画面と [インキの選択] 画面のどちらかが表示されます。

削除

選択されている基準値ライブラリから基準値を削除するには、[削除] をタッチします。[削除] をタッチすると、基準値を削除するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[はい] をタッチすると削除されます。

注記： プロジェクト テンプレートで現在指定されている基準値ライブラリを削除することはできません。

名称変更

選択されている基準値の名前を編集するには、[名称変更] をタッチします。[名称変更] をタッチすると、基準値の名前を入力するためのダイアログボックスが表示されます。名称を編集して、[次へ] をタッチします。

注記： オーバープリントまたはグレーバランスの基準値の名前を変更することはできません。

複製

選択されている基準値のコピーを作成するには、[複製] をタッチします。[複製] をタッチすると、基準値の複製につける新しい名前の入力を促すダイアログボックスが表示されます。新しい基準値を保存するには、[次へ] をタッチします。

注記：オーバープリントまたはグレーバランスの基準値を複製することはできません。

編集

[編集] をタッチすると、選択されている基準値に対する許容値を変更できる画面が表示されます。[編集] をタッチすると、基準値エディタの画面が表示されます。表示される画面は、選択する基準値のタイプによって異なります。

- インキ基準値
- 用紙基準値
- オーバープリント基準値
- グレーバランス基準値

読み込み

既存の基準値をシステムに追加するには、[読み込み] をタッチします。[読み込み] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでターゲット許容値 (.tt) ファイルまたは .mif ファイルを検索し、選択することができます。[開く] をタッチすると、選択したファイルが読み込まれます。その基準値がすでにシステムに存在している場合は、上書きするかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[いいえ] をタッチすると、新しい名前をタッチまたは入力できるダイアログボックスが表示され、[次へ] をタッチするとそのファイルが読み込まれます。

書き出し

既存の基準値をファイルに保存するには、[書き出し] をタッチします。[書き出し] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。ファイルの名前を入力して [保存] をタッチすると、そのファイルへの書き込みが行われます。

注記：オーバープリントまたはグレーバランスの基準値を書き出しすることはできません。

ハンドヘルドの接続

すべてのエディタ画面の左下には、[ハンドヘルド装置の接続] ボタンがあります。このボタンは、ハンドヘルド装置がコンピュータに接続されているかどうかを示します。



円形は、ハンドヘルド装置が接続されていることを示します。



半円形は、ハンドヘルド装置が接続されていないことを示します。

[ハンドヘルド接続] ボタンをタッチすると、[ハンドヘルド接続] 画面が表示されます。この画面には次のコントロールがあります。

装置を経由して接続

ハンドヘルド装置がスキャニング装置のポートに接続されている場合は、このボタンをタッチします。[装置名] 欄にスキャニング装置の名前を入力してください。

シリアルポートで接続

ハンドヘルド装置が、使用しているコンピュータのシリアルポートに接続されている場合は、このボタンをタッチします。[シリアルポート] リストボックスから、使用するシリアルポートを選択してください。

- システムに3つ以上のシリアルポートがある場合は、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることができます。目的のシリアルポートが見つかったら、そのポートをタッチして選択します。

接続 / 接続解除

[接続] ボタンをタッチすると、選択された方法で接続が行われ、[ハンドヘルド接続] 画面が閉じられます。ハンドヘルド装置の接続を解除するには、[接続解除] ボタンをタッチします。

キャリブレーション

このボタンをタッチすると、ハンドヘルド装置にキャリブレーション画面が表示されます。この画面で手動キャリブレーションを行ってから、測定画面に戻ってください。ハンドヘルド画面で手順を参照するよう促すダイアログボックスがコンピュータ画面に表示されます。キャリブレーションが終了したら、コンピュータ上のダイアログボックスを閉じてください。

基準値を選択

[基準値の選択] ダイアログボックスは、新しい基準値を作成するための最初のステップです。[基準値エディタ] 画面で、基準値ライブラリ リストボックスから、新しい基準値の基準値ライブラリを選択します。次に [作成] をタッチします。[基準値の選択] ダイアログボックスが表示され、ここに次のボタンが表示されます。

インキ

ベタインキおよび対応するアミ点の基準値の両方または一方を作成する場合には、このボタンをタッチします。[次へ] をタッチして表示される [基準値名の入力] ダイアログボックスで、測定装置を使用してインキパッチを読み取り、基準値を得ることができます。

用紙

用紙基準値を作成する場合には、このボタンをタッチします。[次へ] をタッチして表示される [基準値名を入力] ダイアログボックスで、測定装置を使用して用紙パッチを読み取り、基準値を得ることができます。

2色オーバープリント

2 次色のベタインキから基準値を作成する場合は、このボタンをタッチします。[次へ] をタッチして表示される [インキの選択] ダイアログボックスで、オーバープリントに使用する2つの色を選択することができます。

3色オーバープリント

3 次色のベタインキから基準値を作成する場合は、このボタンをタッチします。[次へ] をタッチして表示される [インキの選択] ダイアログボックスで、オーバープリントに使用する3つの色を選択することができます。

グレーバランス (1、2、3)

グレーバランス 基準値を作成するには、これらのボタンのいずれかをタッチします。各ボタンは特定のグレーバランス % を示し、この % はシステム設定ツールを使用して設定します。[次へ] をタッチして表示される [インキの選択] ダイアログボックスで、グレーバランスに使用する3つの色を選択することができます。

次へ

この欄をタッチすると、[基準値名を入力] または [インキ選択] のダイアログボックスが表示されます。

基準値名を入力

[基準値名を入力] ダイアログボックスは、新しいインキ基準値または用紙基準値を作成するための2番目のステップです。このダイアログボックスは、[基準値の選択] ダイアログボックス上の [インキ] または [用紙] ボタンを選択した後に [次へ] タッチすると表示されます。

注記: このダイアログボックスのコントロールは、ハンドヘルド測定装置がシステムに接続されているかどうかによって異なります。[基準値エディタ] 画面の左下にある [ハンドヘルド装置] ボタンを参照してください。



デバイスが接続されていない場合（半円形）は、下記でコントロールの説明を参照してください。

名称

この欄をタッチすると、新しい基準値の名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。

L*a*b* 値を入力

これらの欄をタッチすると、値を選択または入力できるダイアログボックスが開きます。値を入力すると、パッチの近似色が円形で表示されます。

次へ

このボタンをタッチすると、基準値作成プロセスが完了し、基準値と許容値を調整できる〔基準値の編集〕画面が開きます。



デバイスが接続されていない場合（円形）は、下記でコントロールの説明を参照してください。

名称

この欄をタッチすると、新しい基準値の名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。

測定を実行

測定装置で読み取りを行うには、このボタンをタッチします。測定装置でインキパッチまたは用紙パッチが読み取られると、パッチの近似色がここに表示されます。

カラー

明度と色度の値が表示されます。測定装置でインキパッチまたは用紙パッチが読み取られると、色彩値がここに表示されます。

濃度

シアン、イエロー、マゼンタ、墨の濃度値が表示されます。測定装置でインキパッチまたは用紙パッチが読み取られると、濃度値がここに表示されます。

次へ

このボタンをタッチすると、基準値作成プロセスが完了し、基準値と許容値を調整できる〔基準値の編集〕画面が開きます。

インキ選択

〔インキ選択〕ダイアログボックスは、新しいオーバープリント基準値またはグレーバランス基準値を作成するための2番目のステップです。このダイアログボックスは、〔基準値の選択〕ダイアログボックス上の〔オーバープリント〕または〔グレーバランス〕ボタンを選択した後に〔次へ〕タッチすると表示されます。〔インキ選択〕タブには次のコントロールがあります。

インキユニット

基準値名リストボックス内でインキユニットを選択すると、選択されたインキユニット内に色が表示され、次のインキユニットが選択状態になります。2色または3色のインキユニットが選択されると、それらを組み合わせた近似色が右側に表示され、次のインキユニットがアクティブになります。

基準名リストボックス

現在選択されている基準値ライブラリで使用可能な基準値のリストです。基準値名リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに4つ以上の基準値タイプが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに基準値の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値が見つかったらタッチして選択し、現在選択されているインキツボにその色を適用します。

次へ

このボタンをタッチすると、基準値作成プロセスが完了し、基準値と許容値を調整できる [基準値の編集] 画面が開きます。

インキ基準値の編集

[インキ基準値の編集] 画面では、ベタインキの基準値と許容値を調整することができます。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- 基準値のインキタイプが選択されている状態で、[基準値エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- インキパッチの測定後、[基準値名を入力] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。

[インキ基準値の編集] 画面に表示されるコントロールは、パッチの測定方法によって異なります。[インキ基準値の編集画面] 画面に表示可能なコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、インキパッチ色の円と、基準値の名前が表示されます。

ベタ基準値 / 許容値テーブル

このテーブルには、各種インキ基準値（濃度、グレーネス、ヒューエラーなど）の値が表示されます。印刷用紙上のインキパッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクションリミット（黄色）とコントロールリミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、関連する正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーパッドウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

アミ点基準値 / 許容値テーブル

このテーブルには、各インキのアミ点基準値（濃度およびドットゲインなど）が表示されます。印刷用紙上のアミ点パッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

システムにアミ点が設定されている場合、左右の矢印をタッチしてアミ点%を変更し、基準値と許容値を変更することができます。アミ点 % はシステム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、関連する正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーボード ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、インキ基準値の主フィルタを示します。例えば、青のインキパッチには一般に [シアン] が主要フィルタとして設定されています。

主要フィルタ以外のフィルタを使用する場合は、別のフィルタのボタンをタッチします。ベタおよびアミ点の「基準値 / 許容値」テーブルで、基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在のインキ基準値に行った編集内容が保存され、[インキ基準値エディタ] 画面が閉じられます。

用紙基準値の編集

[用紙基準値の編集] 画面では、用紙パッチの基準値と許容値を調整することができます。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- 基準値の用紙タイプが選択されている状態で、[基準値エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- 用紙パッチの測定後、[基準値名を入力] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。

[用紙基準値の編集] 画面に表示されるコントロールは、基準値の測定方法によって異なります。[用紙基準値の編集] 画面に表示可能なコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、用紙パッチの近似色の円と、基準値名が表示されます。

用紙の基準値 / 許容値

このテーブルには、各種用紙基準値（濃度、ブライトネスなど）の値が表示されます。印刷用紙上の用紙パッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、関連する正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、用紙基準値の主フィルタを示します。例えば、白のインキパッチには一般に [ビジュアル] が主要フィルタとして設定されています。

主要フィルタ以外のフィルタを使用する場合は、別のフィルタのボタンをタッチします。テーブル内の基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在の用紙基準値に行った編集内容が保存され、[用紙基準値エディタ] 画面が閉じられます。

オーバープリント基準値の編集

[オーバープリント基準値の編集] 画面では、ベタインキのオーバープリントの基準値と許容値を調整することができます。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- 基準値のオーバープリントのタイプが選択されている状態で、[基準値エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- 基準値を選択した後、[インキの選択] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。

[オーバープリント基準値の編集] 画面に表示されるコントロールは、パッチの測定方法によって異なります。[オーバープリント基準値の編集画面] 画面に表示可能なコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、近似色の2つまたは3つの円と、オーバープリントに選択されたインキの名前が表示されます。右側の円は、組み合わせたインキの近似色と、インキの名前を示します。

オーバープリントの基準値 / 許容値

このテーブルには、各インキでの基準値（濃度、ヒューエラー、トラッピングなど）の値が表示されます。印刷用紙上のオーバープリント用インキパッチが測定装置によって読み取られ、緑色で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、関連する正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、オーバープリント 基準値の主要フィルタを示します。

主要フィルタを変更するには、別のフィルタのボタンをタッチします。テーブル内の基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在のオーバープリント基準値に行った編集内容が保存され、[オーバープリント基準値の編集] 画面が閉じられます。

グレーバランス基準値の編集

[グレーバランス基準値の編集] 画面では、グレーバランスの基準値と許容値を調整することができます。グレーバランスは、システム設定ツールを使用して設定します。

この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- 基準値のグレーバランスのタイプが選択されている状態で、[基準値エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- 基準値を選択した後、[インキの選択] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。

[グレーバランス基準値の編集] 画面に表示可能なコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、インキ近似色の3つの円と、グレーバランスに選択されたインキの名前が表示されます。4番目の円はグレーで塗りつぶされており、この特定のグレーバランスに使用されたインキの名前と共に使用比率%が表示されます。（グレーバランス % は、システム設定ツールを使用して設定されます。）

グレーバランスの基準値 / 許容値

このテーブルには、グレーバランスの各種ターゲット（インキ、L*a*b* 色など）の値がリストされます。印刷用紙上のインキパッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、関連する正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーボード ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

注記：色で縁取られたボタンのある基準値および許容値のみ編集できます。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、インキ基準値の主フィルタを示します。

主要フィルタを変更するには、別のフィルタのボタンをタッチします。テーブル内の基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在のグレーバランス基準値に行った編集内容が保存され、[グレーバランス基準値の編集]画面が閉じられます。

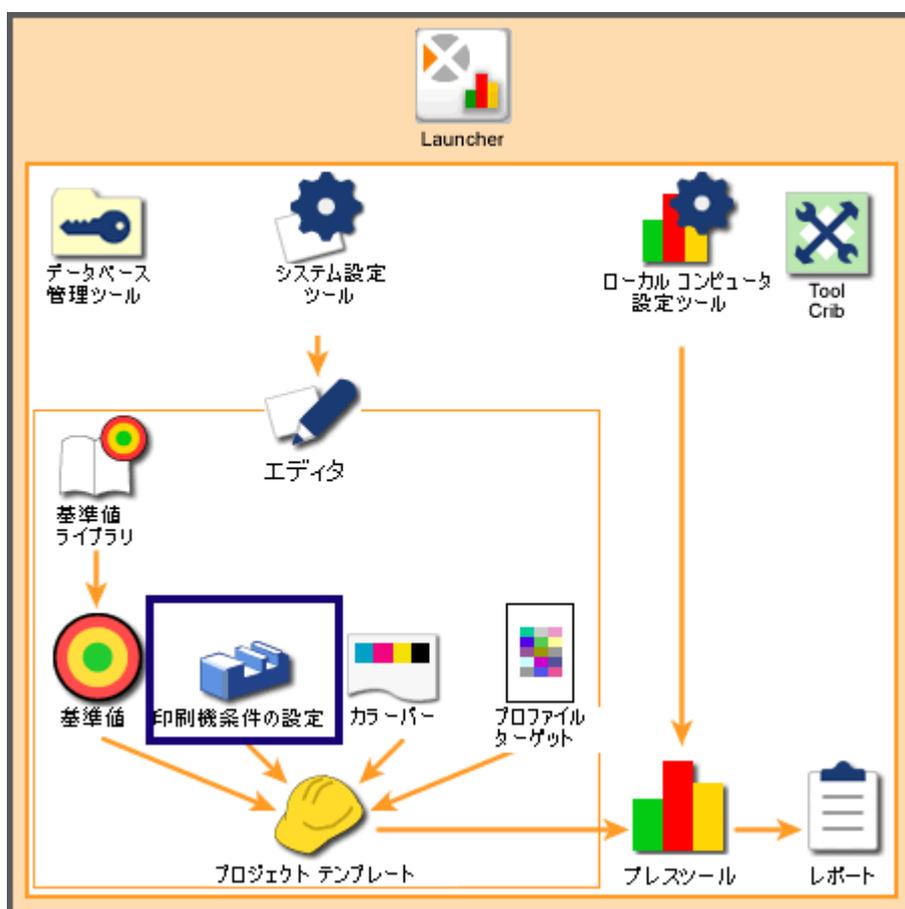
印刷機条件の設定エディタ

印刷機の条件設定エディタでは、印刷機条件の編集、作成、複製、読み込み/書き出し、システムからの印刷機条件の削除を行うことができます。

プロジェクト テンプレート エディタを使用して、このツールで作成する印刷機の定義をプロジェクト テンプレートの一部として保存することができます。

印刷機エディタを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[エディタ] ボタンをタッチします。
2. パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。
3. [エディタ] 画面が表示されたら、[印刷機条件の設定] ボタンをタッチします。



スキャニングシステムの概要：印刷機条件の設定エディタ

ホーム

印刷機リストボックス

システムで現在使用可能な印刷機のリストが画面左側に表示されます。印刷機リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに7つ以上の印刷機タイプが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに印刷機条件の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の印刷機が見つかったら、その印刷機をタッチして選択します。これで、画面右にあるボタンを使用して、印刷機条件を操作できるようになります。

新規作成

新しい印刷機条件を作成するには、[新規作成] をタッチします。[新規作成] をタッチすると、新しい印刷機条件の名前と基本パラメータの入力を促すダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスから [印刷機条件の編集] 画面に移動し、新しい印刷機条件の定義と保存を行うことができます。

削除

選択されている印刷機条件をシステムから削除するには、[削除] をタッチします。[削除] をタッチすると、印刷機条件を削除するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[はい] をタッチすると削除されます。

注記：プロジェクトテンプレートで現在使用されている印刷機を削除することはできません。

名称変更

選択されている印刷機条件の名称を編集するには、[名称変更] をタッチします。[名称変更] をタッチすると、印刷機条件の名称を入力するためのダイアログボックスが表示されます。名称を編集して、[次へ] をタッチします。

複製

選択されている印刷機条件を複製するには、[複製] をタッチします。[複製] をタッチすると、印刷機条件の複製につける新しい名称の入力を促すダイアログボックスが表示されます。新しい印刷機条件を保存するには、[次へ] をタッチします。

編集

[編集] をタッチすると、選択されている印刷機条件のパラメータを変更できる画面が表示されます。[編集] をタッチすると、新しい画面に印刷機条件の編集コントロールが表示されます。印刷機条件の編集を終えたら、[保存] をタッチして保存します。

読み込み

既存の印刷機条件をシステムに追加するには、[読み込み] をタッチします。[読み込み] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここで印刷機エディタ (.pss) ファイルを検索し、選択することができます。[開く] をタッチすると、選択したファイルが読み込まれます。

その印刷機がすでにシステムに存在している場合は、上書きするかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[いいえ] をタッチすると、新しい名前をタッチまたは入力できるダイアログボックスが表示され、[次へ] をタッチするとそのファイルが読み込まれます。

書き出し

既存の印刷機条件をファイルに保存するには、[書き出し] をタッチします。[書き出し] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。ファイルの名称を入力して [保存] をタッチすると、そのファイルへの書き込みが行われます。

作成：印刷機条件の設定

[作成：印刷機条件の設定] システムで使用する新しい印刷機条件を作成するときの最初のステップです。このダイアログボックスは、[印刷機の編集] 画面にある [新規作成] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

名称

この欄をタッチすると、新しい印刷機条件の名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。

片面印刷機

印刷機が片面印刷用に設定されている場合に選択します。

反転式両面印刷機（オモテ後刷）

反転機（表面と裏面を別のユニットで印刷）を作成する場合に選択します。P とは "Perfecting" の略です。

反転式両面印刷機（オモテ先刷）

印刷機が反転式（裏面を印刷してから表面を印刷する）の両面印刷用に設定されている場合に選択します。

非反転式

印刷機が非反転式の両面印刷用に設定されている場合に選択します。

インキユニット数

このボタンをタッチすると、印刷機条件で使用されるインキツボ数を編集することができます。デフォルトのインキユニット数は 8 です。

次へ

このボタンをタッチすると、[印刷機条件の編集] 画面が開き、この画面で新しい印刷機条件を編集し、保存することができます。

印刷機条件の編集

[印刷機の編集] 画面では、システムで使用される印刷機条件のパラメータを作成・変更することができます。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- [印刷機エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- [作成：印刷機条件の設定] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。
- [複製：印刷機条件の設定] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。

[印刷機条件の編集] 画面表示は、印刷機条件によって異なります。[印刷機条件の編集] 画面では次のコントロールが可能です。

名称

この欄には、編集時の印刷機条件の名前が表示されます。

総インキユニット数

印刷機で使用できるインキツボ数が表示されます。この欄には、印刷機条件の作成時に定義された数が表示されます。

インキツボ キー数

印刷機が備えているインキツボのキーの数を選択または入力することができます。

インキツボ キー幅

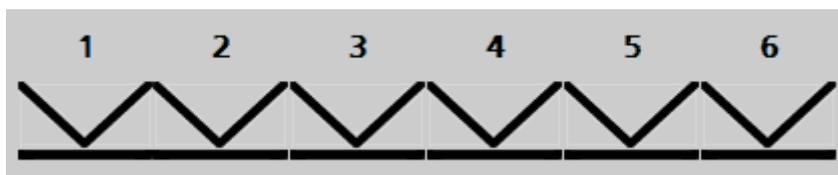
各キーの幅をミリメートル単位で入力することができます。

インキ グラフィック表示

このエリアには、実際の印刷機にインキユニットがどのように設定されているかがグラフィックで表示されます。グラフィックに付けられた番号は、印刷機上のインキユニットに対応しています。

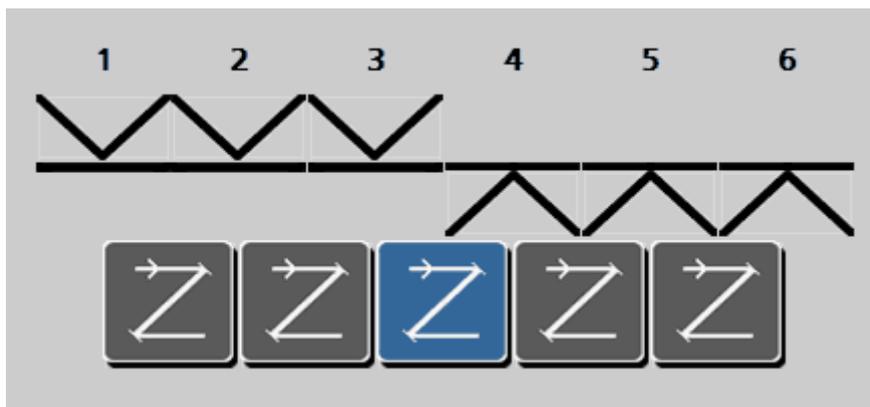
表示されるグラフィックは、印刷機条件によって異なります。

片面印刷



片面印刷の場合には、片面だけのインキュニットを示すグラフィックが表示されます。

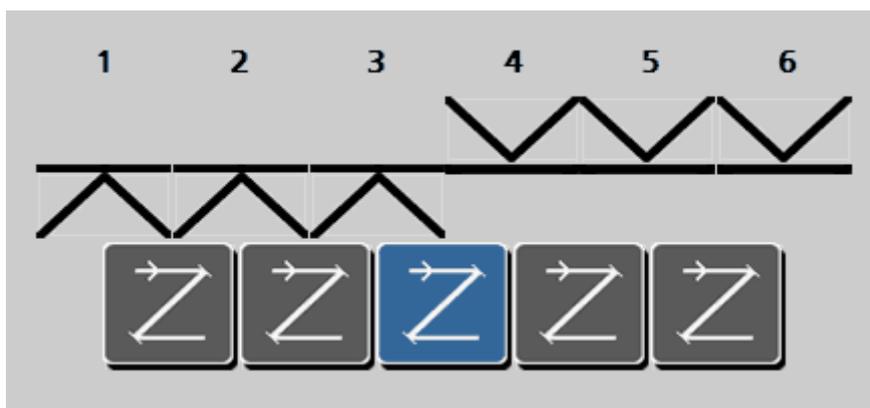
反転式両面印刷機（オモテ後刷）



両面印刷の場合には、両面のインキュニットを示すグラフィックが表示されます。グラフィックの下にあるボタンは、印刷機内で用紙を反転させる反転胴を表しています。実際の印刷機での反転胴の位置を示すインキュニット間のボタンをタッチしてください。

注記：印刷機に複数の反転胴がある場合は、設定ごとに個別の印刷機定義を作成する必要があります。

反転式両面印刷機（オモテ先刷）

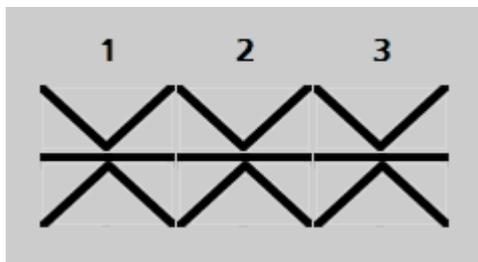


両面印刷の場合には、両面のインキュニットを示すグラフィックが表示されます。グラフィックの下にあるボタンは、印刷機内で用紙を反転させる反転胴を表しています。実際の印刷機での反転胴の位置を示すインキュニット間のボタンをタッチしてください。

反転式両面印刷機（オモテ先刷）では、用紙の表面を印刷してから用紙を反転させ、裏面を印刷します。

注記：印刷機に複数の反転胴がある場合は、設定ごとに個別の印刷機定義を作成する必要があります。

非反転式



非反転式両面印刷機では、印刷機への 1 回の給紙で両面が印刷されます。(反転部はありません。)

保存

このボタンをタッチすると、現在の印刷機に行った編集内容が保存され、[印刷機条件の編集]画面が閉じられます。

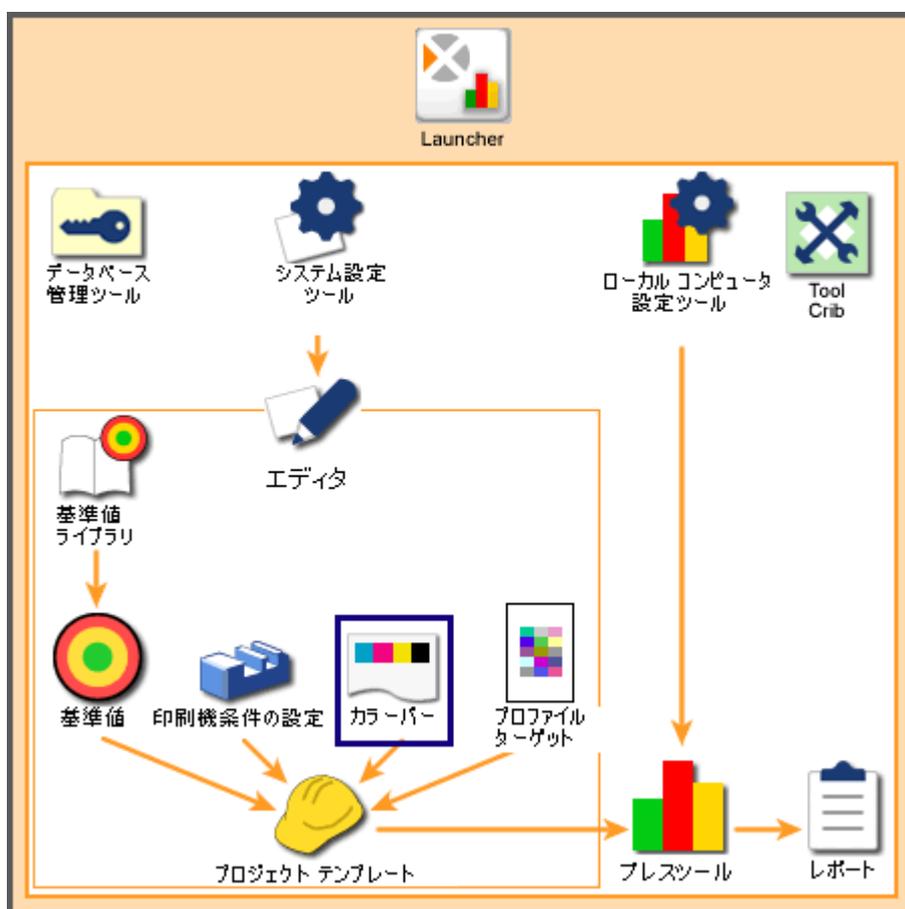
カラーバー エディタ

カラーバー エディタでは、既存のカラーバーの編集、新しいカラーバーの作成、既存のカラーバーの複製、カラーバーの取り込み/書き出し、スキャニングシステムからのカラーバーの削除を行うことができます。カラーバー エディタを使用して、印刷に使用する実際のカラーバーを反映したカラーバーのデザインを設定することができます。

プロジェクトテンプレート エディタを使用して、このツールで作成するカラーバーをプロジェクト テンプレートの一部として保存することができます。

カラーバー エディタを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[エディタ] ボタンをタッチします。
2. パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。
3. [エディタ] 画面が表示されたら、[カラーバー] ボタンをタッチします。



スキャニングシステムの概要：カラーバー エディタ

ホーム

カラーバー リストボックス

システムで現在使用できるカラーバーのリストです。カラーバーリストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 8 個以上のカラーバーが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにカラーバーの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のカラーバーが見つかったら、そのカラーバーをタッチして選択します。これで、画面右にあるボタンを使用してカラーバーを操作できるようになります。

新規作成

新しいカラーバーを作成するには、[新規作成] をタッチします。[新規作成] をタッチすると、新しいカラーバーの名前と基本パラメータの入力を促すダイアログボックスが表示されます。この画面から [カラーバーの編集] 画面に移動し、新しいカラーバーの定義と保存を行うことができます。

削除

選択されているカラーバーをシステムから削除するには、[削除] をタッチします。[削除] をタッチすると、カラーバーを削除するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[はい] をタッチすると削除されます。

注記：プロジェクト テンプレートで現在使用されているカラーバーを削除することはできません。

名称変更

選択されているカラーバーの名前を編集するには、[名称変更] をタッチします。[名称変更] をタッチすると、カラーバーの名前を入力するためのダイアログボックスが表示されます。名称を編集して、[次へ] をタッチします。

複製

選択されているカラーバーを複製するには、[複製] をタッチします。[複製] をタッチすると、カラーバーの複製につける新しい名前を入力を促すダイアログボックスが表示されます。新しいカラーバーを保存するには、[複製] をタッチします。

編集

[編集] をタッチすると、選択されているカラーバーのパラメータを変更できる画面が表示されます。[編集] をタッチすると、[カラーバーの編集] 画面が表示されます。カラーバーの編集を終えたら、[保存] をタッチしてカラーバーを保存します。

読み込み

既存のカラーバーをシステムに追加するには、[読み込み] をタッチします。[読み込み] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでカラーバー エディタ (.cbl) ファイルを検索し、選択することができます。[開く] をタッチすると、選択したファイルが読み込まれます。

そのカラーバーがすでにシステムに存在している場合は、上書きするかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[いいえ] をタッチすると、新しい名前をタッチまたは入力できるダイアログボックスが表示され、[次へ] をタッチするとそのファイルが読み込まれます。

書き出し

既存のカラーバーをファイルに保存するには、[書き出し] をタッチします。[書き出し] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。ファイルの名称を入力して [保存] をタッチすると、そのファイルへの書き込みが行われます。

カラーバーの必要条件

ここでは、カラーバーを作成、レイアウトする際の条件を紹介します。これにより、装置によるカラーバーの可読性が向上します。

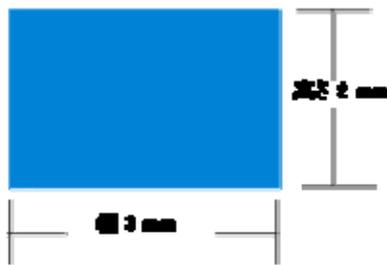
カラーバーの必要条件

- カラーバー作成に使用できる色数は 16 色までです。
- カラーバーは、シート幅よりも長い幅を定義することができます。

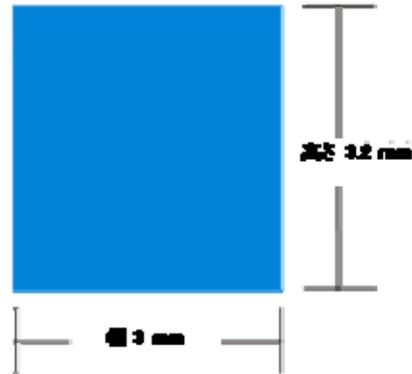


- カラーバーに「リピート」を設定し、1 つのセクションを反復させることができます。この場合、リピート パターンを リピート自信のミラー（反転）イメージとすることはできません。
- 同色で異なったパターンのパッチ（ベタのシアンと 75%のシアンなど）を隣接させても測定可能ですが、同色同パターンのパッチ（2 つのベタシアンパッチなど）は隣接させないでください。
- 測定可能な最小パッチ幅は 3.0mm、高さ 3.2mm です。（オプションのスモールアパーチャの場合は高さ 2.0mm です。）

中スキャン用最小パッチサイズ



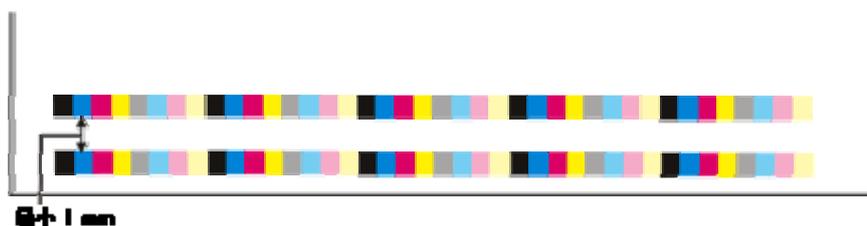
中スキャン用最小パッチサイズ



- 不使用パッチの最小幅は 0.5mm です。
- パッチ幅をキー幅よりも長くすることはできません。

並べ方の条件

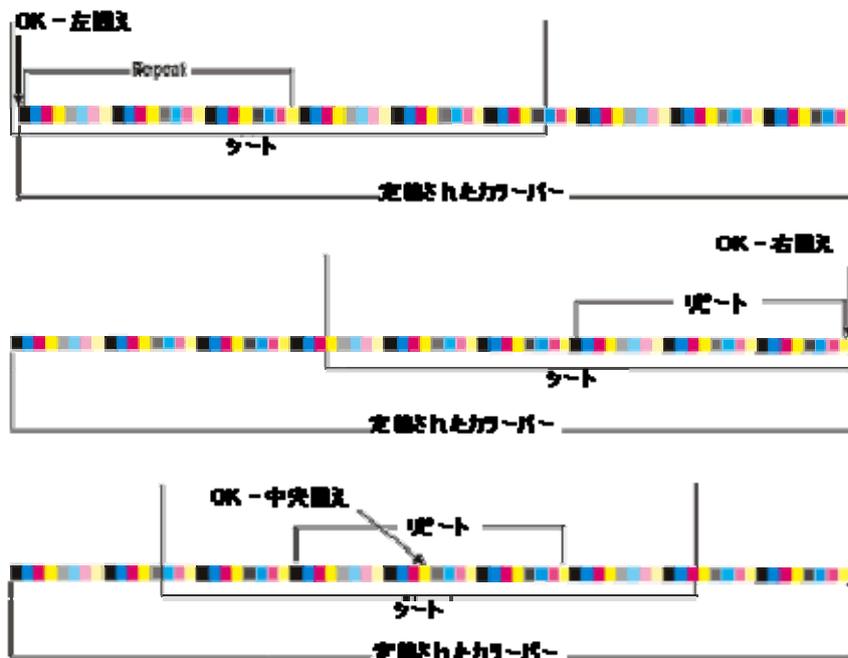
- リPEATの長さは一貫している必要があります。
- シートの最初または最後でのみ、リPEATが分断されていても構いません。
- 余分な非用紙情報は使用されないパッチとして指定する必要があります（これには、ダッド、スラー、サンバースト パタンなどが含まれます）。スキャンシステムでは、ベタ、アミ点、オーバープリント（2色および3色）、グレーバランス、用紙のパッチのみが認識されます。他のすべてのものは「使用しない」パッチとして保存する必要があります。
- カラーバー内に用紙パッチが定義されていない、あるいは用紙パッチが印刷されなかった場合は、カラーバーの横に印刷されていない用紙部分が必要になります。
- 全体の長さがシート端から 1.5 インチ（38mm）以内に収まっているかぎり、カラーバーに（シート端に対して）わずかな角度が付いていてもヘッドは追従できます。認識と測定を正しく行うためには、角度を 1° 未満にすることが推奨されます。
- カラーバーを弓なりに配置しないでください。必ず直線状に配置してください。（カラーバーの中央が、両端よりも高かったり、低かったりしてはいけません。）
- カラーバーの上下には最小 1mm の余白を設けてください。（2つのカラーバー間、カラーバーとプロファイルターゲット間、カラーバーと絵柄間等。）



- プロファイルターゲットの列には余白を設けしないで下さい。しかし、前述のように、ICCプロファイルターゲットとカラーバーの間には 1mm 以上の空間が必要です。



- 装置によるカラーバーのパターン認識が正しく行われるよう、カラーバーのリPEATの始まりと終わりは、シートの左揃え、右揃え、あるいは中央揃えにする必要があります。この位置揃えの規則が守られているかぎり、アプリケーション内で定義されるカラーバーの幅がシートの幅を超えていても構いません（32 インチ / 813mm のシートに 40 インチ / 1016mm のカラーバーが定義されている場合など）。



用紙条件

定形用紙サイズは、ジョブを通して一定でなくてはなりません。カットされた用紙で再測定された場合、パッチとキーの割り当てが異なることがあります。

作成：カラーバー

[作成：カラーバー] システムで使用する新しいカラーバーを作成するときの最初のステップです。このダイアログボックスは、[カラーバーの編集] 画面にある [新規作成] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

名称

この欄をタッチすると、新しいカラーバーの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。

カラーバーの高さ

カラーバーの高さをミリメートル単位で指定することができます。

注記：カラーバーの高さに指定できる最小値は、小スポット 2.0mm、中スポット 3.2mm、大スポット 4.0mm です。

標準パッチ幅

カラーバーのパッチの幅をミリメートル単位で指定することができます。

注記：カラーバーパッチの最小幅は 3.0mm です。(不使用パッチの最小幅は 0.5mm です。)

次へ

このボタンをタッチすると、[カラーバーの編集] 画面が開き、この画面で新しいカラーバーのパラメータを編集し、保存することができます。

複製：カラーバー

[複製：カラーバー] ダイアログボックスでは、既存のカラーバーから新しいカラーバーを作成することができます。このダイアログボックスは、[カラーバーの編集] 画面にある [複製] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

名称

この欄に、新しいカラーバーの名前を入力します。

カラーバーの反転

このチェックボックスを選択すると、カラーバーのパッチの順序が逆になります。例えば、元のカラーバーの4つのパッチがブラック、シアン、マゼンタ、イエローの順序で並んでいるとします。反転刷りカラーバーを選択すると、新しい色のパッチはイエロー、マゼンタ、シアン、ブラックの順序になります。

複製

このボタンをタッチすると、[カラーバーの編集] 画面が開き、この画面で新しいカラーバーのパラメータを編集し、保存することができます。

カラーバーの編集

[カラーバーの編集] 画面では、システムで使用されるカラーバーのパラメータを作成・変更することができます。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- [カラーバー エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- [作成：カラーバー] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。
- [複製：カラーバー] ダイアログボックスで [複製] をタッチします。

コントロールの説明

カラーバーの編集領域

[カラーバーの編集] 画面の最上部に、カラーバーの全てのパッチが表示されます。このカラーバー上に、幅 9 パッチ分の黒い矩形が表示されています。カラーバーの下には、黒い矩形内の 9 パッチの詳細情報が表示されます。

最上部のカラーバーをタッチすることで、黒い矩形を移動することができます。あるいはカラーバーの詳細表示にある矢印をタッチしても移動できます。

カラーバーの詳細表示でパッチをタッチして選択します。

パッチタイプ

これらのボタンを使用して、パッチタイプを定義することができます。ボタンをタッチします。拡大表示画面でパッチを選択し、[パッチタイプ] ボタンをタッチしてパッチを定義します。ボタンは以下のように定義されています。



単色ベタ



単色アミ点



オーバープリント



3色オーバープリント



グレーバランス



用紙



使用しない (またはスラー)

アミ点

これらのボタンを使用して、「単一インキ アミ点」として定義されたパッチにアミ点値を設定します。2 つ目の アミ点タイプ ボタンをタッチすると、[アミ点] ボタンがアクティブになります。必要なボタンをタッチして、パッチのアミ点を調整します。

注記：アミ点は、[システム設定ツール] を使用して設定します。

インキ

これら 16 個のボタンを使用して、パッチにインキ色を適用することができます。ボタンにはそれぞれ固有の番号が付けられています。ボタンの色は、[インキの変更] をタッチし、[インキの選択] 画面を使用して定義します。

注記：詳細カラーバー内のパッチには、インキ番号も表示されます。

注記：白色の斜線が入ったグレーボタンは、インキが定義されていないボタンであることを意味します。

インキの変更

このボタンをタッチすると、[インキの選択] 画面が表示されます。[インキの選択] 画面では、インキツボの色の追加、編集、削除を行うことができます。

カラーバーの名称

この欄には、編集集中のカラーバーの名前が表示されます。

現在のパッチ

この領域には、詳細カラーバー内で現在選択されているパッチの欄とコントロールが表示されます。

- # 個中の # 番目：カラーバー上の全パッチ数のうち、カラーバーの左から数えてそのパッチが何番目にあるかを示します。
- タイプ：パッチのタイプを示します（例：ベタ、アミ点）。
- インキインキ色に対応するインキボタンの番号を示します。
- 位置：カラーバーの左端から、選択されているパッチの先頭部分までの距離をミリメートル単位で示します。
- 幅：パッチの端から端までの距離をミリメートル単位で示します。ボタンをタッチすると、幅を編集することができます。

カラーバー パラメーター

この領域には、現在のカラーバーの幅を定義するための欄とボタンが表示されます。

- 全長：カラーバーの幅をミリメートル単位で示します。
- 高さ：カラーバーの高さをミリメートル単位で示します。このボタンをタッチすると、現在のカラーバーの高さを編集することができます。
- 標準パッチ幅：パッチの幅をミリメートル単位で示します。このボタンをタッチすると、現在のカラーバーの全てのパッチの幅を編集することができます。

挿入

このボタンをタッチすると、カラーバーの詳細表示で現在選択されているパッチの左側に、新しいパッチを挿入することができます。

削除

このボタンをタッチすると、カラーバーの詳細表示で現在選択されているパッチを削除することができます。

リピートを作成

このボタンをタッチすると、カラーバーに挿入されるリピートパターンの作成プロセスが開始されます。

リピートを追加

このボタンをタッチすると、カラーバーの詳細表示で現在選択されているパッチの左側に、作成されたリピートパッチパターンを挿入することができます。

保存

このボタンをタッチすると、現在のカラーバーに行った編集内容が保存され、[カラーバーの編集] 画面が閉じられます。

手順

パッチを挿入するには

1. カラーバーの詳細表示の挿入パッチをタッチします。（挿入パッチは、赤色の + 記号が付いた白色のパッチです。）
2. [パッチタイプ] エリアから、目的のパッチを選択します。
注記：アミ点パッチタイプをタッチした場合は、[アミ点] エリアでアミ点値を選択してください。
4. [インキ] エリア内で適切なボタンをタッチして色を選択します。
注記：ステップ 2 で選択したパッチタイプに必要な色数を選択してください。

挿入パッチの左側に新しいパッチが挿入されます。

カラーバー上の色を編集するには

1. カラーバーの詳細表示の必要なパッチをタッチします。
注記：[現在のパッチ] エリアがアクティブになります。
2. パッチタイプを変更する場合は、[パッチタイプ] エリアから新しいタイプを選択します。
注記：アミ点パッチタイプをタッチした場合は、[アミ点] エリアでアミ点値を選択してください。
3. [インキ] エリア内で適切なボタンをタッチして色を選択します。
注記：ステップ 2 で選択したパッチタイプに必要な色数を選択してください。

リピートを作成するには、

1. [リピートの作成] をタッチします。
2. カラーバーの詳細表示で、リピートの [開始] 位置にあるパッチをタッチします。
3. カラーバーの詳細表示で、リピートの [終了] 位置にあるパッチをタッチします。
リピート パターンが [リピートの作成] ボタンの下に表示されます。
4. カラーバーの詳細表示で、リピートの挿入位置にあるパッチをタッチします。
5. [リピートの追加] をタッチします。

インキの選択

[インキの選択] 画面では、インキツボの色の追加、編集、削除を行うことができます。この画面は、[カラーバーの編集] にある [インキの変更] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

インキ

これらのインキツボを使用して、カラーバー上で使用するインキ色を選択することができます。ツボにはそれぞれ固有の番号が付けられています。ツボの色は、そのボタンをタッチし、[インキ色] リストボックスから色を選択することで定義されます。

ライブラリ リストボックス

システムで使用できるインキ色のリストです。次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートのインキ ライブラリを選択してください。

- システムに4つ以上のインキ ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにインキ ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のインキ ライブラリが見つかったら、そのインキ ライブラリをタッチして選択します。

インキ リストボックス

インキライブラリーで使用できる色のリストです。次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートのインキ色を選択してください。

- ライブラリに4色以上が登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに色の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 必要なインキ色が見つかったら、画面左の「インキ」の下にあるインキツボ マークをタッチし、リストから必要な色を選択して適用します。

注記:ブラック、シアン、マゼンタ、イエローのインキツボは、常に画面最下部に表示されません。

注記:インキツボを「インキなし」として定義するには、白色の斜線が入ったグレーのボタンをタッチします。

保存

このボタンをタッチしてインキの編集内容を保存し、[インキの選択] 画面を閉じ、[カラーバーの編集] 画面に戻ります。

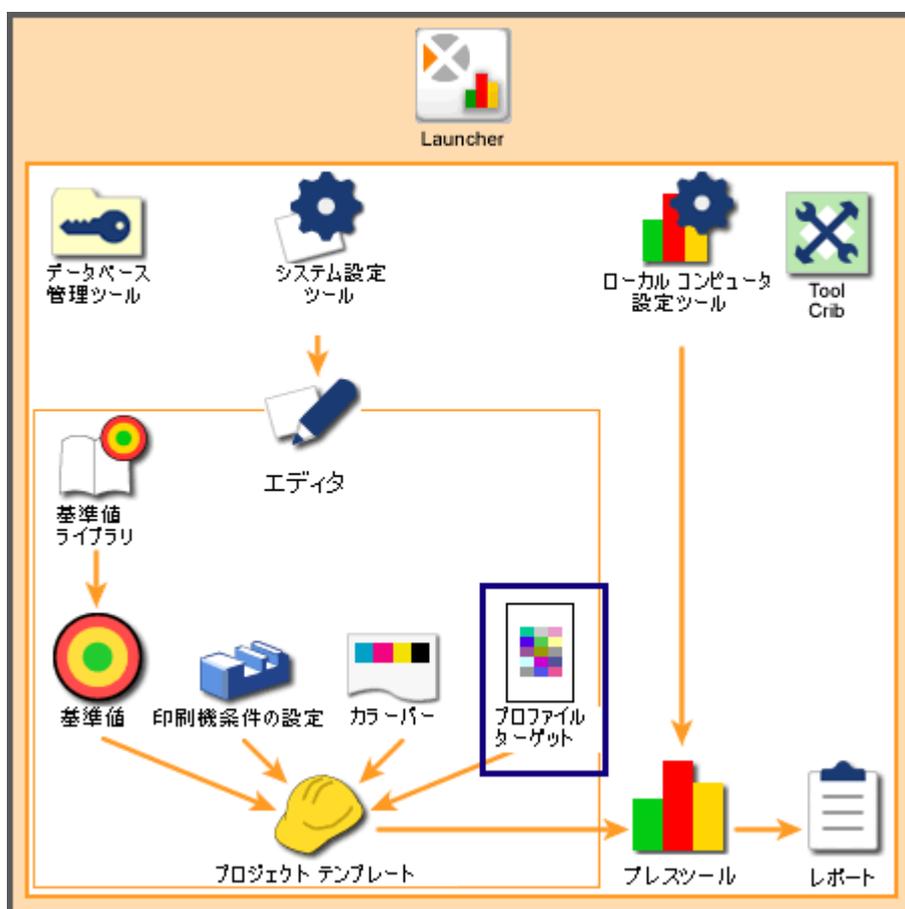
プロファイルターゲット エディタ

プロファイルターゲット エディタでは、新規プロファイルターゲットの作成、編集、複製や既存プロファイルターゲットの読み込み/書き出し、およびスキャニング システムからの削除を行うことができます。

プロファイルターゲット エディタを使用して作成されたプロファイル ターゲットは、プロジェクトテンプレート エディタを使用してプロジェクトテンプレートの一部として保存することができます。

プロファイルターゲット エディタを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[エディタ] ボタンをタッチします。
2. パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。
3. [エディタ] 画面が表示されたら、[] ボタンをタッチします。



スキャニング システムの概要：プロファイルターゲット エディタ

ホーム

プロファイルターゲット リストボックス

システムで現在使用可能なプロファイル ターゲットのリストが画面左側に表示されます。プロファイル ターゲット リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 8 つ以上のプロファイルターゲットが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにプロファイルターゲットの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のプロファイルターゲットが見つかったら、そのプロファイルターゲットをタッチして選択します。これで、画面右側にあるボタンを使用して、プロファイル ターゲットを操作できるようになります。

新規作成

新しいプロファイルターゲットを作成するには、[新規作成] をタッチします。[新規作成] をタッチすると、新しいプロファイルターゲットの名前と基本パラメータの入力を促す最初の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面が表示されます。この画面から次の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面に移動し、新しいプロファイルターゲットの定義と保存を行うことができます。

削除

選択されているプロファイルターゲットをシステムから削除するには、[削除] をタッチします。[削除] をタッチすると、プロファイルターゲットを削除するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[はい] をタッチすると削除されます。

注記：プロジェクトテンプレートで現在指定されているプロファイルターゲットを削除することはできません。

名称変更

選択されているプロファイルターゲットの名前を編集するには、[名称変更] をタッチします。[名称変更] をタッチすると、プロファイルターゲットの名前を入力するためのダイアログボックスが表示されます。名称を編集して、[次へ] をタッチします。

複製

選択されているプロファイルターゲットを複製するには、[複製] をタッチします。[複製] をタッチすると、プロファイルターゲットの複製につける新しい名前の入力を促すダイアログボックスが表示されます。新しいプロファイルターゲットを保存するには、[次へ] をタッチします。

編集

[編集] をタッチすると、選択されている印刷機条件のパラメータを変更できる画面が表示されます。[編集] をタッチすると最初の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面が表示され、ここでプロファイルターゲットの基本プロファイルを編集することができます。この画面から

2 番目の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面に移動し、プロファイル ターゲットの定義と保存を行うことができます。

読み込み

既存のプロファイルターゲットをシステムに追加するには、[読み込み] をタッチタッチします。[読み込み] をタッチすると Microsoft Windows ダイアログボックスが表示され、ここでプロファイル タイプ ライブラリ (.pft) ファイルを検索し、選択することができます。[開く] をタッチすると、選択したファイルが読み込まれます。

そのプロファイルターゲットがすでにシステムに存在している場合は、上書きするかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[いいえ] をタッチすると、新しい名前をタッチまたは入力できるダイアログボックスが表示され、[次へ] をタッチするとそのファイルが読み込まれます。

書き出し

既存のプロファイルターゲットをファイルに保存するには、[書き出し] をタッチします。[書き出し] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。ファイルの名称を入力して [保存] をタッチすると、そのファイルへの書き込みが行われます。

作成：ターゲットの設定：最初の画面

最初の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面は、プロファイルターゲットの作成・編集を行うための最初のステップです。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- [プロファイル エディタ] 画面上の [作成] をタッチします。
- [プロファイル エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。

[作成/編集：プロファイルターゲット] 画面に表示されるコントロールは次のとおりです。

プロファイルターゲット名

- [作成] をタッチして [プロファイル エディタ] 画面を開いた場合は、この欄をタッチして開くダイアログボックスに、新しいプロファイルターゲットの名前を入力することができます。
- [編集] をタッチして [プロファイル エディタ] 画面を開いた場合は、現在のプロファイルターゲットの名前が表示されます。

プリンタ タイプのリストボックス

システムで現在使用できるプリンタのリストです。印刷機で使用できるインキ数が「プリンタのタイプ」によって定義されます。次のコントロールを使用してください。

- システムに 4 つ以上のプリンタタイプが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにプリンタタイプの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のプリンタタイプが見つかったら、そのタイプをタッチして選択します。

インキこのボタンをタッチすると、[インキの選択] 画面が開き、ここで5色以上を使用するプリンタタイプを選択すると追加インキ色を定義することができます。

注記: [インキ] ボタンは、プリンタタイプ リストボックスで「CMYK」以外のプリンタタイプが選択されている場合にのみ選択可能になります。

スクランブルパッチを使用

ターゲットのパッチの順序を変更する場合に選択します。印刷機のように、インキを不均等に出力するデバイスから印刷する場合に便利です。

次へ

このボタンをタッチすると2番目の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面が開き、この画面でプロファイル ターゲットの編集し、保存することができます。

作成：プロファイルターゲット：2番目の画面

2番目の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面は、プロファイル ターゲットの作成・編集を行うための 2番目のステップです。この画面は、[作成/編集：プロファイルターゲット] 画面で [次へ] をタッチすると表示されます。[作成/編集：プロファイルターゲット] 画面に表示されるコントロールは次のとおりです。

ブレインキ量制限

印刷に使用可能なすべてのインキの最大総インキ量を示します。この設定により、品質リストボックス内のパッチ数が再計算されます。

このボタンをタッチすると、ブレインキ量制限値を入力できるダイアログボックスが表示されます。

ここで入力する値によって、品質リストボックスに表示される項目数が変更されます。

注記: 品質リストボックスで、ECI、IT8.7/4、IT8.7/3 のいずれかが選択されている場合には、このボタンはグレー表示されます。これらのターゲットは業界標準です。

品質リストボックス

プリンタ ターゲットを示します。表示されるパッチセットは、前の画面で選択されたプリンタタイプと、適用されているブレインキ量制限によって異なります。

CMYK プリンタには使用可能ないくつかのパッチセットが表示され、RGB プリンタには 3つのパッチセット、マルチインキ プリンタには 8色までのパッチセットが表示されます。次の業界標準のパッチセットもサポートされています。

- IT8.7/3 Extended：業界標準のプリンタ ターゲットです。
- IT8.7/4：主に包装業界で使用されます。このターゲットには、特別な 4色（黒）パッチのほか、ハイライト領域とシャドウ領域で使用される多くのパッチが含まれています。
- ECI：一般的なキャラクタライゼーション。IT8.7/3 ターゲットに追加され、IT8.7/4 ターゲットで使用されている多くのパッチが含まれています。

[検索] をタッチして開くダイアログボックスに、ターゲット品質の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、最初の 4 項目または次の 4 項目を表示することもできます。

目的のターゲット品質が見つかったら、タッチして選択します。

出力ターゲット幅

プロファイル ターゲット作成時に入力された幅が表示されます。

このボタンをタッチすると、出力ターゲットの長さをミリメートル単位で入力できるダイアログボックスが表示されます。

アパーチャー (測定径) サイズ

装置には、スモールサイズ、ミディウムサイズ、ダイナミックポラリゼーションのいずれかのアパーチャーが付いています。装置に使用されているものと同じアパーチャーサイズを選択してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在のプロファイル ターゲットに行った編集内容が保存され、2 番目の [作成/編集：プロファイルターゲット] 画面が閉じられます。

インキの選択

[インキの選択] 画面では、インキツボの色の追加、編集、削除を行うことができます。この画面は、[カラーバーの編集] にある [インキの変更] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

インキ

これらのインキツボを使用して、カラーバー上で使用するインキ色を選択することができます。ツボにはそれぞれ固有の番号が付けられています。ツボの色は、そのボタンをタッチし、[インキ色] リストボックスから色を選択することで定義されます。

ライブラリ リストボックス

システムで使用できるインキ色のリストです。次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートのインキ ライブラリを選択してください。

- システムに 4 つ以上のインキ ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにインキ ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のインキ ライブラリが見つかったら、そのインキ ライブラリをタッチして選択します。

インキ リストボックス

インキライブラリーで使用できる色のリストです。次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートのインキ色を選択してください。

- ライブラリに4色以上が登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに色の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 必要なインキが見つかったら、画面左にあるインキツボをタッチし、リストから必要なインキを選択して適用します。

インキ削除ボタン

画面右下にあるこのボタンをタッチすると、選択されているインキツボからインキが削除されます。

保存

このボタンをタッチしてインキの編集内容を保存し、[インキの選択] 画面を閉じ、[作成/編集：プロファイルターゲット] 画面に戻ります。

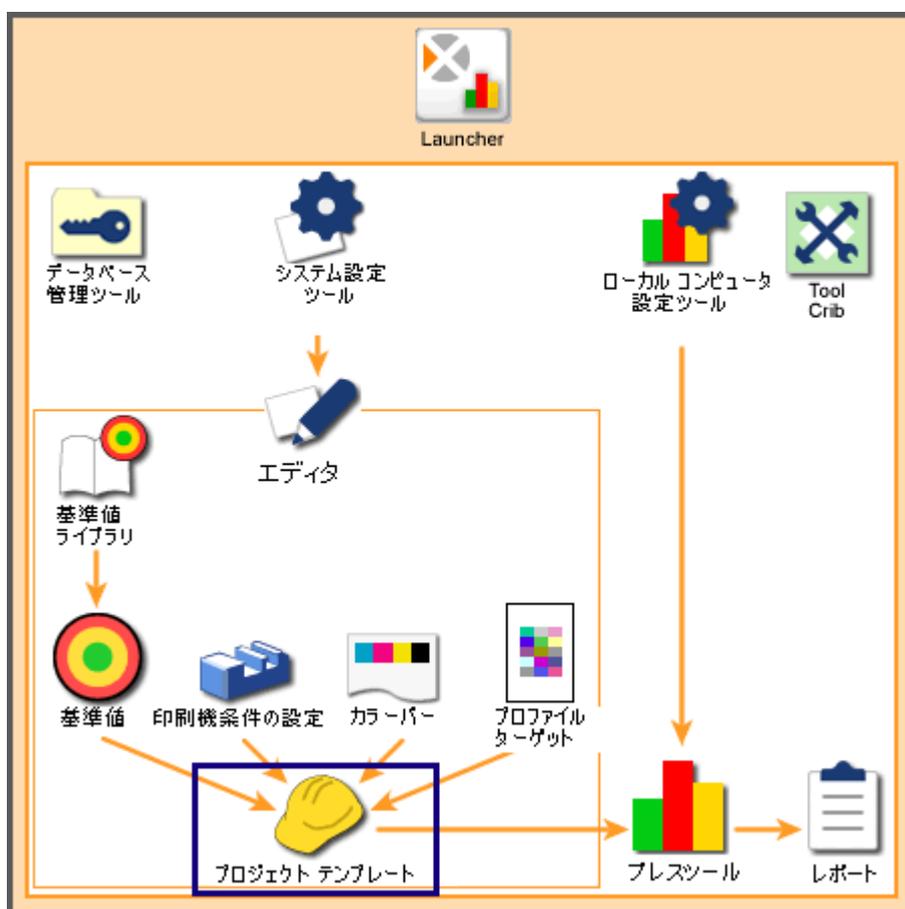
プロジェクトテンプレート エディタ

プロジェクト テンプレート エディタでは、既存のプロジェクト テンプレートの編集、新しいプロジェクト テンプレートの作成、既存のプロジェクト テンプレートの複製、読み込み、書き出し、スキャニング システムからの削除を行うことができます。

プロジェクト テンプレートにより、ジョブで使用される印刷機条件、カラーバー、用紙、インキ、プロファイルが定義されます。プレスツールにおいてプロジェクト テンプレートを1つ選択することによって、ジョブをすばやく作成することができます。

プロジェクト テンプレート エディタを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[エディタ] ボタンをタッチします。
2. パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。
3. [エディタ] 画面が表示されたら、[プロジェクト テンプレート] ボタンをタッチします。



スキャニング システムの概要：プロジェクトテンプレート エディタ

ホーム

プロジェクト テンプレート リストボックス

システムで現在使用可能なプロジェクト テンプレートのリストが画面左側に表示されます。プロジェクト テンプレートのリストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに7つ以上のプロジェクト テンプレートが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにプロジェクト テンプレートの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のプロジェクト テンプレートが見つかったら、それをタッチして選択します。これで、画面右側にあるボタンを使用して、プロジェクト テンプレート进行操作できるようになります。

新規作成

新しいプロジェクト テンプレートを作成するには、[作成] をタッチします。[作成] をタッチすると、新しいプロジェクト テンプレートの名前を入力するように促すダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで [次へ] をタッチすると [プロジェクト テンプレートの編集] 画面が表示され、ここで新しいプロジェクト テンプレートを定義し、保存することができます。

削除

選択されているプロジェクト テンプレートをシステムから削除するには、[削除] をタッチします。[削除] をタッチすると、プロジェクト テンプレートを削除するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[はい] をタッチすると削除されます。

名称変更

選択されているプロジェクト テンプレートの名前を編集するには、[名称変更] をタッチします。[名称変更] をタッチすると、プロジェクト テンプレートの名前を入力するためのダイアログボックスが表示されます。名前を編集して、[次へ] をタッチします。

複製

選択されているプロジェクト テンプレートを複製するには、[複製] をタッチします。[複製] をタッチすると、プロジェクト テンプレートの複製につける新しい名前の入力を促すダイアログボックスが表示されます。[次へ] をタッチし [プロジェクト テンプレートの編集] 画面に進みます。

編集

[編集] をタッチすると、選択されているプロジェクト テンプレートのパラメータを変更できる画面が表示されます。[編集] をタッチすると、新しい画面にプロジェクト テンプレートの編集コントロールが表示されます。プロジェクト テンプレートの編集を終えたら、[保存] をタッチして保存します。

読み込み

既存のプロジェクト テンプレートをシステムに追加するには、[読み込み] をタッチします。[読み込み] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでプロジェクト テンプレート エディタ (.jtl) ファイルを検索し、選択することができます。[開く] をタッチすると、選択したファイルが読み込まれます。

そのプロジェクト テンプレートがすでにシステムに存在している場合は、プロジェクト テンプレートを上書きするかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。[いいえ] をタッチすると、新しい名前をタッチまたは入力できるダイアログボックスが表示され、[次へ] をタッチするとそのファイルが読み込まれます。

書き出し

既存のプロジェクト テンプレートをファイルに保存するには、[書き出し] をタッチします。[書き出し] をタッチすると Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。ファイルの名称を入力して [保存] をタッチすると、そのファイルへの書き込みが行われます。

プロジェクトテンプレートの編集

[プロジェクトテンプレートの編集] 画面では、特定のジョブで使用する印刷機条件、カラーバー、カラーバーの位置、用紙のタイプ、インキなどを定義することができます。この画面は以下のいずれかの操作で表示されます。

- [プロジェクトテンプレート エディタ] 画面上の [編集] をタッチします。
- [作成：プロジェクトテンプレート] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。
- [複製：プロジェクト テンプレート] ダイアログボックスで [次へ] をタッチします。

[プロジェクト テンプレートの編集] 画面には次のコントロールがあります。

名称

現在のプロジェクト テンプレートの名前が表示されます。

濃度ステータス

システムで現在使用されている濃度ステータスが表示されます。この設定はシステム設定ツールを使用して変更できます。

光源/視野

システムで現在使用されている光源 / 視野が表示されます。この設定はシステム設定ツールを使用して変更できます。

印刷機リストボックス

システムで現在使用できる印刷機のリストです。印刷機は印刷機条件の設定エディタを使用して作成します。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートの印刷機を選択してください。

- システムに3つ以上の印刷機が登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに印刷機の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の印刷機が見つかったら、その印刷機をタッチして選択します。

オモテ面/ウラ面タブ

- 印刷機 リストボックスで選択した印刷機が [両面] 印刷機、[反転両面] 印刷機、あるいは [非反転式両面] 印刷機の場合、画面最下部に [ウラ面] タブと [オモテ面] タブが表示されます。
- プレス リストボックスで選択したプレスが [片面] プレスの場合には、画面最下部にタブは表示されません。

啜え/紙尻

- 対象となるプロジェクトテンプレートで、シートの啜え側にカラーバーがある場合は、[啜え] をタッチします。
- 対象となるプロジェクトテンプレートで、シートの紙尻側にカラーバーがある場合は、[紙尻] をタッチします。

カラーバー リストボックス

システムで現在使用できるカラーバーのリストです。カラーバーはカラーバー エディタを使用して作成します。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクト テンプレートのカラーバーを選択してください。

- システムに3つ以上のカラーバーが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにカラーバーの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のカラーバーが見つかったら、そのカラーバーをタッチして選択します。

用紙

このボタンをタッチすると、[用紙の選択] 画面が表示されます。[用紙の選択] 画面では、現在のプロジェクトテンプレートで使用される用紙色を定義することができます。

インキ

このボタンをタッチすると、[インキの選択] 画面が表示されます。[インキの選択] 画面では、現在のプロジェクト テンプレートの印刷機に使用されるインキを定義することができます。

許容値係数

メークレディ中の基準値を、本刷り中/OK シートより広く設定する場合に使用します。印刷機の立ち上げ時に厳密に基準値に合わせる必要がない場合などにこの設定を使用してください。

数値は係数であるため、ターゲット許容値は入力した数値の倍数となります。例えば、次のようになります。

- 濃度許容値 = 0.5 および 1.0
- 許容値係数 = 1.5

上記の場合、メイクレディ シートの濃度許容値は 0.75 および 1.5 となります。

デフォルト値は 1.00 であり、メイクレディ シートの基準値の許容値は本刷りシートおよび OK シートの許容値と同じです。

許容値係数を編集するには、このボタンをタッチしてください。（入力可能な値は 1.00 ～ 3.00 です。）

プロフィールの作成

このボタンをタッチして表示される [ターゲット] 画面では、プロフィール作成機能を無効にしたり、プロフィールターゲットを編集することができます。

プロフィール機能では、装置でプロフィール作成用ターゲットを測定することによって、カラーマッチングを行うための ICC プロファイルを作成します。例えば、(ある印刷機で再現される色を) DDCP (Direct Digital Color Proofer)/カラープリンタ等から、忠実に再現することができます。

このボタンをタッチすると、現在のプロジェクトテンプレートで使用できるプロフィールの定義プロセスが開始されます。

保存

このボタンをタッチすると、現在のカラーバーに行った編集内容が保存され、[プロジェクトテンプレートの編集] 画面が閉じられます。

用紙選択

[用紙の選択] 画面では、現在のプロジェクトテンプレートで使用される用紙色を定義することができます。この画面は、[プロジェクトテンプレートの編集] にある [用紙] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

用紙色ライブラリ

この欄には、基準値ライブラリの名前が表示されます。

用紙色

この欄には、用紙ターゲットの名前が表示されます。

用紙色見本

この欄には、現在の用紙ターゲットの近似色が表示されます。

ライブラリ リストボックス

システムで現在使用できる基準値ライブラリのリストです。基準値ライブラリは基準値ライブラリ エディタを使用して作成します。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートの基準値ライブラリを選択してください。

- システムに4つ以上の基準値ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに基準値ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。

用紙リストボックス

現在選択されている基準値ライブラリで使用可能な用紙のリストです。用紙の測定および基準値ライブラリへの保存は、基準値エディタを使用して行います。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートの用紙を選択してください。

- システムに4色以上が登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに用紙の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の用紙が見つかったら、その用紙をタッチして選択します。[用紙色ライブラリ] 欄には 基準値ライブラリの名前が、[用紙名] 欄には用紙の名前が、[用紙色見本] 欄には用紙の近似色がそれぞれ表示されます。

保存

このボタンをタッチしてインキの編集内容を保存し、[用紙の選択] 画面を閉じ、[プロジェクトテンプレートの編集] 画面に戻ります。

インキの選択

[インキの選択] 画面では、プロジェクトテンプレートで指定された印刷機などの位置にどのインキを使用するかを指定することができます。この画面は、[プロジェクトテンプレートの編集] にある [インキ] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

インキ

左の円形のインキ色見本欄に使用するインキを登録します。いずれかの円にタッチして、青い枠で選択し、インキリストボックスからインキを選択します。円の上の番号は刷り順（印刷ユニットの順番）を表します。

ライブラリ リストボックス

システムで現在使用できる基準値ライブラリのリストです。基準値ライブラリは基準値ライブラリ エディタを使用して作成します。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートの基準値ライブラリを選択してください。

- システムに4つ以上の基準値ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに基準値ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。

インキ リストボックス

現在選択されている基準値ライブラリで使用可能なインキのリストです。インキの測定および基準値ライブラリへの保存は、基準値エディタを使用して行います。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートのインキ色を選択してください。

- システムに4色以上のインキが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにインキの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 必要なインキが見つかったら、画面左にあるインキツボをタッチし、リストから必要なインキを選択して適用します。

注記: インキユニットを「インキなし」として定義するには、白色の斜線が入ったグレーのボタンをタッチします。

保存

このボタンをタッチしてインキの編集内容を保存し、[インキの選択] 画面を閉じ、[プロジェクトテンプレートの編集] 画面に戻ります。

プロファイルターゲット

[プロファイルターゲット] 画面では、現在のプロジェクト テンプレートの印刷機に、プロファイル機能を使用するかどうかを決定することができます。この画面は、[プロジェクトテンプレートの編集] にある [プロファイル作成] をタッチすると表示され、次のコントロールを使用することができます。

プロファイルターゲット リストボックス

システムで現在使用できるプロファイルターゲットのリストです。プロファイル ターゲットはプロファイルターゲット エディタを使用して作成することができます。

次のコントロールを使用して、現在のプロジェクトテンプレートのプロファイルターゲットを選択してください。

- システムに6つ以上のプロファイルターゲットが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにプロファイルターゲットの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のプロファイルターゲットが見つかったら、そのプロファイルターゲットをタッチして選択します。

プロファイルを無効にする

このボタンをタッチすると、現在のプロジェクトテンプレートのプロファイル機能が無効になります。[プロファイルターゲット] 画面が閉じられ、[プロジェクトテンプレートの編集] 画面に戻ります。

次へ

このボタンをタッチすると、[プロファイル作成条件の設定] 画面が開き、[プロファイルターゲット] リストボックスで現在選択されている設定を編集することができます。これで現在のプロジェクト テンプレートのプロファイル機能が有効になります。

プロファイル作成条件の設定

[プロファイル作成条件の設定] 画面では、現在のプロジェクト テンプレートで使用されるプロファイルの設定を編集することができます。[プロファイルの設定] 画面で [次へ] をタッチすると表示されます。[プロファイル作成条件の設定] の設定 画面には、[プロファイル オプション]、[出力ファイルオプション]、[システム オプション] の 3 つのタブがあります。

また、[プロファイル作成条件の設定] 画面の最下部には次の 2 つのボタンがあります。

詳細設定

このボタンをタッチすると [詳細設定] 画面が開き、現在のプロファイルの詳細設定を編集することができます。

保存

このボタンをタッチして編集内容を保存し、[プロファイル作成条件の設定] 画面を閉じ、[プロジェクトテンプレートの編集] 画面に戻ります。

プロファイル オプション タブ

[プロファイル オプション] タブには次のコントロールがあります。

プロファイルを保存する

プロファイルをファイルに保存する場合に選択します。[ファイル名] および [フォルダ名] が編集できるようになります。

ファイル名

このコントロールをタッチすると、プロファイルの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。[OK] をタッチするとダイアログボックスが閉じられ、名前が保存されます。

フォルダ名

プロファイルを保存するデフォルトのフォルダが表示されます。異なるフォルダを選択する場合、あるいは新しいフォルダを作成する場合は、右側のボタンをタッチしてください。

出力ファイルオプション タブ

[出力ファイルオプション] タブには次のコントロールがあります。

データの種類

測定データのデータ形式を選択します。複数の形式を選択することができます。

- $L^*a^*b^*$: L^* 、 a^* 、 b^* の値が直交する 3 次元座標系の値。 L^* は明度、 a^* は赤 / 緑軸、 b^* は黄 / 青軸を表します。
- XYZ : 加法混色の 3 原色で目的の色を作り出すために必要な 3 成分の量を表します。CIE 表色系では、これらの 3 原色が X、Y、Z で指定されます。
- 分光反射率データ : 各波長における、サンプルから反射された放射強度の同じ照明条件による完全拡散反射体の放射強度に対する割合を示します。
- LCH : CIELAB に似た色空間ですが、LCH では直交座標の代わりに、明度、彩度、色相角で構成される円柱座標が使用されます。
- 濃度 : ターゲットが光を吸収する能力を感覚量に近い値に計算して表した値です。光を吸収する能力が高いほど、濃度値が高くなります。

出力データファイルを保存

プロファイルの測定データをファイルに保存したい場合を選択します。[ファイル名] および [フォルダ名] が編集できるようになります。

ファイル名

このコントロールをタッチすると、プロファイルの作成に使用した測定データを保存するファイルの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。[OK] をタッチするとダイアログボックスが閉じられ、名前が保存されます。

フォルダ名

プロファイル測定データ ファイルのデフォルトのフォルダが表示されます。異なるフォルダを選択する場合、あるいは新しいフォルダを作成する場合は、右側のボタンをタッチしてください。

システム オプション タブ

[システム オプション] タブには次のコントロールがあります。

濃度許容範囲

カラーバー測定後、プロファイルの作成プロセスに進む際に、許容できる濃度の範囲を定めます。このボタンにタッチして値を設定してください。

許容範囲外の場合 [プロファイル] ボタンを使用不可にする

測定したプロファイルターゲットに濃度許容範囲外のパッチがあった場合、プレスツールの [プロファイル] ボタンが使用できなくなります。

許容範囲外の場合は警告を出す

測定したプロファイルターゲットに濃度許容範囲外のパッチがあった場合、プレスツールの [プロファイル] ボタン押した時にメッセージボックスが現れます。メッセージボックスには、許容範囲から外れたユニットおよびキー番号とその濃度が表示されます。

詳細設定

[詳細設定] 画面では、現在のプロジェクトテンプレートで使用されるプロファイル機能の詳細設定を編集することができます。[プロファイル作成条件の設定] 画面にある [詳細設定] をタッチすることで表示されます。[詳細設定] 画面には、[インキ制御オプション] と [テーブル設定] の 2 つのタブがあります。

[詳細設定] 画面の最下部には次のボタンがあります。

OK

このボタンをタッチしてインキの編集内容を保存し、[詳細設定] 画面を閉じ、[プロファイル作成条件の設定] 画面に戻ります。

インキ制御オプション タブ

[インキ制御オプション] タブには次のコントロールがあります。

GCR/UCR

CMY の代わりに墨インキをどのように使用するかを制御します。

- GCR (グレー コンポーネント リプレースメント) : [墨版生成タイプ] エリアで、イメージ全体にわたり CMY の代わりに墨版インキを使用します。GCR では GCR 量と墨版生成レベルの組み合わせに基づいてイメージ全体の CMY の一部を墨版インキと置き換えます。大きな数値を入力するほどグレー成分を墨版で置き換える量が多くなり、グレー成分をあまり含まない彩度の高い色が増えます。このボタンをタッチすると、% の値を入力できるダイアログボックスが表示されます。
- 墨版生成レベル : 使用される墨版インキの相対量を、「なし」、「少」、「中」、「多」から選択します。
- UCR (アンダー カラー リムーバル) : 下色除去のことで、主にニュートラルとシャドウ領域で、特定の CMY のインキ成分が墨版インキに置き換わります。UCR を選択すると、[墨版生成タイプ] エリアが選択できなくなります。

最大ブラックインキ量

印刷に使用可能なブラックインキの最大量を示します。デフォルト設定は 100% です。

注意 : デジタルプリンタのプロファイルを作成する場合は、デフォルト設定を変更しないでください。

このボタンをタッチすると、% の値を入力できるダイアログボックスが表示されます。

最大総インキ量(TAC)

印刷に使用可能なインキの最大総インキ量を示します。デフォルト値は、プロファイルターゲットの [ブレインキ量制限] 設定の値となります。この値を減らすことはできますが、増やすことはできません。

このボタンをタッチすると、% の値を入力できるダイアログボックスが表示されます。

テーブル設定タブ

[テーブル設定] タブには次のコントロールがあります。

レンダリング イント

カラーマッチングを行う際の色域圧縮方法のデフォルトを指定します。

- 知覚的：全体のトーンのバランスを維持しながら色を変換する方法です。全色域を圧縮し、すべての色を印刷可能な色域に変換することで、微妙な色相関を維持しながら、できるだけ知覚的に近い色を表現する場合に選択します。ガンマットの大きいものから小さいものへと変換する場合に向いています。(例：RGB → CMYK)
- 彩度：すべての色をターゲット色空間に圧縮するときに、元のイメージの彩度を維持する場合に選択します。このイントは主にビジネス文書等のチャート、グラフ、グラフィックで使用される色を再現する場合に使用されます。
- 相対的な色彩値を維持：再現可能な最も近い色に再マッピングする場合に選択します。このイントを選択すると、異なる2つの色が、色変換後同一色になる可能性があります。
- 絶対的な色彩値を維持：[相対的な色彩値を維持]と同じく、色域の範囲内にある他の色に影響を及ぼすことなく、色域の範囲外にある色をプリンタで再現可能な最も近い色に再マッピングしますが、白色点の補正が行われません。変換後の白色点に色がつくので、用紙色も含めてのシミュレーションをしたい場合に有効です。

テーブル解像度

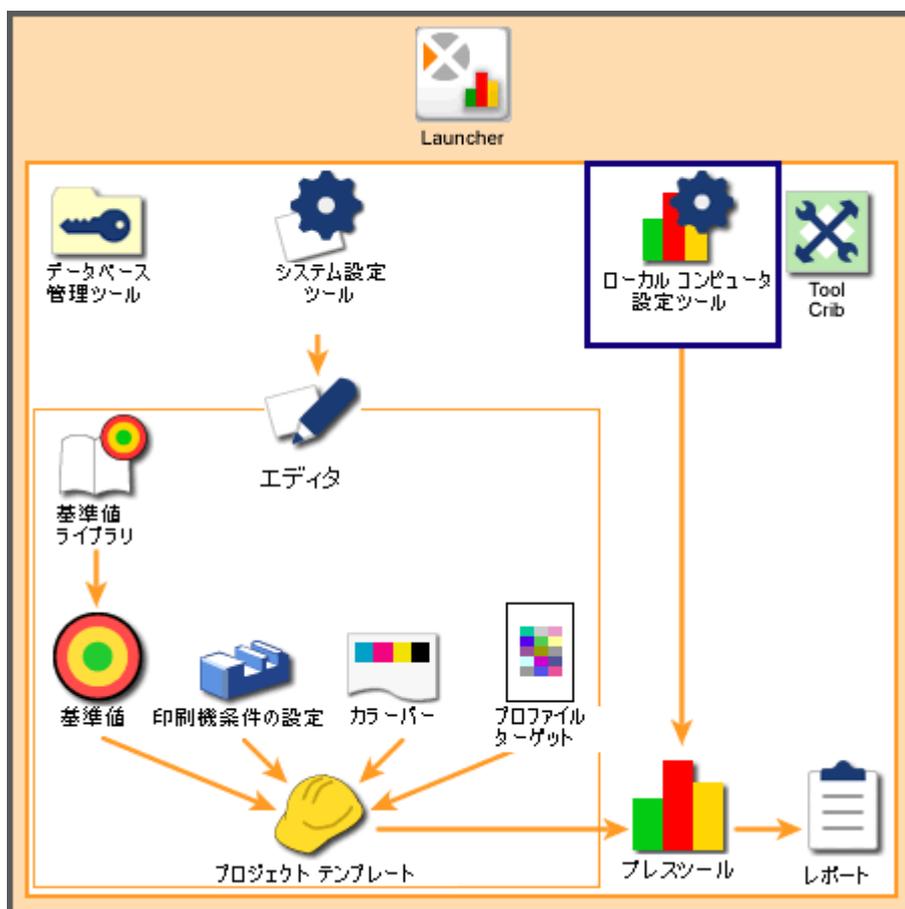
ICC プロファイルで使用される LUT (ルックアップテーブル) のサイズを選択します。ソフトウェアは LUT を使用して、使用可能な範囲から色を補間します。テーブル解像度は、より小さな色のポイントに分割される立方体またはポイントと考えることができます。より小さなポイントの数は、テーブル解像度の設定によって定義されます。

- 17x17x17 4913 ポイント
- 21x21x21 9261 ポイント
- 33x33x33 35937 ポイント

テーブル解像度が大きいほど、色をより厳密に表現することができますが、プロファイルのサイズが大きくなり、消費されるディスク容量とプリンタメモリが大きくなります。

ローカルコンピュータ設定ツール

ローカルコンピュータ設定ツールを使用して、プレスツールのデフォルトの機能と設定を定義することができます。ローカルコンピュータ設定ツールを起動するには、ランチャー (Launcher) を起動し、[ローカルコンピュータ設定ツール] ボタンをタッチします。パスワードを入力し、[パスワードの確認] をタッチします。



スキャニングシステムの概要：ローカルコンピュータ設定ツール

注記：ローカルコンピュータ設定ツールで行った変更は、プレスツールが起動されるまで有効になりません。プレスツールを実行している場合は、プレスツールを再起動する必要があります。

一般

[一般] タブでは、 ΔE 、マイナス用紙モードの演算方法やバキュームポンプの停止設定、キャリブレーションの実行に関する設定などを行います。

ΔE

欄をタッチして、総合色差の計算に使用する色差式を選択します。 ΔE は、特定条件下における 2つの 色の差の大きさと特性を表します。各色差式は、独自の知覚的な色差グレードおよび設定された特性における ΔE 許容範囲が求められます。

- CIE94 : CIE1976L*a*b* 表色系の明度、彩度、色相(L*C*h) をマンセル表色系を見たときの人間の知覚に合わせて補正した色差の計算方法です。
- CIE2000 : CIE94 のアップデートバージョンです。
- CMC : CIE1976L*a*b* 表色系において、明度、彩度、色相に各補正を行い、無彩色、鮮明色でも等間隔での差分表示を行おうと試みた色差式です。
- LABCH : CIE1976L*a*b* 表色系で得られた、L*a*b* の値の距離をもって色差とする最もスタンダードな計算方法です。L* は明度を表し、a* と b* は色度座標になっています。(a* は“赤/ 緑”の軸を示し、b* は“黄/ 青”の軸を示します。)

マイナス用紙のモード（相対濃度）を使用

このボタンを選択すると、ターゲットに「マイナス用紙」計算が使用されます。マイナス用紙を設定すると、シートの測定時に用紙そのものの測定値がプレスツールに考慮されます。

例えば、用紙の濃度が 0.1、測定されるカラーパッチの濃度が 1.0 だとします。この場合、プレスツールによって算出される濃度は 0.9（読み取られた濃度から用紙濃度を引いた値）となります。

すべての基準値はデフォルトで非選択状態になっています。

- 濃度 : 基準値の光吸収度を示します。
- ヒューエラー : プロセスインキの色相のズレを指します。各インキには、その色（色相）を表す番号が付けられています。
- グレーネス : プロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。
- プリントコントラスト : シャドウ情報が維持される程度を表します。
- グレーバランス : 無彩色（色彩のない）印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。

バキューム停止

装置が使用されていない間、バキュームをどのような方法で、いつ停止させるのかを決定します。

- 自動バキューム停止 : 装置が使用されていない「時間」を過ぎると、バキュームが停止します。
- 間隔 (分) : バキュームが停止されるまでの装置の休止時間を分単位で指定します。このボタンをタッチすると、分数を入力できるダイアログボックスが表示されます。

表示グラフ数

プレスツールのデータ表示領域に一度に表示できるインキの最大数を指定します。例えば、ジョブに 6 色のインキが使用され、このボタンに「4」が設定されていると、プレスツールで一度に表示されるのは 6 色のうち 4 色のインキのみとなります。

最大グラフ数は 6 です。

スキャニング装置のキャリブレーション

装置がどのような方法で、いつキャリブレーションを実行するのかを指定します。

- キャリブレーション間隔（時間）：装置がキャリブレーションを実行する間隔を時間単位で指定します。指定した時間が経つと、装置にキャリブレーションを実行させるかどうかを尋ねるメッセージボックスがプレスツール内に表示されます。このボタンをタッチすると、時間数を入力できるダイアログボックスが表示されます。
- キャリブレーション休止（分）：装置にキャリブレーションを実行させるかどうかを尋ねるメッセージボックスがプレスツール内に表示されたとき、[いいえ] を選択することができます。この場合、プレスツールは「キャリブレーション休止」時間が経ってから、同じ質問をします。このボタンをタッチすると、分数を入力できるダイアログボックスが表示されます。
- 新規ジョブ作成ごとにキャリブレーション：プレスツールによって新規ジョブの開始ごとにキャリブレーションが実行されます。

表示/非表示

[表示 / 非表示] タブでは、プレスツールのデータ表示領域に表示するデータ項目と、そのタイプを定義することができます。

注記：この欄での選択に関係なく、すべてのデータ項目がデータベースに保存されます。

濃度

基準値がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。ターゲットが吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。

- アミ点：アミ点インキパッチの濃度を表示します。
- オーバープリント 2 色オーバープリントパッチの濃度を表示します。
- グレーバランス：グレーバランス用インキパッチの濃度を表示します。
- 用紙：用紙パッチの濃度を表示します。

ヒューエラー

プロセスインキの色相のズレを指します。各インキには、その色（色相）を表す番号が付けられています。

- ベタ：ベタ インキパッチのヒューエラー データを表示します。
- オーバープリント：2 色オーバープリントパッチのヒューエラー データを表示します。

ドットゲイン

用紙のインキ吸収度を示します。用紙の吸収力が高いほどドットゲインが多くなります。

- アミ点：アミ点インキパッチのドットゲインを表示します。

トラッピング

用紙に対するインキの塗着量と、そのインキの、既に印刷されている他のインキ上への塗着量の比を表します。用紙の状態に関連して、既に印刷されているインキが次に印刷されるインキをどの程度受け入れられるかを示します。

- オーバープリント：2色オーバープリントパッチのトラッピング データを表示します。

グレーネス

プロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。例えば、純粋なイエローに少量のブラックを加えても色相(色)は変化しませんが、グレーネスは増加します。

- ベタ：ベタ インキパッチのグレーネス データを表示します。
- オーバープリント：2色オーバープリントパッチのグレーネス データを表示します。

グレーバランス

無彩色（色彩のない）印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。

- グレーバランス：グレーバランス用インキパッチのグレーバランス データを表示します。

プリントコントラスト

画像内の明領域と暗領域間の範囲の大きさを示します。プリントコントラストは、シャドウ情報が維持される程度を表します。

- アミ点：アミ点インキパッチのプリントコントラスト データを表示します。

ΔE (色差)

特定条件下における2つのオブジェクトの色の差の大きさと特性を表します。

- ベタ：ベタ インキパッチの色差データを表示します。
- 3色オーバープリント：3色オーバープリントパッチの色差データを表示します。
- オーバープリント：2色オーバープリントパッチの色差データを表示します。
- 用紙：用紙パッチの色差データを表示します。
- グレーバランス：グレーバランス用パッチの色差を表示します。

ブライトネス

用紙がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。用紙が吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。例えば、黒色用紙の濃度値は高くなります。

- 用紙：用紙パッチのブライトネス データを表示します。

測定後処理

[測定後処理] タブでは、プレスツールで測定されたログファイルとしてのデータの保存形式と場所を設定します。

注記：ログファイルは様々な形式で保存することができます。例えば、同じログファイルの情報を SDF や SVF で保存することができます。

SDF ファイルを作成

プレスツールによってログファイルが SDF（測定濃度ファイル）形式で作成されます。SDF ファイルはスキャニング装置および PQC にフィードバックをかける際にも使用されます。

[SDF ファイルの作成] を選択すると、次のコントロールを使用できるようになります。

- ファイル名を指定：すべての SDF に特定の名前を付けたい場合に選択します。例えば、「Press7」という名前を付けると、Press7_2005_07-20.sdf のように、すべてのファイル名にその名前が含まれます。右のボタンを押すと、保存するフォルダとファイル名を入力するダイアログが開きます。
- プロジェクト テンプレート / プロジェクト名を使用：現在のジョブに使用されるプロジェクト テンプレートの名前 を SDF の名前として付けたい場合に選択します。例えば、DefaultJT_2005_07-20.sdf のようになります。右側にあるボタンをタッチすると、プロジェクト名ファイルを選択できるダイアログボックスが表示されます。
- プリントスタートモード：旧バージョンの SDF 形式でログファイルが作成されます。以前のバージョンで動作する印刷システム の特定ソフトウェアとの互換性を維持したい場合に選択します。
- 追記モード：1 つのログファイルが作成され、その後に生成される新しいデータはこのファイルに追記されます。このオプションを選択しない場合は、新しいデータが生成されるたびに、新しいログファイルが作成されます。

SVF ファイルを作成

プレスツールによってログファイルが SVF（測定値ファイル）形式で作成されます。

これらのファイルには、プロジェクト情報と次のパッチ情報が含まれています。基準値の濃度および色彩値、測定された濃度および 色彩値、濃度差および色差、測定された 31 ポイントの分光反射率係数データ。

右のボタンを押すと、保存するフォルダとファイル名を入力するダイアログが開きます。

TVF ファイルを作成

プレスツールによってログファイルが TVF（ターゲット値ファイル）形式で作成されます。

これらのファイルには、プロジェクト情報に加え、[プロジェクト設定] ダイアログに基づくインキ基準値情報が含まれています。このファイルには、OK シート選択時のプロジェクト情報、インキ情報、パッチ濃度、色彩値、31 ポイントの分光反射率係数データが含まれています。また、ターゲット情報も含まれています。

右のボタンを押すと、保存するフォルダとファイル名を入力するダイアログが開きます。

データベースとキーボード

[データベースとキーボード] タブでは、プレスツール データベースの名前、データベースが保存されているコンピュータの名前、プレスツールおよびシステム エディタに使用されるキーボードのタイプを定義することができます。

データベース

プレスツール データベースが保存されているコンピュータの名前およびデータベースの名前を設定できます。

- 場所 (コンピュータ名) : このボタンをタッチすると、データベースが存在するコンピュータの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。
- データベース名 : このボタンをタッチすると、プレスツール データベースの名前を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。

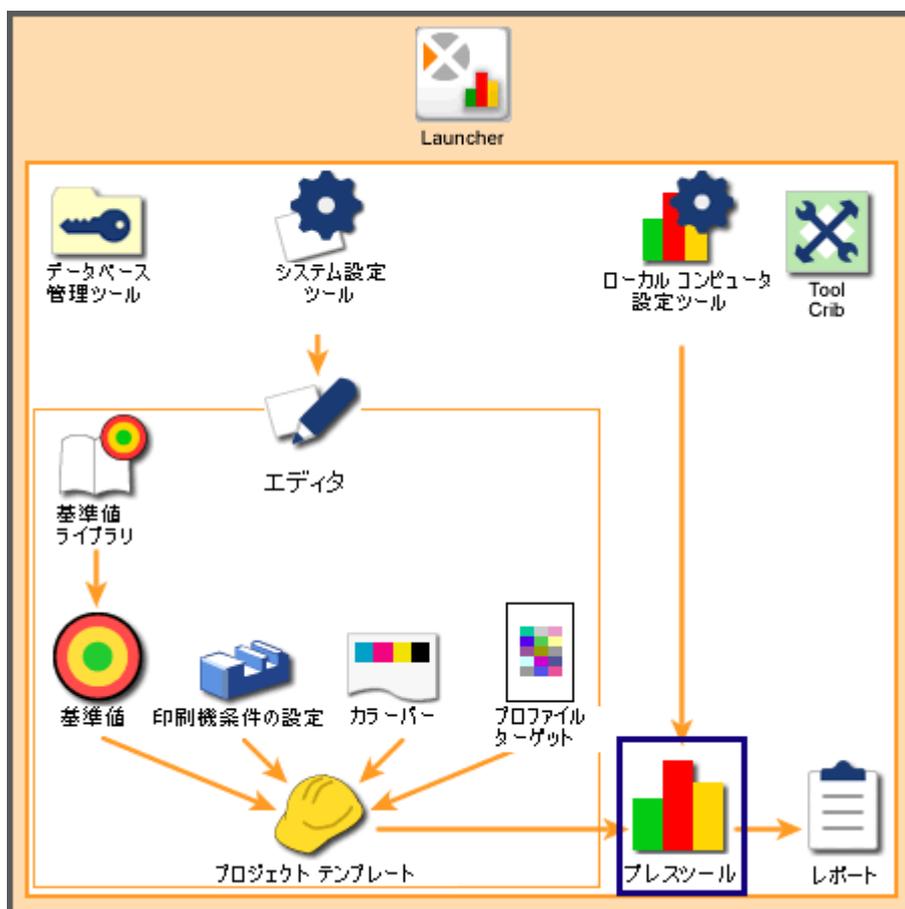
キーボード

プレスツールおよびシステム エディタのダイアログボックス内で使用されるキーボードのタイプを設定できます。

- アルファベットこのボタンを選択すると、プレスツールとシステム エディタで使用される名前入力用のダイアログボックスに、[英数字順] に並べられた文字ボタンが表示されます。
(例 : ABCDEF...)
- 多言語 : このボタンを選択すると、プレスツールとシステム エディタで使用される名前入力用のダイアログボックスに、[英数字順] に並べられた文字ボタンが表示されます。
(例 : QWERTY...)

プレスツール

プレスツールでは、分光測色計を使用して、印刷用紙上のカラーバーを測定し、測定データを表示します。それぞれのジョブごとに、濃度値やドットゲインなどの多くのデータ項目について基準値と許容値が事前に定義されています。プレスツールでは、印刷物がこれらの基準値に対してどの程度近いかを表示します。



スキャニング システムの概要：プレスツール

プレスツールの起動方法

プレスツールを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[プレスツール] ボタンをタッチします。
2. 複数の装置がインストールされている場合は、[装置名を入力] ダイアログボックスが表示されます。[次へ] をタッチします。
3. [ジョブ情報] 画面が表示されます。ジョブを新規に作成するか、既存のジョブを開いて続行してください。

プレスツールの 3 種類のヘルプ

- 概要：これらのページには、[プレスツールの概要] と、プレスツールバーに表示される各ボタンおよびコントロール、ならびに [データ表示領域] に関する説明があります。
- 手順：このページには、一般的なプレスツールの使用方法がステップバイステップで解説されています。
- 画面：これらのページには、プレスツール内で開くことのできる設定画面に関する説明があります。

プレスツールのヘルプ内の移動



[ホーム] ボタン：プレスツールのヘルプのホームページに移動します。各ページの右上にある [ホーム] ボタンをタッチすると、このページに戻ることができます。



[用語集] ボタン：各ページの右上にある [用語集] ボタンをタッチすると、用語集のページに移動することができます。「用語集」には、プレスツールで使用されている用語および略語の定義が書かれています。



複数のページにまたがるトピックもあります。ページ間を移動するには、左上にある [番号] ボタンをタッチしてください。番号が黒で表示された 明るいグレーのボタンは、現在のページを示しています。



[戻る] ボタン：このボタンをタッチすると、現在のページの前に表示していたページに戻ります。



[次へ] ボタン：このボタンをタッチすると、現在のページの次のページに移動します。



[印刷] ボタン：このボタンをタッチすると、現在のページを印刷することができます。



[閉じる] ボタン：このボタンをタッチすると、プレスツールのヘルプが閉じられます。

概要

[プレスツールの概要] のヘルプページには、プレスツールの概要と、プレスツールバーにある各ボタンおよびコントロール、ならびにデータ表示領域に関する説明が表示されます。

プレスツールには、2 つのバーと、1 つのデータ表示領域があります。これらに関するヘルプを見るには、このページにある3つのボタンのいずれかにタッチしてください。

トップバー

[プレスツール] 画面の最上部にあるバーには、2つのボタンセットがあります。最初のボタンセットを使用して、ジョブの選択や、印刷機タイプ、カラーバー、基準値タイプ、用紙タイプの調整を行うことのできる画面に移動することができます。2つ目のボタンセットは、データ表示領域に表示するデータのタイプを調整するために使用します。

ボトムバー

[プレスツール] 画面の最下部にあるバーには、プレスツール機能の全体を制御するためのボタンが表示されます。

データ表示領域

[プレスツール] 画面の中央部分には、測定されたカラーバーのデータが表示されます。この領域には、新しいジョブが開始されるまで、あるいは以前のジョブが継続されるまで、システム名以外は何も表示されません。

トップバーの概要

[プレスツール] 画面の最上部にあるバーには、2つのボタンセットがあります。デフォルトでは1つ目のボタンセット（左側）が表示されます。2つ目のボタンセット（右側）は、画面右上の矢印ボタンをタッチすると表示されます。



左側のボタンセットに戻るには、画面左上の矢印ボタンをタッチします。



トップバー：左

最初のボタンセットを使用して、ジョブの選択や、印刷機タイプ、カラーバー、基準値タイプ、用紙タイプの調整を行うことのできる画面に移動することができます。

トップバー：右

2つ目のボタンセットは、データ表示領域に表示するデータのタイプを調整するために使用します。

トップバーの概要：左

これらのボタンを使用して、ジョブの選択や、印刷機タイプ、カラーバー、基準値タイプ、用紙タイプの調整を行うための画面に移動することができます。ここでは各ボタンについて説明します。

ジョブ情報

[ジョブ情報] ボタンで、プロジェクト テンプレートを選択して新規ジョブを作成したり、既存ジョブを選択して新しいジョブを開始したり、既存ジョブを開いて続行したり、JDF ジョブから新規ジョブを作成することができます。

プロジェクト テンプレートによって、ジョブに使用される印刷機、インキ、カラーバー、基準値、許容値、プロファイル、用紙が定義されます。プロジェクト テンプレートを選択すると、ジョブの基本要件が全て定義されます。

[ジョブ情報] ボタンをタッチすると、[ジョブ情報] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

印刷機 / インキ

[印刷機 / インキ] ボタンを使用して、現在選択されているジョブの印刷機タイプとインキ情報を調整することができます。

印刷機およびインキ情報により、現在選択されているジョブの刷順とインキ情報を変更することができます。

注記：印刷の途中で印刷機およびインキ情報を変更することはできません。

[印刷機 / インキ] ボタンをタッチすると、[印刷機 / インキ] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

カラーバー

[カラーバー] ボタンを使用して、現在選択されているジョブのカラーバー情報を調整することができます。

カラーバー情報により、カラーバーのタイプ、カラーバーを構成するパッチ、印刷シート上のカラーバーの位置が定義されます。

[カラーバー] ボタンをタッチすると、[カラーバー] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

基準値と許容値

[基準値] ボタンを使用して、現在選択されているジョブの基準値と許容値の情報を表示し、調整することができます。

基準値と許容値の情報により、インキ色や、カラーバーのパッチの基準値と許容値が定義されます。

[基準値] ボタンをタッチすると、[基準値と許容値] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

シート情報

[シート情報] 画面では、現在のジョブの用紙とその位置情報を調整することができます。

用紙タイプ情報によって、用紙色とシート位置の左端キーのズレ量が定義されます。

[シート情報] ボタンをタッチすると、[シート情報] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。



このボタンをタッチすると、右バーのボタンが表示されます。

トップバーの概要：右

これらのボタンを使用して、[プレスツール] 画面のデータ表示領域にあるデータを調整することができます。ここでは各ボタンについて説明します。

右バーに移動



このボタンをタッチすると、左バーのボタン群が表示されます。このボタンの隣に、現在のプロジェクトとジョブに関する情報が表示されます。

- ジョブ名：現在開かれており、印刷機、インキ、カラーバー、基準値、プロファイル、用紙を定義しているジョブの名前が表示されます。
- プロジェクト名：現在のジョブが関連付けられているプロジェクトの名前が表示されます。
- ステータス：現在のシートのステータスとして、メイクレディ、本刷り、OK シートのいずれかが表示されます。
- 日付と時間：現在のシートが測定されたときの日付（年/月/日）と時間（時間：分：秒）が表示されます。

メイクレディ / 本刷り

これらのボタンで、プレスツールのモードを「メイクレディ」または「本刷り」に切り替えることができます。デフォルトでは、すべてのシートが「メイクレディ」として測定されます。[本刷り] をタッチすると、測定されるシートのステータスがその時点で「本刷り」に変更されます。

- メイクレディ：印刷ジョブにおいて許容値に合わせるための調整期間に測定されたシートです。メイクレディ シートが測定され、印刷機が調整されると、本刷りの準備が整います。
- 本刷り：本刷りが許容値を満たしているかどうかをチェックするために使用される測定されたシートです。プレスツールでは、シートステータスを「本刷り」に設定すると、その後に測定されるすべてのシートが本刷りシートに設定されます。

注記：現在のシートのステータスを変更するには、[シート情報] ボタンを使用します。

値

測定された各キーの数値がデータ表示領域に表示されます。再度タッチすると、数値が非表示になります。

差分値 / 実測値

- 差分値：測定データの基準値からの差を計算して表示します。
- 実測値：実際の測定データの値を表示します。ベタ濃度

ベタ濃度

データ表示領域にインキ濃度が表示されます。濃度は光吸収度を示します。ターゲットが吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。例えば、黒色ターゲットでは濃度値は高くなります。

注記：ベタインキ濃度は最もよく使用される測定値であるため、データ表示領域にはこのデータがデフォルトとして表示されます。ドットゲインとトラッピングもよく使用されます。使用頻度が低い測定値については次のページを参照してください。

アミ点

データ表示領域にドットゲイン データが表示されます。ドットゲインは設定上のアミ点%に対して、用紙上でアミ点がどの程度太っているかを示します。

[アミ点] ボタンをタッチした後に、その下に表示される数字ボタンをタッチして % を選択する必要があります。例えば「40」を選択すると、データ表示領域にはベタ色の 40% のアミ点面積率で印刷されたパッチのデータが表示されます。

トラッピング

用紙の状態に関連して、既に印刷されているインキが次に印刷されるインキをどの程度受け入れられるかを示します。

その他...

あまり使用されない属性のボタンが表示されます。これらのボタンをタッチすると、対応するデータがデータ表示領域に表示されます。

注記：各ジョブのすべてのデータ項目が表示されるわけではありません。



プリントコントラスト：画像内の明領域と暗領域間の範囲の大きさを示します。プリントコントラストは、シャドウ情報が維持される程度を表します。



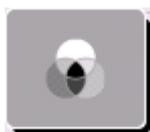
ヒューエラー：ヒューエラーとはインキの色相のズレを指します。



グレーネス：プロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。例えば、純粋なイエローに少量のブラックを加えても色相(色)は変化しませんが、グレーネスは増加します。



色差：特定条件下における 2 つのオブジェクトの色の差の大きさと特性を表します。



グレイバランス：無彩色（色彩のない）印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。



用紙：データ表示領域に用紙に関する測定値が表示されます。用紙濃度、色差、ブライトネス(用紙の特定波長の光反射率)の各情報を表示します。

オプション

プレスツール オプションのボタンが表示されます。これらのボタンをタッチすると、対応する機能を使用できます。



キーの管理：印刷機で使用しない、あるいは不要な特定のインキユニットのインキキーの表示を止めることができます。これらのインキキーに対する結果の棒グラフは表示されず、データ自体削除されます。

[キーの管理] ボタンをタッチすると、[キーの管理] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。



印刷：タッチすると、現在データ表示領域内にあるデータが印刷されます。デフォルトでは、Windows のコントロール パネルにある「プリンタと FAX」で設定されているプリンタで印刷されます。



情報：タッチすると、プレスツールの情報画面が開きます。この画面には、アプリケーションの全般的な情報、ユーザ情報、登録ステータスが表示されます。

ヘルプ

タッチすると、プレスツール オンラインヘルプのホームページが開きます。

終了

タッチすると、プレスツールが終了します。プレスツール アプリケーションを終了するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。

- 終了するには [はい] をタッチします。
- [いいえ] をタッチすると、プレスツール アプリケーションに戻ります。

キーの管理

[キーの管理] 画面では、印刷機の特定のインキキーを OFF にすることができます。例えば、プリント上の一箇所だけに使用される特色がある場合など、管理の必要のない領域でこのインキのプレスキーを OFF にすると、その領域での測定は行われません。

また、プリント上に正しく測定されていない部分がある場合にも [キーの管理] 画面を使用できます。クライアントがこのようなシートを承認しても、プレスツールでは問題を指摘してきます。適切なキーを OFF にしておくことで、エラーの発生を防ぐことができます。

[キーの管理] 画面には次のコントロールがあります。

インキの選択ボタン

現在のジョブで使用されているインキのリストです。[キーの管理] 画面を開いたときには、すべてのボタンが選択されています。個々のインキを選択するには、インキユニットをタッチします。すべてのインキを選択するには、同じインキユニットをもう一度タッチします。

キー編集領域

[キーの管理] 画面の中央には、すべてのプレスキーが並んだバーが表示されます。このバー上に、キー 10 個分の幅をもつ赤の四角い枠があります。バーの下には、赤い枠内にあるキーの詳細が表示されます。

バーをタッチすることで、赤い枠を移動することができます。あるいは詳細バーの左右にある矢印をタッチしても移動できます。

詳細バー上でキーをタッチして選択します。複数のキーを選択する場合は、1 つのキーをタッチしてから、別のキーをタッチします。タッチした 2 つのキーの間にあるすべてのキーが選択されます。

キーが ON のときは色付きで表示されます。キーが OFF のときは白色で表示されます。

今後の測定に変更を適用する

このボックスを選択すると、[保存] をタッチして保存した変更内容がその後の測定に適用されます。

注記: このボタンは、現在のジョブで最初の測定を実行した場合にのみ表示されます。最初の測定を実行する前に「キーの管理」に変更を行った場合、その変更はその後のすべての測定に反映されます。

使用

このボタンをタッチすると、選択されたインキの表示が選択されたキーに対して使用されます。キーは色で表示されます。

停止

このボタンをタッチすると、選択されたインキの表示が選択されたキーに対して使用されません。キーは白色で表示されます。選択されたキーのインキに関するデータはプレスツールに表示されず、そのレポートデータも収集されません。

停止キー全てに 選択インキを使用

このボタンをタッチすると、選択されたインキの表示がすべてのキーに対して ON になります。

OK

このボタンをタッチすると、キーに行った編集内容が保存され、[キーの管理] 画面が閉じられます。

ボトムバーの概要

[プレスツール] 画面の最下部にあるバーには、プレスツール機能の全体を制御するためのボタンが表示されます。ここでは各ボタンについて説明します。

OK シートに指定

このボタンをタッチすると、現在のシートがジョブの OK シートとなります。次の画面で、OK シートに設定するインキを選択してください。選択後、[OK] をタッチします。これにより、プレスツールは現在のシートを基準ターゲットとして認識します。（データ表示領域内の許容値がすべてゼロになります。） その他すべてのシートの許容値は、OK シートの測定値を基準として許容値が設定されます。

測定シート情報

このボタンをタッチすると、[測定したシート情報] ダイアログボックスが表示されます。このメッセージボックスには、以下の情報とコントロールが表示されます。

- シート番号：現在のシートが何番目に測定されたかを示す番号です。
- 測定日時：シートが測定された日時が表示されます。この日時は、年/月/日 時間：分：秒 の形式で表示されます。
- シートステータス：現在のシートのステータスを決定する 3 つのボタンがあります。これらのボタンを使用してステータスを変更することができます。
- メイクレディ：印刷ジョブにおいて許容値に合わせるための調整期間に測定されたシート。
- OK シート：その他すべてのシートに対する基準値となるシート。
- 本刷り：印刷ジョブが本刷り状態にあるときに測定されたシート。
- シートを削除：このボタンをタッチすると、データ表示領域に現在表示されているシートのデータが削除されます。例えば、いくつかのシートのカラーバーを測定した後に [削除] をタッチすると、データ表示領域に現在表示されているシートのデータのみが削除されます。[削除] をタッチすると、メッセージボックスが表示されます。[はい] 選択すると、データ表示領域に表示されているデータがジョブから完全に削除されます。
- 保存：タッチすると、シートステータスの選択が保存されます。
- 表示：このボタンをタッチすると、[測定したシート] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、シートの測定済みカラーバーを期待値カラーバーの下に表示させることができます。各カラーバーのパッチを選択して、明度、彩度、色相角のデータを比較することができます。
- シート番号：現在のシートが何番目に測定されたかを示す番号です。

- 期待値カラーバー：現在のジョブで定義されている理想的なカラーバーを示します。値は [基準値と許容値] 画面で指定された値と異なる場合があります
- 測定済みカラーバー：現在のシートを測定した実際のカラーバーを示します。
- カラーバーの詳細表示：「期待値」および「測定済み」カラーバー上に、黒色の四角い枠が表示されます。カラーバーの下に、枠内のパッチの詳細情報が表示されます。カラーバー、または詳細表示の両側にある矢印ボタンを使用して、枠を移動することができます。パッチをタッチして選択します。
- [次のダッド] ボタン：このボタンをタッチすると、黒色の枠が次のダッドパッチに移動します。
- 期待値 / 測定値データ：2 つの欄に、選択されているパッチの明度、彩度、色相角のデータが表示されます。

用紙 # の # :

このボタンをタッチして、データ表示領域に表示させたいシートのデータを選択することができます。



前のシートを表示させたいときにタッチします。



次のシートを表示させたいときにタッチします。



タッチすると、シート移動オプションが表示されます。



最初のシートを表示させたいときにタッチします。



最後のシートを表示させたいときにタッチします。



特定のシートのデータを表示させたいときにタッチします。[指定シートに移動] ボタンをタッチすると、シートの番号を選択または入力できるダイアログボックスが表示されます。[入力] をタッチするとボックスが閉じられ、シートが表示されます。



OK シートのデータを表示させたいときにタッチします。OK シートは他のすべてのシートの基準です。

測定

このボタンをタッチすると、装置によってシート上のカラーバーが測定されます。装置がカラーバーの測定を終えると、データ表示領域に測定データが表示され、このデータが次のシートとして保存されます。（システムの測定準備が整っていない場合、[測定] ボタンはグレー表示されます。）

オモテ面 / ウラ面

現在のジョブで、P（反転機）、SP（両面印刷機）のいずれかが指定されている場合は、これらのボタンを使用して、データ表示領域に表示するシート面を切り替えることができます。片面印刷機の場合、これらのボタンはボトムツールバーに表示されません。

反転式両面印刷機（オモテ後刷）

現在のジョブで P（反転機）か SP（両面印刷機）が設定されている場合は、このボタンをタッチして継続的測定モードを有効にします。このオプションでは、オモテ/ウラの測定を一度に行うことができます。このオプションが有効になっていない場合は、既存の測定モードが使用されます。片面印刷機の場合、このボタンはボトムツールバーに表示されません。

プロファイル

このボタンをタッチすると、プレスツールは現在のジョブを構成するプロファイルターゲットの情報を使用し、シート上のプロファイルターゲットを測定後、プロファイルを作成します。プロファイルによって、例えば、（ある印刷機で再現される色を）DDCP（Direct Digital Color Proofer）/カラープリンタ等から、忠実に再現することができるようになります。

注記：[プロファイル] ボタンを有効にするには、少なくとも 1 枚のシートを測定する必要があります。シートを測定してもボタンが有効にならない場合は、現在のジョブでプロファイル機能が有効になっていることを確認してください。

ハンドヘルドの接続

このボタンは、ハンドヘルド装置がコンピュータに接続されているかどうかを示します。



円形は、ハンドヘルド装置が接続されていることを示します。



半円形は、ハンドヘルド装置が接続されていないことを示します。

[ハンドヘルド接続] ボタンをタッチすると、[ハンドヘルド接続] 画面が表示されます。この画面には次のコントロールがあります。

装置を經由して接続

ハンドヘルド装置がスキャニング装置のポートに接続されている場合は、このボタンをタッチします。[装置名] 欄にスキャニング装置の名前を入力してください。

シリアルポートで接続

ハンドヘルド装置が、使用しているコンピュータのシリアルポートに接続されている場合は、このボタンをタッチします。[シリアルポート] リストボックスから、使用するシリアルポートを選択してください。

- システムに3つ以上のシリアルポートがある場合は、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることができます。目的のシリアルポートが見つかったら、そのポートをタッチして選択します。

キャリブレーション

このボタンをタッチすると、ハンドヘルド装置にキャリブレーション画面が表示されます。この画面で手動キャリブレーションを行ってから、測定画面に戻ってください。ハンドヘルド画面で手順を参照するよう促すダイアログボックスがコンピュータ画面に表示されます。キャリブレーションが終了したら、コンピュータ上のダイアログボックスを閉じてください。

接続 / 接続解除

[接続] ボタンをタッチすると、選択された方法で接続が行われ、[ハンドヘルド接続] 画面が閉じられます。ハンドヘルド装置の接続を解除するには、[接続解除] ボタンをタッチします。

注記: ハンドヘルド装置で測定を行った後、測定情報画面が表示されます。

装置の接続

このボタンは、スキャニング装置がコンピュータに接続されているかどうかを示します。



[円形] は、スキャニング装置が接続されていることを示します。



[半円形] は、スキャニング装置が接続されていないことを示します。

[装置の接続] ボタンをタッチすると、[装置の接続] 画面が表示されます。

装置名

この欄には、スキャニング装置の名前が表示されます。名前を変更するには、この欄をタッチして表示されるダイアログボックスに新しい名前を入力して、[OK] をタッチします。

ポート番号

オペレーティング システム経由で通信ポートが使用されます。この欄には常に 4900 が設定されており、変更できません。

接続

この欄をタッチすると、[装置名] 欄に現在表示されているスキャニング装置に接続します。

バキュームを停止

この欄をタッチすると、[装置名] 欄に現在表示されているスキャニング装置のバキュームが停止します。

キャリブレーション

このボタンをタッチすると、スキャニング装置のキャリブレーションプロセスが開始されます。選択を確認するメッセージが表示されます。装置のキャリブレーションを行う前に、ホワイトキャリブレーションプレートを清掃する必要があります。（キャリブレーションプレートの場所および清掃方法については、装置付属のマニュアルを参照してください。）

装置のキャリブレーションを行う準備ができたなら、[はい] をタッチします。装置のキャリブレーションが実行され、完了するとメッセージボックスが表示されます。[OK] をタッチします。

リファレンスカードの測定

このボタンは、装置のホワイト キャリブレーションのみでなく、CMYK 値の読み取りが正しく行われていることを検証するために使用します。このボタンをタッチすると、装置によってリファレンスカードが測定されます。[リファレンスカードの測定] ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログ上で対応するターゲットリファレンスファイルを選択すると、装置によってリファレンスカードが測定されます。

ページ

このボタンをタッチすると、データ表示領域を上下にスクロールできます。



データ表示領域を上方向にスクロールするときにタッチします。最上部まで到達すると、ボタンがグレー表示されます。



データ表示領域を下方向にスクロールするときにタッチします。最下部まで到達すると、ボタンがグレー表示されます。

プロファイル

[プロファイル] 画面では、測定済みカラーパッチとカラーパッチの基準値を比較して、刷りが許容値を満たしているかどうかを評価することができます。

プロファイル機能では、装置でプロファイル作成用ターゲットを測定することによって、カラーマッチングを行うための「ICC プロファイル」を作成します。例えば、デジタルプルーフ環境でプロファイル機能を使用することができます。また、印刷物とデジタルブルーファーマッチングをとることにより、1枚のシートを印刷するだけでクライアントの承認を得ることができるようになります。

[プロファイル] 画面は、[プレスツール] 画面のボトムバーにある [プロファイル] をタッチすると表示されます。

このヘルプページは 2 つの部分に分かれています。最初の部分では、一般的なプロファイル作成手順を説明します。残りの部分では、[プロファイル] 画面のコントロールについて説明します。

プロファイル生成手順

1. シートを装置にセットして、[プレスツール] 画面上の [測定] をタッチします。装置がカラーバーを測定し、[プレスツール] 画面のデータ表示領域にデータが表示されます。

2. [プレスツール] 画面上の [プロファイル] をタッチします。

注記: シートを測定してもボタンが有効にならない場合は、現在のジョブでプロファイル機能が有効になっていることを確認してください。

3. 最初のカラーバーの測定で、ターゲット許容値を超えるインキュニットがある場合は、それを警告するメッセージボックスが表示されます。適切なシートがスキャニング装置にセットされていることを確認してください。終了するには [はい] をタッチします。

装置がシート上のプロファイル用カラーパッチを測定し、[プロファイル] 画面が表示されます。

注記: 測定後にダッドが存在する場合は、警告メッセージが表示されます。プロファイルを作成する前に、ハンドヘルド装置で未測定のパッチを測定してください。[OK] をタッチしてプロファイル画面にアクセスします。

4. 測定されたパッチを期待値と比較します。

5. 測定されたパッチが期待値の許容範囲内にある場合は、プロファイルを作成することができます。[プロファイル] をタッチします。

[プロファイル] 画面が閉じられます。[プレスツール] 画面上の [プロファイル] ボタンの上に、小さな進捗インジケータが表示されます。

注記: プロファイルの作成を中止] ボタンはプロファイルの作成を中止します。

生成プロセスが完了すると、プロファイルが正しく作成されたことを示すメッセージボックスが表示されます。

6. [OK] をタッチします。

プロファイル画面のコントロールの説明

プロファイルの列

プロファイルに複数行のカラーパッチが含まれている場合は、矢印ボタンを使用して行を移動することができます。（中央にある正方形の表示域に行番号が表示されます。）

- ↑ボタンで上方向に移動します。
- ↓ボタンで下方向に移動します。

ターゲット カラーパッチの行

現在のジョブで定義されている理想的なプロファイル カラーパッチを示します。

期待されるカラーパッチの行

現在のジョブで定義されている理想的なプロファイル カラーパッチを示します。

測定済みカラーパッチの行

現在のシートを測定した実際のカラーパッチを示します。

カラーパッチの詳細表示

「予想」および「測定済み」カラーパッチの上に黒色の四角い枠があります。カラーパッチ行の下に、黒い枠内のパッチが詳細表示されます。

いずれかのカラーバーをタッチすることで、赤い枠を移動することができます。あるいはカラーバーの詳細表示にある矢印をタッチしても移動できます。カラーバーの詳細表示でパッチをタッチして選択します。

[次のダッド] ボタン

このボタンをタッチすると、黒色の枠が次のダッドパッチに移動します。

ハンドヘルドの接続ボタン

装置の接続が必要な場合は [ハンドヘルドの接続] 画面をタッチして開きます。

測定データ

選択されたパッチに対する番号、L、a、b、C、H のデータが表示されます。

プロファイルを作成する

このボタンをタッチすると、すべての本刷りシートがマッチするプロファイルを作成するための測定が実行されます。

ファイル名を変更

[プロファイル出力ファイル名を変更] 画面をタッチして開きます。この画面では、[測定データを適用] ボタンをタッチし、測定済みのプロファイルにプリンタプロファイル名を素早く使用することができます。[保存] をタッチして画面を閉じます。

測定情報

ハンドヘルド装置で測定すると、[測定情報] 画面が表示されます。この画面には、測定された色の分光反射率計数グラフと L*a*b* グラフが表示されます。設定されている基準色およびサンプルとの色差データとともに、最後の色測定に使用されたサンプルデータが表示されます。

[測定情報] 画面には次のコントロールがあります。

自動スケール

[自動スケール] が選択されている場合は、関連するデータ範囲だけが表示されるように 分光反射率グラフが拡大・縮小されます。この欄のチェックを外すと、0 ~ 100 の % 範囲が表示されます。

基準色の自動設定

[基準色の自動設定] を選択すると、現在のジョブでサンプルに最も近いインキ色がシステムによって自動的に選択されます。

基準色に登録

[基準色に登録] を選択すると、現在のサンプル色が新しい基準色となります。

基準色のコピー

[基準色のコピー] を選択すると、基準色の色データが Windows クリップボードにコピーされます。このコピーをテキストエディタ プログラムに貼り付けることができます。

基準色のクリア

[基準色のクリア] を選択すると、画面から基準色が削除されます。

サンプル色のコピー

[サンプル色のコピー] を選択すると、サンプルの色データが Windows クリップボードにコピーされます。このコピーをテキストエディタ プログラムに貼り付けることができます。

データ表示領域の概要

[プレスツール] 画面の中央部分には、測定されたカラーバーのデータが表示されます。この領域には、新しいジョブが開始されるまで、あるいは以前のジョブが継続されるまで、システム名以外は何も表示されません。

シートが測定されるか、あるいは前のジョブからロードされると、印刷の各ゾーンについてのカラーバー情報が表示されます。

このヘルプページの最初の部分ではデータ表示領域のコントロールについて、残りの部分では機能について説明します。

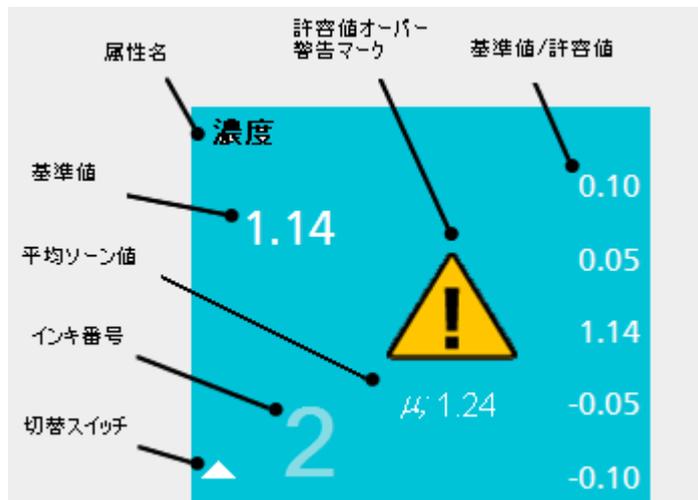
コントロール

データ表示領域は、「インキ」と「キーゾーン」の2つの部分に分かれています。



インキ

データ表示領域の左側には、現在のジョブで使用されている各インキの表示があります。この領域は、インキに近い色で表示されます。各インキについて次の情報が表示されます。



- 属性名：トッパーのボタンで選択された属性の名前を示します。（例：濃度、ヒューエラー）
- 許容値オーバー警告マーク（黄色の警告三角印）：アクション リミットを超えるバー（黄色または赤色のバー）があるときに表示されます。
- **注記**：アクションリミットを超えたバーは現在表示されているグラフ上にない場合があります。
- 基準値：選択されているインキの基準値を示します。（例：濃度 1.14）

- **注記**：現在のシートが OK シートの場合は、この欄には基準値ではなく「OK」と表示され、その後測定されるシートにも基準値は表示されません。
- ゾーンの平均値：現在のシート上のインキゾーンに対する平均値。
- **注記**：ローカルコンピュータ設定ツールで平均機能が無効になっている場合は、この値は表示されません。
- 切り替え三角印：データ表示領域に表示されている情報のタイプを示します。
- 上向き三角印 ▲：各インキユニットに対する現在選択されているデータ項目のみが表示されます。例えば、プレスツールのトップバーで「濃度」が選択されている場合は、各インキの濃度データのみが表示されます。
- 下向き三角印 ▼：選択されているインキのすべてのデータ項目が表示されます。例えば、シアンのインキユニットに下向き三角印を設定すると、シアンのインキユニットには濃度、ドットゲイン、ヒューエラーなどの複数属性が表示されます。
- **注記**：表示されるデータ項目の条件については、次のページを参照してください。
- インキユニット番号：[切り替え三角印] の右側にある番号、この番号によってプレスに使用されている色のインキユニットを識別できます。（例：黒=1、シアン=2、マゼンタ=3、イエロー=4）
- 許容値範囲：トップバーにある「差分値」ボタンをタッチすると、許容範囲が右側に表示されます。（例：濃度 $\pm 0.05 \sim \pm 0.10$ ）

キーゾーン

データ表示領域の右側には、各インキに対応するデータが表示されます。各列には、印刷機上のキーゾーンに対応する番号が付けられています。データは、基準値を示すセンターラインの上または下に、色付き棒グラフで表示されます。各キーゾーンには、緑、黄色、赤のいずれかの棒グラフが表示されるか、空白のままか、あるいは赤色の「x」が表示されます。

- 緑：キーゾーンで測定された値がアクション リミットの許容範囲内であることを示します。（このキーゾーンの測定値が許容可能であることを意味します。）
- 黄色：キーゾーンで測定された値がアクションリミット外で、コントロールリミット内であることを示します。（このキーゾーンの測定値が許容できるものの、管理限界に近いことを意味します。）
- 赤：キーゾーンで測定された値がコントロールリミット外であることを示します。（このキーゾーンの測定値が、管理限界外であることを意味します。）
- 空白：そのキーゾーンにターゲットがなく、測定された値がないことを示します。
- X：キーゾーンで測定された値が、基準値と大幅に差があることを示します。これを「ダッド」と呼びます。装置がパッチの読み取りに失敗したか、測定されたパッチが汚れている、あるいは不鮮明である可能性があります。

機能

次の方法を参考にして、データ表示領域内の情報を整理し、表示させてください。

- 許容値オーバー警告マーク（黄色の警告三角印）以外にタッチする。：選択されているインキのすべてのデータ項目が表示されます。インキパネルを再度タッチすると元に戻ります。

- 許容値オーバー警告マーク（黄色の警告三角印）にタッチする。：インキのすべての属性データが表示されます。インキパネルを再度タッチすると元に戻ります。
- ボトムツールバーにある [シート情報] ボタンをタッチする。現在のシート（メイクレディ、OK、本刷りのいずれか）のステータスの変更、シートの削除、詳細情報の確認を行うダイアログボックスが開きます。
- ボトムツールバーにある [上へ]/ [下へ] ボタンをタッチする。[データ表示領域] を上下にスクロールできます。
- 現在のジョブで P（反転機）、SP（両面印刷機）のいずれかが指定されている場合は、ボトムツールバーに [オモテ面] および [ウラ面] ボタンが表示されます。
- トップツールバーにある [値] ボタンをタッチする。測定された各キーデータの数値がデータ表示領域に表示されます。再度タッチすると、数値が非表示になります。
- トップツールバーにある [差分値] ボタンをタッチする。各キーデータの実測値と基準値の差分データを表示します。
- トップツールバーにある [実測値] ボタンをタッチする。差分値ではなく実際の値がデータ表示領域に表示されます。
- トップツールバーにある [ベタ濃度]、[ドット]、[トラッピング]、[その他] のボタンをタッチする。各種属性データがデータ表示領域に表示されます。
- ΔE 画面を表示させる。トップツールバーの [その他] ボタンをタッチし、[ΔE] ボタンをタッチすると、データ表示領域に色差データが表示されます。データ表示領域内の任意の測定バーをタッチすると、[色差の詳細] 画面が表示されます。

ΔE (色差の詳細)

データ表示領域に色差データが表示されているときに任意の測定バーをタッチすると、[色差の詳細] 画面が表示されます。色差データを見るには、右上のツールバーにある [その他] ボタンをタッチし、[ΔE] ボタンをタッチします。

[色差の詳細] 画面には次のコントロールがあります。

L*a*b* グラフ

左上の L*a*b* グラフは、基準値を中心に実際に測定された色のデータを示します。

- 明度に対する実測値は、左のグラフに正方形でプロットされます。グラフの中心が基準値です。正方形が黄色の線内であれば、アクションリミット内であることを示します。正方形が赤の線内であれば、コントロールリミット内であることを示します。
- 色に対する実測値は、右のグラフに正方形でプロットされます。a* の軸と b* の軸 が合流する点が基準値です。正方形が黄色の円内であれば、アクションリミット内であることを示します。正方形が赤の円内であれば、コントロールリミット内であることを示します。

L*a*b* グラフの下にあるズームボタン（「+」と「-」）を使用して、表示倍率を変えることができます。

L*a*b* スライダー

L*a*b* グラフとデータは同じですが、色の測定値が基準値にどれだけ近いかを簡単に確認することができます。

黒の縦線が基準値を示します。赤の矢印が実測値を示します。

キー詳細情報

現在のキーの識別情報を示します。この情報には以下の項目が含まれています。

- プロジェクト名
- シート番号
- ジョブ名
- インキ名
- ライブラリ名
- シート面

基準値 / 実測値 / 差分値テーブル

基準値と実測値の差を、次の数値データで示します。

- L*
- a*
- b*
- C*
- h°
- ΔE LAB (CIE94/CIE2000/CMC/Lab)

キー ボタン

このボタンをタッチすると、次のキーの色差詳細情報が表示されます。

印刷

このボタンをタッチすると、画面のスクリーンショットが Windows コントロールパネルの「プリンタとFAX」で設定されたプリンタから出力されます。

手順

プレスツールの基本的な目的は、接続されている分光測色計を使用してシート上のカラーバーを測定し、印刷機の印刷が正しく行われることを確認することです。このページには、一般的なプレスツールの使用方法がステップバイステップで解説されています。

注記：各手順は [ジョブ情報] 画面から始まります。プレスツールを起動すると、[ジョブ情報] 画面が自動的に開きます。[ジョブ情報] 画面の情報を見るには、下のボタンをタッチしてください。

新規ジョブの手順

新規ジョブを作成して実行するには、次の手順にしたがってください。

1. [プレスツール] 画面の前面に [ジョブ情報] 画面が表示されていない場合は、左トップツールバー上にある [ジョブ情報] をタッチします。
2. [新規ジョブ] または [新規 JDF ジョブ] のどちらかをクリックします。
3. プロジェクト テンプレートのリストから必要な [プロジェクト テンプレート] を選択します。
 - ステップ 2 で [新規ジョブ] を選択した場合には、ダイアログボックスが表示されます。
 - a. 新規ジョブを関連付ける新規もしくは既存のプロジェクトの名前を入力するか、選択します。[OK] をタッチします。
 - b. 新しいジョブの名前を入力します。[OK] をタッチします。
 - ステップ 2 で [新規 JDF ジョブ] を選択した場合には、[ジョブ] リストボックスに標準ジョブのリストが表示されます。いずれかのジョブをタッチして選択します。

プレスツールには、選択したプロジェクト テンプレートで定義されている情報がロードされます。左上の ジョブ情報 の下に、プロジェクトとジョブの名前が表示されます。データ表示領域の各行には「測定データがありません」と表示されます。
4. スキャニング装置のトラックに用紙をセットして、右下の [測定] ボタンをタッチします。

データ表示領域の各行には「測定データなし」と表示されます。また、トップツールバーに表示されるボタンが変わります。
5. トップバーにあるボタンを使用して、測定データを基準値/許容値を考慮して様々な方法で表示させることができます。詳細については、次のボタンをタッチしてください。
6. 必要に応じて印刷機を調整してください。
7. 必要であれば、ステップ 4 を繰り返して他のシートを測定してください。

注記: 最初のシートが測定されると、プレスツールのステータスが [メイクレディ] に設定されます。その後の全シートを測定する前に、トップツールバーにあるボタンを使用して、それらのシートを [メイクレディ] シートにするか、[本刷り] シートにするかを選択できます。

ボトムツールバーにある [# 枚中の # 枚目] ボタンを使用すると、シートごとのデータを表示させることができます。詳細については、次のボタンをタッチしてください。
8. 印刷機が正しく調整されたら、シートに関して次のいずれかを実行してください。
 - クライアントからの OK シートに合わせてジョブを実行する場合は、[OK シートに指定] をタッチします。
 - 基準値の数値に合わせてジョブを実行するには、[本刷り] をタッチします。
9. 必要であればプロファイル ターゲット機能も使用してください。詳細については、次のボタンをタッチしてください。

ジョブの再実行手順

既存のジョブを新規ジョブのテンプレートとして使用するには、次の手順にしたがってください。

1. [プレスツール] 画面の前面に [ジョブ情報] 画面が表示されていない場合は、左トップツールバー上にある [ジョブ情報] をタッチします。
2. [ジョブの再実行] をタッチします。
3. [プロジェクト] リストから、再実行したいジョブを含んだプロジェクトを選択します。
4. [ジョブ] リストから、再実行したいジョブを選択します。
5. 新しいジョブの名前を入力または選択して、[OK] をタッチします。

プレスツールには、選択した既存ジョブで定義されている情報がロードされます。左上のジョブ情報の下に、プロジェクトとジョブの名前が表示されます。データ表示領域の各行には「測定データがありません」と表示されます。

6. スキャニング装置のトラックに用紙をセットして、右下の [測定] ボタンをタッチします。

装置によってカラーバーが測定され、そのデータがデータ表示領域に表示されます。また、トップツールバーに表示されるボタンが変わります。

注記: 既存のジョブが OK シートで実行されていた場合は、そのシートからの情報が現在のジョブに引き継がれます。別の OK シートを作成する必要はありません。

7. トップバーにあるボタンを使用して、測定データを基準値/許容値を考慮して様々な方法で表示させることができます。詳細については、次のボタンをタッチしてください。
8. 必要に応じて印刷機を調整してください。
9. 必要であればプロファイル ターゲット機能も使用してください。詳細については、次のボタンをタッチしてください。

既存ジョブの続行手順

既存ジョブを続行するには、次の手順にしたがってください。

1. [プレスツール] 画面の前面に [ジョブ情報] 画面が表示されていない場合は、左トップツールバー上にある [ジョブ情報] をタッチします。
2. [ジョブを続行] をタッチします。
3. [プロジェクト] リストから、実行したいジョブを含んだプロジェクトを選択します。
4. [ジョブ] リストから、実行したいジョブを選択します。
5. スキャニング装置のトラックに用紙をセットして、右下の [測定] ボタンをタッチします。
データ表示領域の各行には「測定データなし」と表示されます。また、トップツールバーに表示されるボタンが変わります。
6. トップバーにあるボタンを使用して、測定データを基準値/許容値を考慮して様々な方法で表示させることができます。詳細については、次のボタンをタッチしてください。
7. 必要に応じて印刷機を調整してください。
8. 必要であればプロファイル ターゲット機能も使用してください。詳細については、次のボタンをタッチしてください。

画面のヘルプ

プレスツールには、トップバー、ボトムバー、データ表示領域のほかに、プレスツールを操作するための欄やコントロールを含んだ画面があります。

これらの画面は、トップツールバーにある次のボタンをタッチすると表示されます。

ジョブ情報

[ジョブ情報] ボタンをタッチすると、[ジョブ情報] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

印刷機 / インキ

[印刷機 / インキ] ボタンをタッチすると、[印刷機 / インキ] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

カラーバー

[カラーバー] ボタンをタッチすると、[カラーバー] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

基準値と許容値

[基準値] ボタンをタッチすると、[基準値と許容値] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

シート情報

[シート情報] ボタンをタッチすると、[シート情報] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

キーの管理

[キーの管理] ボタンをタッチすると、[キーの管理] 画面が表示されます。下の矢印をタッチすると、この画面のコントロールの説明を見ることができます。

ジョブ情報

[ジョブ情報] ボタンで、プロジェクト テンプレートを選択して新規ジョブを作成したり、既存ジョブを選択して新しいジョブを開始したり、既存ジョブを開いて続行したり、JDF ジョブから新規ジョブを作成することができます。

プロジェクト テンプレートによって、ジョブに使用される印刷機、インキ、カラーバー、基準値、許容値、プロファイル、用紙が定義されます。プロジェクト テンプレートを選択すると、ジョブの基本要件が全て定義されます。

[ジョブ情報] 画面には次のコントロールがあります。

新規ジョブ

新規でジョブを作成するには、このボタンをタッチして、新規ジョブの印刷条件を設定したプロジェクトテンプレートを選択してください。

ジョブを再実行

既存のジョブをテンプレートとして新規ジョブを作成するには、このボタンをタッチして、テンプレートとするジョブを選択してください。

ジョブを続行

既存のジョブを続行するには、このボタンをタッチして、続行するジョブを選択してください。

新規 JDF ジョブ

このボタンをタッチして、新しいジョブ定義ファイル（JDF）ジョブの要件を定義するプロジェクトテンプレートを選択することができます。JDF ジョブとは、印刷プロセス全体を通し、業界標準を使用して作成されるジョブのことです。

リストボックス

この最初のリストボックスの内容は、選択されるボタンによって異なります。

- [新規ジョブ] または [新規 JDF ジョブ] ボタンを選択した場合には、[プロジェクト テンプレート] リストボックスが表示されます。このリストには、現在プレスツールで使用可能なプロジェクトテンプレートが表示されます。
- 目的のプロジェクト テンプレートが見つかったら、それをタッチして選択します。
- [新規ジョブ] を選択した場合は、ダイアログボックスでプロジェクト名を選択または [新規] を選択し、新しい名称を入力します。次に新しいジョブ名を入力します。[ジョブ情報] 画面を閉じると、新規ジョブがプレスツールにロードされます。
- [新規 JDF ジョブ] を選択した場合は、標準ジョブのリストが [ジョブ] リストボックスに表示されます。使用するジョブをタッチしてください。[ジョブ情報] 画面を閉じると、ジョブがプレスツールにロードされます。
- [ジョブの再実行] または [ジョブを続行] ボタンを選択した場合には、[プロジェクト] リストボックスが表示されます。このリストには、プレスツールで現在使用可能な、あるいは完了した既存ジョブが表示されます。
- 目的のプロジェクトが見つかったら、タッチして選択します。そのプロジェクトに関連付けられているジョブが [ジョブ] リストボックスに表示されます。使用するジョブをタッチしてください。[ジョブ情報] 画面を閉じると、ジョブがプレスツールにロードされます。

2 つ目のリストボックスは [ジョブ] リストボックスです。このリストボックスには、最初のリストボックスで選択されたプロジェクトに関連する既存のジョブが表示されます。

注記： リストボックス内に 7 個以上の名前がある場合は、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。

印刷機 / インキ

[印刷機 / インキ] 画面では、現在のジョブの印刷機タイプとインキ情報を調整することができます。

印刷機およびインキ情報により、印刷機タイプ、印刷機上のインキ色、印刷機上のインキの順序が定義されます。

[印刷機 / インキ] 画面には次のコントロールがあります。

印刷機条件の設定

この欄には、現在のジョブで定義されている印刷機の名前が表示されます。この画面で印刷機を変更することはできません。印刷機を変更するには、[ジョブ情報] 画面で別のジョブを選択するか、新しいジョブを作成する必要があります。

インキ

実際の印刷機にあるインキを示すインキユニットが番号順で表示されます。

インキユニットをタッチして選択すると、インキの名前と、そのインキが属す基準値ライブラリの名前がユニットの上に表示されます。（例：「デフォルト色 - 黒」、「デフォルト色 - シアン」など）

注記：現在のジョブで P（反転機）か SP（両面印刷機）が設定されている場合は、この領域にはインキが 2 行に分かれて表示されます。

インキ制御ボタン

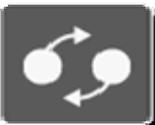
画面右上にある次のボタンを使用して、インキ領域にあるインキを制御することができます。



左へ移動：選択したインキが 1 ユニット左に移動します。



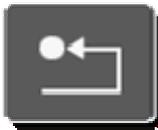
右へ移動：選択したインキが 1 ユニット右に移動します。



交換：2 つのインキの位置が入れ替わります。実行するには、1 つのインキを反転表示させ、[交換] ボタンをタッチし、もう一つのインキをタッチします。これで 2 つのインキが入れ替わります。カラーバーの定義も変更され、インキ色がカラーバー上の新しい位置に合わせられます。



削除：選択したインキユニットからインキが削除されます。



リセット：変更内容が破棄され、インキユニットが元の値と位置にリセットされます。

ライブラリ

システムで現在使用できる基準値ライブラリ（基準値群）のリストです。基準値ライブラリには、システムのエディタで定義され、保存されたインキセットが含まれています。

ライブラリ リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 4 つ以上の基準値ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに 基準値ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。選択した基準値ライブラリで定義されているインキセットが、右側のインキリスト テーブルに表示されます。

インキ

[ライブラリ] リストテーブル内で現在選択されている基準値ライブラリで定義されているインキのリストです。インキ リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに 4 色以上のインキが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにインキの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のインキが見つかったら、そのインキをタッチして選択します。現在選択されているユニット内で、既存のインキが新しく選択されたインキに置き換えられます。

保存

このボタンをタッチすると、インキに行った編集内容が保存され、[印刷機 / インキ] 画面が閉じられます。

保存後、基準値を確認

このボタンをタッチすると、インキに行った編集内容が保存され、[基準値と許容値] 画面が開きます。

カラーバー

警告：権限が与えられていないかぎり、カラーバー情報は変更しないでください。

[カラーバー] 画面では、現在のジョブのカラーバー情報を表示したり、変更することができます。

カラーバー情報により、カラーバーのタイプ、カラーバーを構成するパッチ、印刷シート上のカラーバーの位置が定義されます。

注記:現在のジョブでP（反転機）かSP（両面印刷機）が設定されている場合は、各面のカラーバーに対応する2つのタブ（オモテ面とウラ面）が画面に表示されます。

注記:[印刷機 / インキ] 画面でインキの順序を入れ替えた場合には、この画面を使用することで、その変更をカラーバーに反映させることができます。例えば、緑だったインキ「5」がオレンジに変わり、「6」だったオレンジが今は緑になっている場合には、この画面でその変更をカラーバーに反映させることができます。

[カラーバー] 画面には次のコントロールがあります。

カラーバー

システムで現在使用できるカラーバーのリストです。カラーバーはカラーバー エディタを使用して作成します。次のコントロールを使用して、現在のジョブのカラーバーを選択してください。

- システムに3つ以上のカラーバーが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスにカラーバーの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的のカラーバーが見つかったら、そのカラーバーをタッチして選択します。

位置

- ジョブのシートの啞え端にカラーバーがある場合は、[啞え] をタッチします。
- ジョブのシートの啞え端にカラーバーがある場合は、[紙尻] をタッチします。

リセット

このボタンをタッチすると変更内容が破棄され、コントロールが初期値にリセットされます。

反転

カラーバーがシート上で逆に設定されている場合には、このボタンをタッチします。

測定時に自動トラッキング機能を OFF にする

このボタンをタッチすると変更内容が破棄され、コントロールが初期値にリセットされます。

このボタンをタッチすると、[カラーバー XY 位置] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、トラッキング領域の座標をミリメートル単位で設定することができます。

- X1：用紙の横端からカラーバーの開始位置までの距離を示します。
- X2：用紙の横端からカラーバーの終了位置までの距離を示します（X1 と同じ位置を起点にして測定されます）。
- Y1：用紙の横端からカラーバーの中央までの距離（ドッキングステーションに近いほう）を示します。
- Y2：用紙の横端からカラーバーの中央までの距離（ドッキングステーションに近いほう）を示します。

- 保存：このボタンをタッチすると座標が保存され、[カラーバー] 画面に戻ります。（[測定時に自動トラッキング機能を OFF にする] ボタンにチェックが入ります。）

パッチの管理

番号順に並んだインキユニットが一番上に表示されます。プレスツールで現在使用されているインキユニットです。現在のジョブの 基準色ライブラリに含まれているものです。これらのインキユニットをこの画面で変更することはできません。

次に、すべてのパッチを示したカラーバー全体が画面に表示されます。このカラーバー上に、幅 9 パッチ分の黒い矩形が表示されています。カラーバーの下には、黒い矩形内の 9 パッチの詳細情報が表示されます。

最上部のカラーバーをタッチすることで、黒い矩形を移動することができます。あるいはカラーバーの詳細表示にある矢印をタッチしても移動できます。

カラーバーの詳細表示でパッチをタッチして選択します。

注記：パッチのインキを変更すると、その番号が付いたすべてのパッチのインキが変更されます。例えば、「5」のパッチを選択して、インキ「4」を選択すると、「5」が設定されていたすべてのパッチが「4」に変更されます。

保存

このボタンをタッチすると、現在のカラーバーに行った編集内容が保存され、[カラーバー] 画面が閉じられます。

基準値と許容値

警告：権限が与えられていないかぎり、基準値または許容値の情報を変更しないでください。

[基準値と許容値] 画面では、現在のジョブの基準値と許容値情報を表示し、調整することができます。

基準値と許容値の情報により、インキ色や、カラーバーのパッチの基準値と許容値が定義されます。

[基準値と許容値] 画面には次のコントロールがあります。

基準値ライブラリ インキ

画面左上に、現在のジョブで使用されるインキとそのツボ位置を示すインキユニットが表示されます。これらのインキは、現在のジョブの 基準値ライブラリに含まれているものです。

注記：現在のジョブで P（反転機）か SP（両面印刷機）が設定されている場合は、この領域にはインキが 2 行に分かれて表示されます。

ボタンをタッチすると、次のようになります。

- インキとその基準値ライブラリの名前がボタンの上に表示されます。（例：「デフォルト色 - 黒」、「デフォルト色 - シアン」など）
- 画面中央に、選択されているターゲット色を使用するカラーバー パッチの行が表示されます。

パッチタイプ

画面中央に、選択されている基準色を使用するカラーバーパッチの行が表示されます。赤色の四角い枠が選択されたパッチを示します。選択されたパッチの基準値および許容値データが、画面最下部の「基準値 - 許容値テーブル」に表示されます。

異なるパッチをタッチすると、そのパッチの基準値と許容値のデータを見ることができます。バーに 10 個以上のパッチがある場合は、左右の矢印をタッチしてパッチをスクロールできます。

基準値：許容値テーブル

ターゲットバーで選択されているパッチの基準値および許容値データが表示されます。このデータはシステムのエディタを使用して作成されたものであり、参照用に表示されます。

基準値または許容値を修正する場合は、[修正] ボタンをタッチしてエディタ画面を開きます。

- 選択されているパッチがインキ色の場合は、[インキ基準値の編集] 画面が開きます。
- 選択されているパッチが用紙色の場合は、[用紙基準値の編集] 画面が開きます。
- 選択されているパッチがオーバープリントの場合は、[オーバープリント 基準値の編集] 画面が開きます。
- 選択されているパッチがグレーバランスの場合は、[グレーバランス 基準値の編集] 画面が開きます。

許容値係数

メークレディ中の基準値を、本刷り中/OK シートより広く設定する場合に使用します。印刷機の立ち上げ時に厳密に基準値に合わせる必要がない場合などにこの設定を使用してください。

数値は係数であるため、ターゲット許容値は入力した数値の倍数となります。例えば、次のようになります。

- 濃度許容値 = 0.5 および 1.0
- 許容値係数 = 1.5

上記の場合、メークレディ シートの濃度許容値は 0.75 および 1.5 となります。

デフォルト値は 1.00 であり、メークレディ シートの基準値の許容値は本刷りシートおよび OK シートの許容値と同じです。

許容値係数を編集するには、このボタンをタッチしてください。（入力可能な値は 1.00 ～ 3.00 です。）

注記：現在のジョブで P（反転機）か SP（両面印刷機）が設定されている場合は、[許容値係数] ボタンが 2 つ表示されます。一つはオモテ面用で、もう一つがウラ面用です。

注記：このボタンはメークレディ シートのみ作用します。本刷りまたは OK シートの許容値は乗算されません。

シート情報

警告：権限が与えられていないかぎり、基準値ライブラリまたは用紙位置を変更しないでください。

[シート情報] 画面では、現在のジョブの用紙とその位置情報を調整することができます。

用紙タイプ情報によって、用紙色とシート位置の左端キーのズレ量が定義されます。

注記:現在のジョブでP（反転機）かSP（両面印刷機）が設定されている場合は、各面の用紙に対応する2つのタブ（オモテ面とウラ面）が画面に表示されます。

[シート情報] 画面には次のコントロールがあります。

用紙名

この欄には、用紙の近似色、用紙に関連する基準値ライブラリの名前、用紙の名前を示すボタンが表示されます。（例：「デフォルト色 - 用紙」）

ライブラリ

システムで現在使用できる基準値ライブラリ（基準値群）のリストです。基準値ライブラリには、システムのエディタで定義され、保存された用紙セットが含まれています。

ライブラリ リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに3つ以上の基準値ライブラリが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに 基準値ライブラリの名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の基準値ライブラリが見つかったら、その基準値ライブラリをタッチして選択します。選択した 基準値ライブラリで定義されている用紙セットが、右側の用紙リストテーブルに表示されます。

用紙

[ライブラリ] リストテーブル内で現在選択されている基準値ライブラリで定義されている用紙のリストです。[用紙] リストボックスを使用するときは、次のコントロールを使用します。

- システムに3種類以上のインキが登録されている場合、[検索] をタッチして表示されるダイアログボックスに用紙の名前を入力し、検索することができます。また、[上へ] と [下へ] ボタンを使用して、リストをスクロールすることもできます。
- 目的の用紙が見つかったら、その用紙をタッチして選択します。この用紙が、プレスツールで使用する現在の用紙となります。

用紙位置 次のボタンを使用して、実際の印刷機での用紙の位置が反映されるようにプレスツールを調整することができます。

- センター基準：印刷機の中央に合わせて用紙位置を設定する場合には、このボタンをタッチします。
- 左端のキーに合わせて：印刷機の中央に合わせて用紙位置を設定しない場合には、このボタンをタッチします。キー ボタンと 左端のキーのズレ量ボタンを使用して、位置を定義してください。
- キー ボタン：印刷機上の各キーに対応するボタンがあります。キーをスクロールするには、左右にある矢印ボタンを使用します。
- 左端のキーのズレ量 ボタン：キーを選択したら、オフセットを選択します。キー 22 の中間点まで用紙をずらす場合は、[22] キーボタンをタッチし、次にこのボタンの [1/2] をタッチします。

リセット

このボタンをタッチすると変更内容が破棄され、コントロールが初期値にリセットされます。

保存

このボタンをタッチすると、用紙に行った編集内容が保存され、[シート情報] 画面が閉じられます。

インキ基準値エディタ

[基準値と許容値] 画面で [修正] ボタンをタッチすると、[インキ基準値エディタ] 画面が表示されます。

[インキ基準値エディタ] 画面では、インキの基準値と許容値を調整することができます。

[インキ基準値エディタ] 画面に表示されるコントロールは、パッチの測定方法によって異なります。

円 / 名前

左上に、インキパッチ色の円と、基準値の名前が表示されます。

ベタ基準値 / 許容値テーブル

このテーブルには、各種インキ基準値（濃度、グレーネス、ヒューエラーなど）の値が表示されます。印刷用紙上のインキパッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、この正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

アミ点基準値 / 許容値テーブル

このテーブルには、各インキのアミ点基準値（濃度およびドットゲインなど）が表示されます。印刷用紙上のアミ点パッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

システムにアミ点が設定されている場合、左右の矢印をタッチしてアミ点%を変更し、基準値と許容値を変更することができます。アミ点 % はシステム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、この正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、インキ基準値の主フィルタを示します。例えば、青のインキパッチには一般に [シアン] が主要フィルタとして設定されています。

主要フィルタを変更するには、別のフィルタのボタンをタッチします。ベタおよびアミ点の「基準値 / 許容値」テーブルで、基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在のインキ基準値に行った編集内容が保存され、[インキ基準値エディタ] 画面が閉じられます。

用紙基準値エディタ

[基準値と許容値] 画面で [修正] ボタンをタッチすると、[用紙基準値エディタ] 画面が表示されます。

[用紙基準値エディタ] 画面では、インキの基準値と許容値を調整することができます。

[用紙基準値エディタ] 画面に表示されるコントロールは、パッチの測定方法によって異なります。[用紙基準値エディタ] 画面に表示されるコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、用紙パッチの近似色の円と、基準値名が表示されます。

用紙の基準値 / 許容値

このテーブルには、各種用紙基準値（濃度、ブライトネスなど）の値が表示されます。印刷用紙上の用紙パッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、この正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーボード ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、用紙基準値の主フィルタを示します。例えば、白のインキパッチには一般に [ビジュアル] が主要フィルタとして設定されています。

主要フィルタを変更するには、別のフィルタのボタンをタッチします。テーブル内の基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在の用紙基準値に行った編集内容が保存され、[用紙基準値エディタ] 画面が閉じられます。

オーバープリント基準値エディタ

[基準値と許容値] 画面で [修正] ボタンをタッチすると、[オーバープリント基準値エディタ] 画面が表示されます。

[オーバープリント基準値エディタ] 画面では、インキ オーバープリントの基準値と許容値を調整することができます。

[オーバープリント基準値エディタ] 画面に表示されるコントロールは、パッチの測定方法によって異なります。[オーバープリント基準値エディタ] 画面に表示されるコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、近似色の2つまたは3つの円と、オーバープリントに選択されたインキの名前が表示されます。右側の円は、組み合わせたインキの近似色と、インキの名前を示します。

ベタ基準値 / 許容値テーブル

このテーブルには、各種インキ基準値（濃度、グレーネス、ヒューエラーなど）の値が表示されます。印刷用紙上のインキパッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクション リミット（黄色）とコントロール リミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、この正方形をタッチします。数値を入力後、[入力] を押してキーパッド ウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、オーバープリント基準値の主要フィルタを示します。

主要フィルタを変更するには、別のフィルタのボタンをタッチします。テーブル内の基準値が変更されることを確認してください。

保存

このボタンをタッチすると、現在の用紙基準値に行った編集内容が保存され、[オーバープリント基準値エディタ] 画面が閉じられます。

グレーバランス基準値エディタ

[基準値と許容値] 画面で [修正] ボタンをタッチすると、[グレーバランス基準値エディタ] 画面が表示されます。

[グレーバランス基準値エディタ] 画面では、グレーバランスの基準値と許容値を調整することができます。（グレーバランスは、システム設定ツールを使用して設定します。）

[グレーバランス基準値エディタ] 画面に表示されるコントロールは次のとおりです。

円 / 名前

左上に、インキ近似色の3つの円と、グレーバランスに選択されたインキの名前が表示されます。4番目の円はグレーで塗りつぶされており、この特定のグレーバランスに使用されたインキの名前と共に使用比率%が表示されます。（グレーバランス%は、システム設定ツールを使用して設定されます。）

ベタ基準値 / 許容値テーブル

このテーブルには、各種インキ基準値（濃度、グレーネス、ヒューエラーなど）の値が表示されます。印刷用紙上のインキパッチが測定装置によって読み取られ、緑で縁取られたボタン内にその測定値が表示されます。

基準値の隣には、アクションリミット（黄色）とコントロールリミット（赤）が表示されます。これらの許容値のデフォルト値は、システム設定ツールを使用して設定します。

基準値または許容値を編集するには、この正方形をタッチします。数値を入力後、[入力]を押してキーボードウィンドウを閉じ、新しい値を保存します。

フィルタ

測定装置が濃度計算に使用する主フィルタを示すボタンです。反転表示されているボタンは、インキ基準値の主フィルタを示します。

主要フィルタを変更するには、別のフィルタのボタンをタッチします。テーブル内の基準値が変更されることを確認してください。

保存

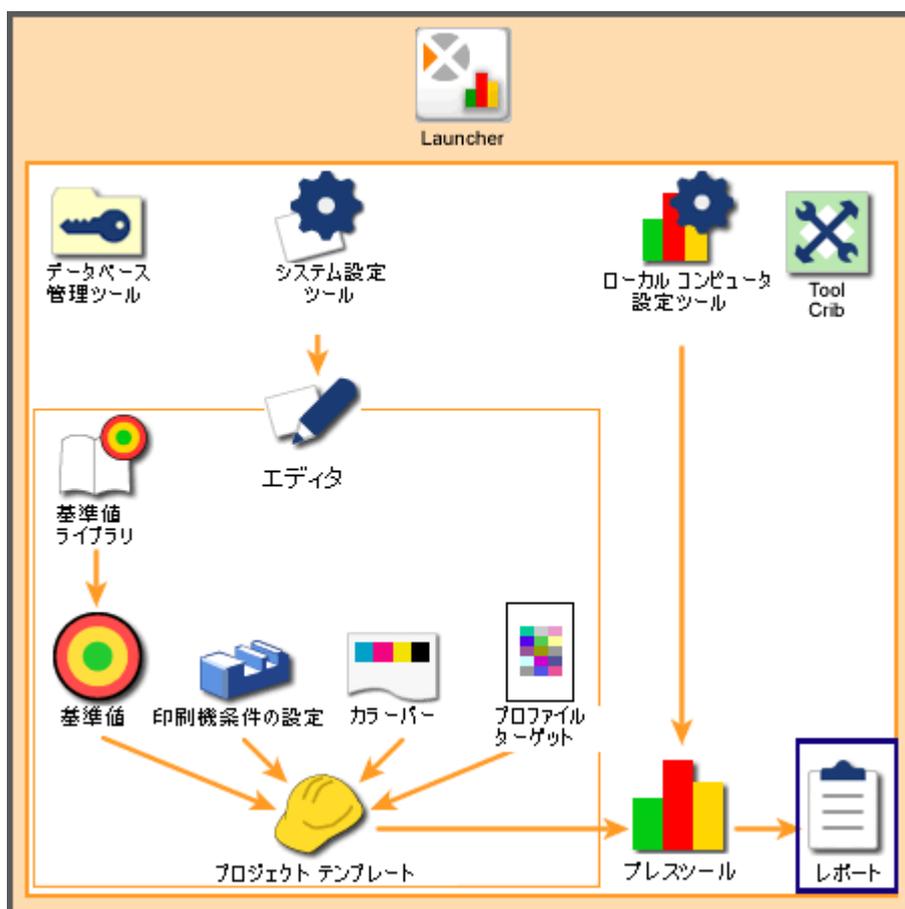
このボタンをタッチすると、現在の用紙基準値に行った編集内容が保存され、[グレーバランス基準値エディタ]画面が閉じられます。

レポートツール

レポートツールを使用して、プレスツールで測定されたジョブのレポートを作成することができます。レポートは、ジョブ全体について、あるいはジョブの各シートについて作成できます。使用中のデータベースまたはデータベースのバックアップからレポートを生成することができます。

レポートは、スキャニング装置によって測定されたカラーバーデータをレポート形式にまとめたものです。レポートは HTML 形式で作成され、インターネットエクスプローラや他のウェブブラウザで見ることができます。

レポートを使用して、システムのパフォーマンスを記録することができます。



スキャニングシステムの概要：レポートツール

ホーム

レポートツールの起動方法

レポートツールを起動するには、

1. ランチャー (Launcher) を起動し、[レポート] ボタンをタッチします。
2. [レポートツール] 画面が表示されます。[レポート] ボタンをタッチすると、レポートプロセスが開始されます。

レポートツールの使用方法

レポートを使用中のデータベースから作成するには、

1. [レポートツール] 画面で、レポート リストボックス内のボタンをタッチします。
 - プレスツールで実行されるジョブ全体のレポートを作成するには、[ジョブレポート] をタッチします。(注記：ジョブに本刷りシートがない場合は、「ジョブレポート」は生成されません。)
 - プレスツールで実行されるジョブの個々のシートに関するレポートを作成するには、[シートレポート] をタッチします。
[プロジェクトの選択] 画面が表示されます。

レポートをデータベースのバックアップから作成するには、

1. [レポートツール] 画面で、[リソースの変更] ボタンをタッチします。
 - [データベース選択] 画面で、データベースのリストボックスから対象データベースを選択し、[OK] ボタンをタッチします。
 - プレスツールで実行されるジョブ全体のレポートを作成するには、[ジョブレポート] をタッチします。(注記：ジョブに本刷りシートがない場合は、「ジョブレポート」は生成されません。)
 - プレスツールで実行されるジョブの個々のシートに関するレポートを作成するには、[シートレポート] をタッチします。
[プロジェクトの選択] 画面が表示されます。
2. プロジェクトテンプレート リストボックス内のボタンをタッチします。そのプロジェクトに関連付けられているジョブが ジョブ リストボックスに表示されます。
3. ジョブ リストボックス内のボタンをタッチしてジョブを選択します。[レポートオプション] 画面が表示されます。

注記：ステップ 1 で [ジョブレポート] を選択した場合は、[ジョブレポート オプション] 画面が表示されます。ステップ 1 で [シートレポート] を選択した場合は、[シートレポート オプション] 画面が表示されます。
4. レポートに含めたいデータのタイプを選択します。(デフォルトでは、すべてのタイプが選択されています。) 各データタイプの説明については、[レポートツール オプション] を参照してください。
5. レポートが作成されたら Web ブラウザで自動的に開くようにするには、[ブラウザでファイルを開く] チェックボックスを選択します。

6. [レポートの作成] をタッチします。Windows ダイアログボックスが表示され、ここでファイルの保存場所を参照することができます。
7. 必要に応じてレポートのデフォルト名を編集し、[保存] をタッチします。（ステップ 5 で [ブラウザでファイルを開く] チェックボックスを選択した場合は、ブラウザが起動し、レポートが表示されます。） [レポートが作成されました] というメッセージが表示されます。
8. [OK] をタッチします。[プロジェクトの選択] 画面が再び表示されます。

レポートツールのオプション

[レポートツール] のオプション画面では、レポートに含めたいデータのタイプを選択することができます。

この画面は、[ジョブの選択] 選択画面からジョブを選択すると自動的に表示されます。

[レポートツール] のオプション 画面に表示されるコントロールは次のとおりです。

データタイプ

- 濃度：基準値がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。ターゲットが吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。例えば、黒色ターゲットでは濃度値は高くなります。
- ΔE ：特定条件下における 2 つのオブジェクトの色の差の大きさと特性を表します。
- プリントコントラスト：画像内の明領域と暗領域間の範囲の大きさを示します。プリントコントラストは、シャドウ情報が維持される程度を表します。
- グレーネス：プロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。例えば、純粋なイエローに少量のブラックを加えても色相(色)は変化しませんが、グレーネスは増加します。
- グレーバランス：無彩色（色彩のない）印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。
- ドットゲイン：アミ点の太り。用紙の吸収力が高いほどドットゲインが多くなります。
- ヒューエラー：プロセスインキの色相のズレを指します。各インキには、その色（色相）を表す番号が付けられています。
- ブライトネス：用紙がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。用紙が反射する光が少ないほど、ブライトネス値が低くなります。例えば、黒色用紙のブライトネス値は低くなります。
- トラッピング：用紙に対するインキの塗着量と、そのインキの、既に印刷されている他のインキ上への塗着量の比を表します。用紙の状態に関連して、既に印刷されているインキが次に印刷されるインキをどの程度受け入れられるかを示します。

シート番号

シートのレポートを作成する場合は、このボタンにジョブのシート番号が表示されます。タッチするとダイアログボックスが開き、番号を編集できます。[OK] をタッチして変更内容を保存してください。

ブラウザでファイルを開く

このボタンを選択すると、レポート作成後すぐにレポートがブラウザに表示されます。

差分値および実測値

レポートに表示されている情報のタイプを示します。[差分値] または [実測値] をタッチし、データを表示します。

レポートを作成

このボタンをタッチしてレポートを作成すると Microsoft Windows ダイアログボックスが開き、ここでレポートファイルの場所を参照することができます

用語集

絶対白色

すべての絶対反射測定「基準白色」として使用される、既知のスペクトラル データがある白色です。分光色測計の校正時には、白色セラミックが絶対白色の基準として測定され、使用されます。

無彩色

色相のない、白、グレー、黒の無彩色を意味します。

アクション リミット

データの許容レベルです。測定結果がアクションリミット内だった場合、プレスツールで測定結果を表すバーは緑色に表示されます。データの許容レベルです。ターゲットの測定値がアクション リミットの許容範囲外であり、かつコントロール リミットの範囲内である場合、プレスツールに許容範囲ぎりぎりであることを示す黄色のインジケータが表示されます。

見え

寸法、形、色、模様、光沢、透明度、不透明度などの視覚的属性によって表現されるオブジェクトおよび素材の性質です。

属性

感覚、知覚、あるいは見えのモードによって区別される特性を意味します。色は一般に、色相、彩度、明度の属性によって描写されます。

類似色

色彩環で近接し、かつ調和している色を意味します。例えば、青と紫は類似色です。

ビジュアル アミ点面積率

濃度計で測定され、Murray-Davies 方程式で計算された、特定範囲内のアミ点面積率を意味します。

ビジュアル ドットゲイン

透過濃度計で測定されるフィルムのアミ点 % と、反射濃度計で測定されるプルーフまたは印刷シートのアミ点 % の差を意味します。元のフィルムのアミ点 % に対して、用紙上でアミ点がどの程度拡大しているか、または、拡大して見えるかを示します。

黒

反射光が一切なく、オブジェクトが光源からのすべての波長を吸収したときに生成される色を意味します。

ブライトネス

用紙がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。用紙が反射する光が少ないほど、ブライトネス値が低くなります。例えば、黒色用紙のブライトネス値は低くなります。

色彩

白、グレー、黒ではなく、色相のある色として知覚されるものです。

国際的組織の CIE (Commission Internationale de l' Eclairage)

国際照明委員会によって色および色測定が定義されています。

カラーバー (または 生産管理用カラーバー)

プレスシート上に印刷されるシアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、特色インキのベタパッチ；これらの色の 25%、50%、75%などのアミ点パッチ；各インキ色を使用した 2 色オーバープリント パッチなどで構成される一連のパッチ群。印刷作業者はこれらのパッチを測定して、ベタの濃度値、アミ点のドットゲイン値、オーバープリントのトラップ値を管理することができます。スラーやダブリングなどの他の症状をチェックするための特殊なパッチを含んだカラーバーもあります。

色差

特定条件下における 2 つのオブジェクトの色の差の大きさと特性を表します。

色温度

黒体オブジェクトが加熱されることによって放射される光の色の測定値です。この測定値は絶対温度 (K:ケルヴィン) 単位で表されます。2400° K などの低温は赤色、9300° K などの高温は青色となります。中間温度の 6504° K ではグレーとなります。

コントロール リミット

データの許容レベルです。データの許容レベルです。ターゲットの測定値がアクション リミットの許容範囲外であり、かつコントロール リミットの範囲内である場合、プレスツールに許容範囲ぎりぎりであることを示す黄色のインジケータが表示されます。ターゲットの測定値がコントロール リミットの許容範囲外にある場合、プレスツールに赤色のインジケータが表示されます。

シアン

印刷用のプロセスインキ色の一つです。純粋なシアンは「赤味のない」色で、光のすべての赤色波長を吸収し、すべての青色および緑色波長を反射します。

デルタ (Δ)

偏差を示すために使用される記号です。

デルタエラー (または ΔE)

特定条件下における 2 つのオブジェクトの色の差の大きさと特性を表します。色の色差管理では、色差計算式で算出される合計色差、すなわちデルタエラーを表す記号として ΔE の記号がよく用いられます。

濃度計

画像または色の濃度を測定する高感度光電装置です。

濃度

素材の光吸収度を表します。基準値がどの程度光を吸収する能力があるかを示します。ターゲットが吸収できる光が多いほど濃度値が高くなります。例えば、黒色ターゲットでは濃度値は高くなります。

ダッド

測定値が基準値と大きく異なるカラーバーのパッチです。装置がパッチの読み取りに失敗したか、パッチが汚れているか、あるいは不鮮明である可能性があります。

ドットゲイン

アミ点の太り。用紙の吸収力が高いほどドットゲインが多くなります。

染料

溶性着色剤。これに対してピグメントは不溶性の着色剤です。

ダイナミックレンジ

装置が測定できる最低値から最高値までの範囲を表します。

4 色プロセス

減法混色の原色であるシアン、マゼンタ、イエロー、およびブラック を用紙上にコンビネーション配置することを意味します。これらの着色剤が異なる寸法、形、角度のドットで付着することにより、多彩な色の再現が可能になります。

色域

色見本で再現できる、あるいは特定の装置によって生成できる色の範囲を意味します。

グレーバランス

無彩色のグレーを生成するシアン、マゼンタ、イエローの特定の組み合わせを意味します。無彩色（色彩のない）印象を与えるために、イエロー、マゼンタ、シアンがどの程度の分量で混合されているかを示します。

グレーネス

プロセスインキの無彩色成分の相対的混入量を指します。例えば、純粋なイエローに少量のブラックを加えても色相(色)は変化しませんが、グレーネスは増加します。

啞え

印刷機に最後に入る側のシートの端を意味します。

色相

「赤」、「緑」、「紫」など、基本的な色みを意味します。色相環における 角度によって定義されます。

ヒューエラー

プロセスインキの色相のズレを指します。各インキには、その色（色相）を表す番号が付けられています。

キー

印刷機のインキツボのロールの長さ方向に一定間隔に分割され、個々に独立してインキ量をコントロールできるエリアを表します。

明度

ある面がどれだけの光を放射または反射しているかに関する視覚的認識の属性です。同じ状態で照明された白色面の明るさを基準としたときの相対的な明るさを表します。

光源

装置あるいは視覚的観測環境における照明の要素です。

ルミナンス

CIE で使用されている色の明るさを表す用語です。CIE XYZ 色空間における Y 座標で表されます。

マゼンタ

印刷用のプロセスインキ色の一つです。純粋なマゼンタは「緑味のない」色で、光のすべての緑色波長を吸収し、すべての赤色および青色波長を反射します。

メイクレディ シート

印刷ジョブにおいて許容値に合わせるための調整期間に測定されたシートです。メイクレディシートが測定され、印刷機が調整されると、本刷りの準備が整います。プレスツールでは、「メイクレディ」が測定シートのステータスの初期設定になっています。

無彩色

色相のない色を意味します。白、グレー、黒がこれにあたります。

OK シート

印刷機を調整し、印刷を実行し、シートを測定しながら作成されるマスターシートです。プレスツールでは、OK シートの指定後には、このシート上のデータが、本刷りのすべてのシートの目標値となります。

オーバープリント

印刷シートのカラーバー上では、オーバープリントは 2 色のプロセスインキが重ねて印刷されるカラーパッチを意味します。これらのパッチの濃度を確認することで、印刷作業者はトラップ値を決定することができます。また、オーバープリントという言葉は、他の色の上に印刷されるオブジェクトを表すこともあります。

プリントコントラスト

画像内の明領域と暗領域間の範囲の大きさを示します。プリントコントラストは、シャドウ情報が維持される程度を表します。

本刷りシート

本刷りが許容値を満たしているかどうかをチェックするために使用される測定されたシートです。プレスツールでは、シートステータスを「本刷り」に設定すると、その後に測定されるすべてのシートが本刷りシートに設定されます。プレスツールでは、シートステータスを「本刷り」に設定すると、その後に測定されるすべてのシートがデフォルトで本刷りシートにセットされます。

プロファイル機能

ソフトウェアでサポートされている測定用カラーパッチの測定／プロファイル作成を行うことで、モニタ上の色と、シートに印刷される色のマッチングをとることが可能になります。例えば、デジタルプルーフ環境でプロファイル機能を使用することができます。また、印刷物とデジタルプルーフのマッチングをとることにより、1 枚のシートを印刷するだけでクライアントの承認を得ることができるようになります。

プロジェクトテンプレート

ジョブに使用される印刷機条件、インキ、カラーバー、基準値、許容値、プロファイル、用紙を定義します。プロジェクトテンプレートを選択すると、ジョブの基本要件が全て定義されます。

反射濃度計

用紙上のインキなど、基材の表面から反射される光の量を測定する装置です。

飽和度

同一の明るさのグレーからの逸脱量を表す色の知覚の属性です。広義にクロマ（彩度）と同様に用いられることがあります。

刷り順

印刷機によって用紙に印刷されるインキの順序です。

分光曲線

色の「指紋」です。色の分光データをグラフ化した視覚表現です。分光曲線は、反射率を表す縦軸と、波長の可視域の分光波長を表す横軸で構成される方眼上に描かれます。反射光の反射率% で各波長の値が置点され、それらの点をつなげることで曲線が形成されます。

分光データ

オブジェクトの色を最も厳密に表したものです。オブジェクトの色の見え方は、オブジェクトによって見る人に反射される光の成分が変化することによって決定されます。分光データは、入射した光が反射によってどのように変化したかを表すものです。反射光の分光反射率%は、全可視波長域にわたり、間隔をおいて測定されます。この情報は、分光曲線としてグラフによって視覚的に表現することができます。

分光色測計

分光データで表される、オブジェクトからの反射される変化した光の特性を測定する装置です。

基準色

承認され、定められた基準の値。これに基づいてサンプルの測定値が評価されます。

紙尻（喰え尻）

印刷機に最後に入る側のシートの端を意味します。

基準値

カラーバー上のインキ、用紙、グレーバランス、あるいはオーバープリントを意味します。

許容値

あらかじめ設定されている基準値と、測定されたサンプル群との差の許容量です。色測定は、 ΔE 色差で評価されます。

中間色

プレスシートのカラーバー上で、25%、50%、75% トーンといったベタインキのアミ点による中間調のパッチです。フィルムの間色はアミ点面積率を決定するために測定され、用紙の間色はドットゲインを決定するために測定され、フィルムと比較されます。

トラッピング

用紙に対するインキの塗着量と、そのインキの、既に印刷されている他のインキ上への塗着量の比を表します。用紙の状態に関連して、既に印刷されているインキが次に印刷されるインキをどの程度受け入れられるかを示します。

白色光

理論的には、可視スペクトラムのすべての波長を同一の強度で放出する光を意味します。実際には、このような光を発生される光源はほとんどありません。

イエロー

印刷用のプロセスインキ色の一つです。純粋なイエローは「青味のない」色で、光のすべての青色波長を吸収し、すべての赤色および緑色波長を反射します。